

柳之御所遺跡

第73次発掘調査概報

2013

岩手県教育委員会

岩手県文化財調査報告書第137集
平泉遺跡群発掘調査報告書

柳之御所遺跡

第73次発掘調査概報

2013

岩手県教育委員会

序

平泉町に所在する柳之御所遺跡は、平安時代末期の約100年間にわたり北方の王者として繁栄を誇った奥州藤原氏の残した遺跡で、特別史跡中尊寺境内、特別史跡毛越寺境内附鎮守社跡、特別史跡無量光院跡などの文化財と並び、当時の平泉の核をなしていた遺跡の一つであります。本遺跡は、昭和63年から(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター、平泉町教育委員会が実施した一級河川北上川上流改修一関遊水地事業及び国道4号改修平泉バイパス建設事業に伴う緊急発掘調査により、大規模な掘立柱建物跡・園池跡・堀跡などが確認され、また、膨大な量のかわけや各種木製品など、質・量ともに卓越した遺物が出土いたしました。これらの豊富な遺構・遺物により、本遺跡が『吾妻鏡』に記された「平泉館」であることが指摘されています。

このような経過のなかで、遺跡に対する建設省（現国土交通省）のご理解により、平成5年には遺跡の保存が決定し、平成9年3月に『柳之御所遺跡』として国の史跡に指定されました。県では、本遺跡が国民共有の貴重な財産であるとの認識から、史跡公園として整備して後世に伝えるとともに、広く活用していきたいと考え、平成10年度から史跡整備に向けた発掘調査を実施してきました。史跡公園の公開も進み、これまで多くの方々にご来園いただいております。

また、平成23年に「平泉の文化遺産」が世界遺産に登録されました。残念ながら柳之御所遺跡は登録からは漏れてしまいましたが、その後平成24年に改めて暫定リストに登載されています。今後は本遺跡をはじめ未登録の遺跡についても、その価値評価にむけて活動を展開していく所存であります。

最後に、発掘調査の実施と報告書作成に当たり、ご指導・ご協力を賜りました平泉遺跡群調査整備指導委員会の先生方、文化庁記念物課、(公財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター、平泉町教育委員会、国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所をはじめ関係各位に深く感謝申し上げますとともに、本書が平泉文化研究発展の一助になれば幸いです。

平成25年3月

岩手県教育委員会

教育長 菅 野 洋 樹

例 言

1. 本書は、岩手県教育委員会が平成23年度に実施した柳之御所遺跡整備調査事業に係る、史跡柳之御所遺跡の発掘調査の概要報告である。調査期間は平成23年6月1日から10月31日である。
2. 本事業は、岩手県教育委員会事務局生涯学習文化課が主体となり、(公財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターの協力を得て実施した。
3. 遺構の呼称は、昭和63年度に(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターが実施した調査時の方法に準拠し、下記の略称を使用し、本書でも記載している。遺構名の記載については遺構略号の前に調査次数を付してある。なお、複数年次にわたる調査で明らかに同一と認定される遺構については当初の調査時の遺構名を継続して使用した。

SA：堀・柱列 SB：掘立柱建物 SC：道路状遺構 SD：溝・堀

SE：井戸・井戸状遺構 SG：園池 SK：土坑・柱穴の一部 SX：その他

SI：竪穴住居 P：柱穴

例：73SK1 第73次調査の第1号土坑

4. 図版、写真図版、遺物観察表中の遺物番号は共通である。遺物の実測図については一部を除いて縮尺を1/3を基本にし、スケールを図中に表示した。遺構遺物写真については縮尺不定である。
5. 本書の編集・執筆は生涯学習文化課柳之御所担当で協議の上、村田 淳・櫻井友梓が行った。執筆分担は、各項目の文末に記載している。
6. 調査成果の一部については、平泉遺跡群調査整備指導委員会等で公表してきたが、本書の内容が優先するものである。
7. 遺構の埋土観察、遺物の色調観察に際しては、『新版標準土色帖』を参考にした。
8. 自然科学分析についてはパリノ・サーヴェイ株式会社への分析委託により実施したものである。
9. 後述する平泉遺跡群調査整備指導委員会の先生方をはじめとして、下記の方々・機関の御協力を得た。

相原康二 安達訓仁 伊藤博幸 井上雅孝 及川 司 及川真紀 島原弘征 鈴木弘太

高橋千晶 西野 修 羽柴直人 古川一明 本澤慎輔 前川佳代 八重樫忠郎 八木光則

(50音順：敬称略)

岩手県立博物館 (公財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 平泉町文化遺産センター
文化庁記念物課

10. 本事業に係る調査で得られた諸記録及び出土遺物は、岩手県教育委員会が保管している。

目 次

I 序 論	1
1 遺跡の位置と調査経緯	1
2 調査計画及び平泉遺跡群調査整備指導委員会	1
3 今年度の調査	4
II 調 査 内 容	8
1 本 調 査 区	8
(1) 調 査 の 概 要	8
(2) 検 出 遺 構	10
(3) 出 土 遺 物	28
2 試 掘 調 査 区	39
III 自然科学分析	45
I 放射炭素年代測定	45
II 樹 種 同 定	46
IV 総 括	49
V 付章 柳之御所遺跡出土資料の再整理（中間報告1）	64

図 版 目 次

図版1 遺構 調査区全景	図版14 遺構 試掘調査区
図版2 遺構 72SD1	図版15 遺物 かわらけ①
図版3 遺構 72SD2①	図版16 遺物 かわらけ②
図版4 遺構 72SD2②	図版17 遺物 かわらけ③
図版5 遺構 72SD2③	図版18 遺物 かわらけ④
図版6 遺構 51-43トレンチ	図版19 遺物 かわらけ⑤
図版7 遺構 73P1～3	図版20 遺物 かわらけ⑥・輸入陶磁器
図版8 遺構 73SK1・2	図版21 遺物 国産陶器①
図版9 遺構 73SK2・6、P4	図版22 遺物 国産陶器②
図版10 遺構 73SX1①	図版23 遺物 国産陶器③
図版11 遺構 73SX1②、73SD3～5	図版24 遺物 国産陶器④
図版12 遺構 73SD3～5・7	図版25 遺物 国産陶器⑤
図版13 遺構 73SD1・7	図版26 遺物 国産陶器⑥・瓦

挿 図 目 次

図 1	遺跡位置図	図21	72SD2出土土器類実測図 2	33
図 2	調査区位置図	図22	72SD2出土土器類実測図 3	34
図 3	遺構配置図	図23	72SD2出土土器類実測図 4	35
図 4	調査区西側遺物取り上げ区割図	図24	72SD2出土土器類実測図 5	36
図 5	72SD1平面図	図25	72SD2出土土器類実測図 6	37
図 6	72SD1・2遺物取り上げ区割図	図26	72SD2・その他遺構出土土器類実測図	38
図 7	72SD2平面図	図27	遺構外出土土器類実測図 1	40
図 8	72SD2断面図	図28	遺構外出土土器類実測図 2	41
図 9	51-43トレンチ平面・断面図	図29	遺構外出土土器類実測図 3	42
図10	73P1・2平面・断面図	図30	遺構外出土土器類実測図 4	43
図11	72SD2遺物出土状況図	図31	遺構外出土土器類実測図 5	44
図12	73SK1・2平面・断面図	図32	試掘調査区平面図・出土土器実測図	44
図13	73SK6・P4平面・断面図	図33	木材断面図	48
図14	73SX1平面・断面図	図34	道路遺構分布図	51
図15	73SX1断面図	図35	文字資料出土遺構分布図	65
図16	73SD1・3～5・7平面図	図36	文字資料出土遺構図 1	74
図17	73SD1・3～5・7断面図	図37	文字資料出土遺構図 2	75
図18	72SD1出土土器類実測図 1	図38	文字資料出土遺構図 3	76
図19	72SD1出土土器類実測図 2	図39	文字資料出土遺構図 4	77
図20	72SD2出土土器類実測図 1			

挿 表 目 次

表 1	発掘調査年次計画	表 8	遺物観察表（かわらけ）	53
表 2	平泉遺跡群調査整備指導委員名簿	表 9	遺物観察表（国産陶器）	57
表 3	平成23年度指導委員会協議事項	表10	遺物観察表（輸入陶磁器）	62
表 4	73次調査出土遺物数量表	表11	遺物観察表（瓦）	62
表 5	放射性炭素年代測定及び暦年較正結果	表12	遺物観察表（土製品）	63
表 6	樹種同定結果	表13	文字資料出土遺構一覧	73
表 7	柳之御所遺跡道路遺構一覧			

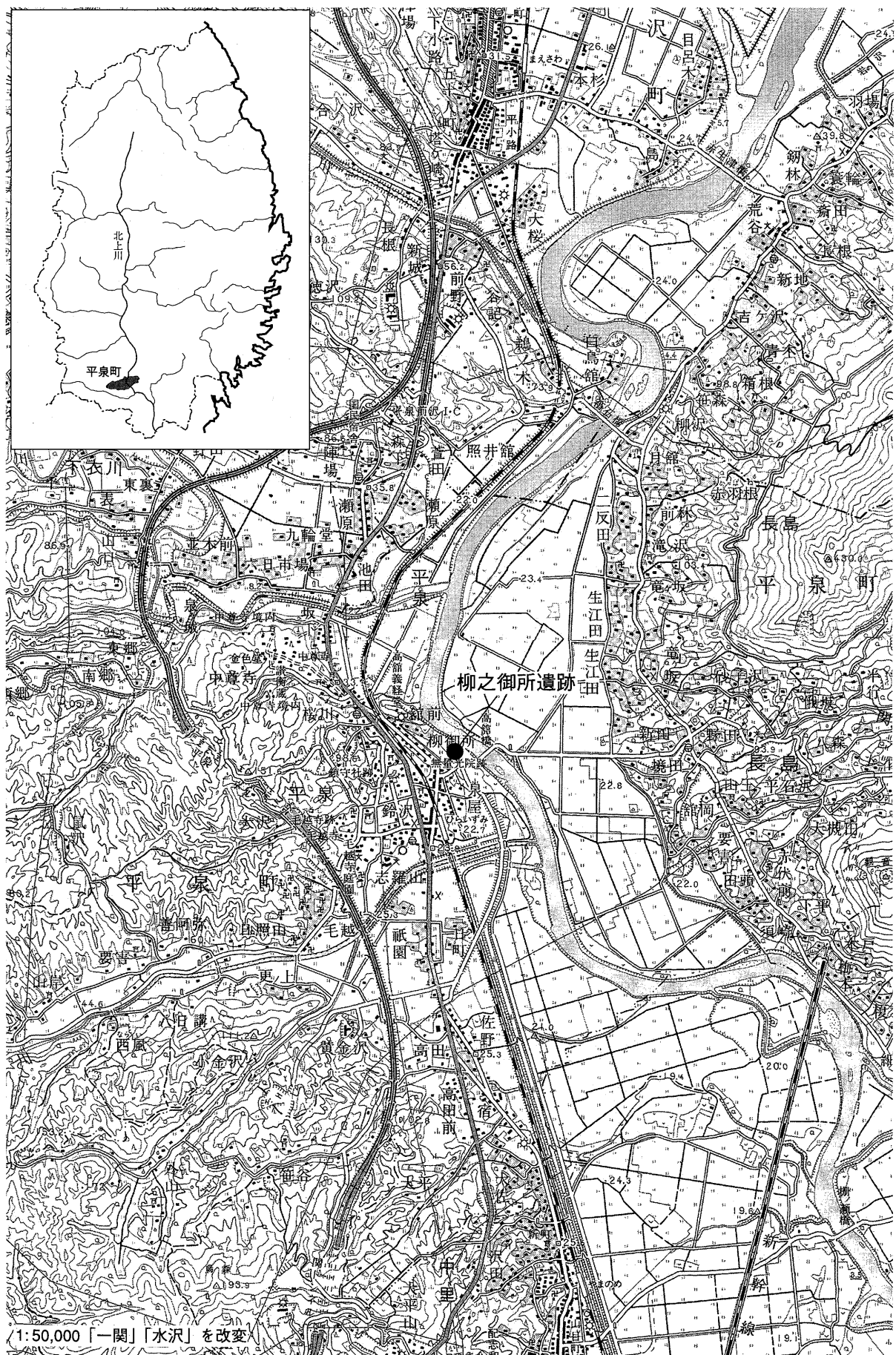


図1 遺跡位置図

I 序 論

1 遺跡の位置と調査経緯

柳之御所遺跡は、岩手県西磐井郡平泉町平泉字柳御所に所在し、緯度・経度は北緯38度59分28秒、東経141度7分35秒（日本測地系）である（図1）。遺跡の背後（北東側）には高館の丘陵、東に北上川、西から南にかけて猫間が淵と呼称される低地によって区切られた河岸段丘上に立地する。遺跡内の標高は南側で25.3m、中心部で27m、北側で32mであり、北西側が高く、南東側に傾斜している。北上川に接しているため遺跡の一部は浸食されたと考えられるが、本来の形状は不明である。遺跡の範囲は調査前には住宅地と田畑があった場所で、緊急調査後に岩手県による公有地化が行われている。

遺跡は一関遊水地事業や国道4号バイパス事業に伴い、大規模な発掘調査が行われ、内容が明らかになるにつれその価値が高く評価されることとなった（岩手県埋蔵文化財センター1995）。それを受けて遺跡の保存運動が高まり、建設省（現在の国土交通省）や関係機関の尽力により遺跡の保存が決定し、治水と遺跡保護との両立が図られることとなった。その後、平成9年に史跡指定され、以降順次史跡範囲を広げながら現在に至っている。岩手県教育委員会では遺跡が国の史跡に指定されたことから、史跡公園として整備し保存活用を図るため、文化庁及び柳之御所遺跡調査研究指導委員会（現平泉遺跡群調査整備指導委員会）の指導助言を得て、平成10年度から主に未調査区域を対象とした内容確認の発掘調査を計画し、継続して実施している。調査は堀内部地区を中心に行ってきた。これらの調査により、堀内部地区の大部分が調査され、性格が明らかになりつつあるほか、遺構や遺物の両面から研究が深化している。なお、柳之御所遺跡堀内部地区は、平成22年より史跡公園として公開を行い、現在も史跡整備工事を継続している。

柳之御所遺跡の周辺には、西には隣接して猫間が淵跡、無量光院跡が位置し、北には高館跡、南には伽羅御所跡が接している。無量光院跡はこれまでの発掘調査で、宇治平等院と類似しつつも異なる伽藍の内容が確認されている。伽羅御所跡は地名から『吾妻鏡』に記載される伽羅御所に比定される見解もある。これまで複数の地点で調査が行われ、貴重な遺物も出土しているが、小規模の発掘調査にとどまり明確に示すものは確認されていない。平泉町内ではこの他に志羅山遺跡や泉屋遺跡、倉町遺跡といった当時の平泉の街並みに関連する遺跡が調査されている。北上川を挟んだ東岸域や衣川を挟んで北側の奥州市接待館遺跡、白鳥館遺跡などの調査も行われており、当時の平泉やその周辺域を視野に入れた検討が行われてきている。

2 調査計画及び平泉遺跡群調査整備指導委員会

岩手県教育委員会では柳之御所遺跡の調査を3カ年ずつ計画を立て進めている（表1）。平成23年度調査（73次）は第5次3カ年計画の2年目にあたる。第5次3カ年計画は堀跡を中心に発掘調査を行い、堀跡や堀内部地区への導入施設などの検討と整備に関わるデータ収集を主な目的とした。なお、平成24年度も堀内部地区北端部周辺の調査を行っており、堀跡を中心として遺構や導入施設の有無や様相の確認を主な目的としている。第5次3カ年計画では北端部周辺の堀跡を中心に調査を行い、第6次3カ年計画では遺跡の南側を含む堀跡周辺の調査へと進めていく予定である。これまでの計画と今後の計画については表2に示した。調査整備にあたっては平成10年度から「柳之御所遺跡調査研究指導委員会」を設置し、柳之御所遺跡及び平泉遺跡群の発掘調査及び調査研究に対して指導助言を得てきた。平成12年に「平泉の文化遺産」が世界文化遺産の暫定リストに追加登載されたことから、会

表1 発掘調査年次計画

	年 次	調査回数	調 査 内 容 等	調査面積	調査期間	備 考
第1次三カ年計画	平成10年度 第49次		・堀内部地内の中心建物群、特に最大建物である南北棟4間9間42SB1(28SB4と一部重複)の東側地区の解明。	500㎡	5月15日 ～10月31日	国庫補助
			・23次調査時の23SB2建物跡の延長確認。			
			・23SA3柱列跡、23SA1堀跡の延長確認。			
			・48SB1建物跡の延長確認と所属時期の検討。			
	平成11年度 第50次		・池跡及び中心建物群を囲む23SA1堀跡の追跡。	1,800㎡	5月13日 ～10月31日	国庫補助
			・4間9間の南北棟の東側の状況及び建物群の伸長。			
			・42SD1大溝とされていた遺構の時期及び伸展状況追跡。			
			・37次、42次の内容確認調査に確認されていた溝・堀類の時期及び伸展状況の把握。			
	平成12年度 第52次		・堀内部地区、中心建物群の西側及び北西側地域の解明。	2,500㎡	5月15日 ～11月17日	国庫補助
			・祭祀遺構周辺地域の解明。			
			・無量光院との対峙地域の解明。			
			・堀外部地区から延長すると推定される道路遺構の解明。			
第2次三カ年計画	平成13年度 第55次		・中心建物群の北側地区の解明。	3,100㎡	5月11日 ～11月13日	国庫補助
			・中心建物群を囲むと推定される堀跡の検出。			
			・堀外部地区から延長すると推定される道路遺構の解明。			
			・現存する微高地状の高まりの性格把握。			
			・北上川縁地域の状況把握。			
	平成14年度 第56次		・第52次発掘調査の際に検出された大規模な堀(内堀)と張出施設を伴う溝の追跡。	4,000㎡	5月13日 ～11月29日	国庫補助
			・北上川右岸縁での大型建物の展開の把握。			
			・遺跡を二分する外堀の追跡。			
	平成15年度 第57次		・旧池跡の規模と造成時期の把握。	4,000㎡	4月14日 ～10月31日	国庫補助
			・遺跡中核を囲う堀の追跡調査及び門跡の確認。			
			・高館南側裾部分未調査地域の遺構分布の確認。			
第3次三カ年計画	平成16年度 第59次		・中心建物群の規模と新旧関係の解明。	3,500㎡	5月10日 ～10月31日	国庫補助
			・園池北部の構造及び規模と造成時期の把握。			
			・北上川縁地域の状況把握。			
	平成17年度 第64次		・園池の構造及び規模と造成時期の把握。	2,500㎡	4月15日 ～9月30日	国庫補助
			・池跡から東側への建物等の展開状況の確認。			
	平成18年度 第65次		・遺跡中核を囲う堀の追跡調査及び門跡及び道路遺構の確認。 ・既調査区の再検証。	1,500㎡	5月8日 ～10月31日	国庫補助
第4次三カ年計画	平成19年度 第68次		・道路遺構(21SC1)及び堀跡(23SA1)の延長確認。 ・遺跡南端外堀の有無の確認。	1,200㎡	5月7日 ～10月15日	国庫補助
	平成20年度 第69次		・遺跡を区画する二重堀の構造や構築時期の特定。 ・既調査で一部確認されている橋跡の追跡調査。	1,100㎡	5月7日 ～12月10日	国庫補助
	平成21年度 第70次		・堀内部北部のトイレ状遺構の分布。	1,100㎡	5月8日 ～10月31日	国庫補助
			・堀内部北端部の構造確認。			
	平成22年度 第72次		・遺跡北端部の堀の延長確認。	1,100㎡	5月11日 ～9月30日	国庫補助
			・堀内部北端部の様相確認。			
第5次三カ年計画	平成23年度 第73次		・堀内部と堀外部との導入施設の確認。	1,100㎡	6月1日 ～10月31日	国庫補助
			・堀跡の延長確認。			
	平成24年度 第74次		・堀内部地区の道路の延長の確認。	1,100㎡	6月1日 ～10月31日	
			・堀内部と堀外部の導入施設周辺域の確認。			

※ 第51次・53次・54次・58次・60～63次・66次・71次調査は平泉町教育委員会が実施。

の名称を「柳之御所遺跡調査整備指導委員会」に改め、平成15年度は世界遺産本登録に向けた周辺遺跡の検討の必要性から「平泉遺跡群調査整備指導委員会」と改称した(表2)。平成23年度の委員会・専門部会は表3の通り開催した。

表2 平泉遺跡群調査整備指導委員名簿

(平成23年4月現在、役職は当時)

氏 名	役 職	専門部会
入間田宣夫	東北芸術工科大学教授	整備
遠藤セツ子	メビウスの会事務局	整備
○岡田 茂弘	独立行政法人国立歴史民俗博物館名誉教授	保存・整備
小野 正敏	独立行政法人人間文化研究機構理事	遺構
坂井 秀弥	奈良大学教授	遺構
斉藤 利男	弘前大学教授	遺構
佐藤 信	東京大学教授	保存・整備
清水 擴	東京工芸大学名誉教授	遺構
清水 真一	徳島文理大学教授	遺構
関宮 治良	前平泉町商工会事務局長	整備
田中 哲雄	元東北芸術工科大学教授	保存・整備
◎田辺 征夫	独立行政法人文化財機構奈良文化財研究所長	遺構
玉井 哲雄	独立行政法人国立歴史民俗博物館教授	遺構
西村 幸夫	東京大学教授	保存

※ ◎委員長 ◎副委員長 遺構：遺構検討部会、保存：保存管理計画検討部会、整備：整備検討部会

表3 平成23年度指導委員会協議事項

回	日 時	内 容
遺構・整備部会	23.7.20	東日本大震災による調査整備計画の修正について
		今年度の調査整備の内容について
		平泉遺跡群の調査整備について（無量光院跡の整備）
第1回委員会	23.9.15～16	今年度の調査について
		今年度の整備について（植栽、看板等について）
		平成24年度柳之御所史跡公園の整備について
		平泉遺跡群の調査整備について（無量光院跡の整備）
遺構・整備部会	23.12.22	今年度の整備工事について
		来年度以降の整備計画について
		橋跡の整備検討について
		看板等の整備について
		汚物廃棄穴の整備について
		無量光院跡の調査状況、整備計画について
保存管理部会	23.12.22	世界遺産に係る資産影響評価
第2回委員会	24.2.16～17	今年度の整備について
		今後の柳之御所遺跡の整備計画について
		汚物廃棄穴の整備について
		無量光院跡の調査状況、整備計画について
		平泉遺跡群の今年度の調査成果について
		世界遺産に係る資産影響評価

3 今年度の調査 (図2)

(1) 調査体制

〈岩手県教育委員会事務局〉

生涯学習文化課総括課長	錦 泰司 (H24.3.31まで)
生涯学習文化課総括課長	西村 文彦 (H24.4. 1から)
文化財・世界遺産課長	中村 英俊 (H24.3.31まで)
世界遺産担当課長	菊池 修一 (H24.4. 1から)
主任主査(柳之御所担当)	鎌田 勉
文化財専門員(柳之御所担当)	戸根 貴之 (H24.3.31まで)
文化財調査員(柳之御所担当)	佐藤 郁哉 (H24.4. 1から)
文化財調査員(柳之御所担当)	櫻井 友梓

〈(公財) 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター〉

所 長	渡邊 和男
文化財調査員	村田 淳

(2) 調査区の位置と調査目的

平成23年度調査(73次)は遺跡北端部の未調査範囲を主な対象とした(図2)。この範囲はこれまで未調査の範囲で遺構の分布状況等に不明な点が多い。72次調査(平成22年度)で岩手県教育委員会が調査した範囲と隣接し、その南側に位置する。72次調査では内側と外側の2条の堀跡(それぞれ72SD1、72SD2)や掘立柱建物跡、柵列を確認した。72SD1と72SD2が平行して南北方向に走り、72SD2は地形の改変を受けて上面が削られたと考えられる。堆積の様相には差が大きく、出土遺物の特徴からも2条の堀跡の差が目立つ。

今回の調査区はこれらの堀跡が続くことが予想されることから、その規模や走向を確認することを目的とする。2条の堀跡については遺跡南側での調査が先行して進展してきており、北端部周辺の様相に不明確な点が多いことから、72次調査と連続した範囲を対象に時期的な検討の材料を得ることや平面及び断面形状を確認することなどを目的としている。

また、今回の調査範囲は未調査範囲が多いものの、地形的に高館方向から延びる丘陵部の延長にあたることが注目されてきた。あわせて堀外部で確認されている中尊寺方向へと向かう道路跡の延長方向にあたり、その延長部分の確認が課題となっていた。これらから、この周辺に堀の内部と外部との結節点を想定する見解もあった。一方で、堀内部と外部で確認されている道路跡の延長では不整合が存在し、その関連が課題となっていた。今回の調査では、これらを含めた周辺の様相の確認を目的としている。

なお、調査は遺構の分布や所属時期の確定、遺構の性格等を把握することを目的としているが、遺構の保存のために、精査の際の掘削は必要最小限にとどめている。なお、調査終了後は、調査区全体と一部の掘削を行った遺構についてはいずれも砂の埋め戻しによる保護層を確保した上で調査以前の地形と合わせて埋め戻しを行い、遺構の保護を図っている。

(3) 調査の方法

グリッド

柳之御所遺跡の調査に際しては、遺構の測量や遺物の取り上げなどの作業に際し、基準としてグリッドを設定している。このグリッドは(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターが1988年から始まる緊急調査に際し平泉町教育委員会と協議のうえ設定したものである(岩手県埋蔵文化財センター1995)。平面直角座標第X系(日本測地系)をもとにした5×5 mグリッドで、南北方向の基準線に対し真北は、西に0° 11′振れる。遺跡範囲の北西端辺りが原点(0, 0)となる。

なお、49次調査まではグリッドの呼称をX座標方向、Y座標方向の順にしていたが、50次調査以降、その順を逆転させY座標方向、X座標方向の順で呼称・記載している。混乱を最小限にとどめるため、本書においてもこの方式を採用し、たとえば66-70(Y-X)グリッドならばX軸方向が70、Y軸方向が66を示している。以下の記載についてはこのグリッドによって調査を行い、遺物の取り上げも、近現代の改変による耕作土の出土遺物等を一部除いて、基本的にこのグリッドによって行っている。

表土掘削・遺構検出

今回の調査では、昨年度の調査で表土の厚さを確認していた範囲については、バックホーを使い、表土を除去した。また、表土が薄いことが想定された以前の宅地部分の範囲については人力で表土除去を行った。表土の除去後は遺構の検出を、鋤簾などの道具を使用して確認調査(検出作業)を行った。

遺構精査・記録

検出作業によって確認された遺構については、遺跡保護のため基本的には掘削を伴う精査は行っていない。しかし、一部の遺構については遺構の年代把握や遺物検討のために、半裁等によって土層観察を行い、遺構の断面を記録した。平面図の実測は5 mグリッドを分割した1 m×1 mのメッシュを使用して手作業で行った。今次の調査で検出された遺構はもちろんであるが、既知の遺構についても、検出したものについてはあらためて平面図の作成を行っている。写真については6×7版カメラ(モノクロ)を中心に、デジタルカメラを併用して撮影を行った。調査区全景写真撮影に際しては高所作業車を使用して、調査員が撮影を行っている。

遺構名称

今次調査における遺構名は新規の遺構については頭に今回の調査次数である73を付して既述の遺構略号を使用した(例.73SK○○)、72次調査で確認された遺構と同一であることが想定できる遺構については旧番号(既調査で命名)を本書においても使用している。

整理作業

野外調査終了後の平成23年11月1日から平成24年3月31日まで行った。遺物は水洗後に注記→接合→実測→トレース→図版作成→写真撮影の順で作業を行った。遺構については点検、合成の後、必要に応じて第2原図を作成し、その後トレース→図版作成の順で作業を行った。

記載内容

この報告では、今次の調査で検出した遺構と既知の遺構でも精査の際に半裁した遺構について記載している。また、新たに精査した柱穴が含まれる建物跡や新たな知見が得られた遺構についても記載している。

普及活動

普及活動の一環として、野外調査の全容がほぼ明らかとなった10月1日に現地説明会を行った。晴天に恵まれ、約100名の参加者を得た。そのほかに、遺跡を訪れる観光客や小中学校の見学などに対して、必要に応じて随時現場を公開した。

(櫻井)

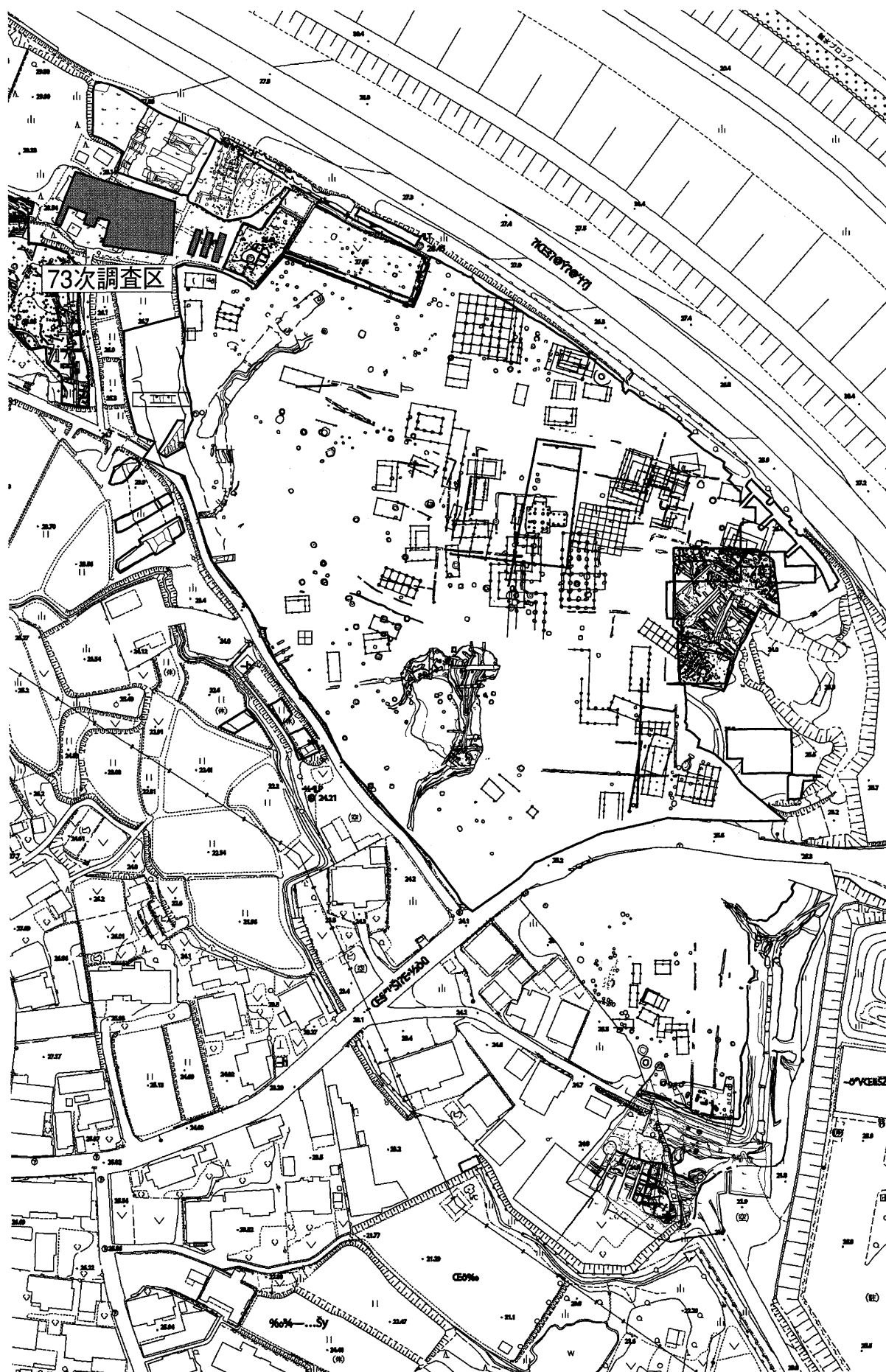


図2 調査区位置図

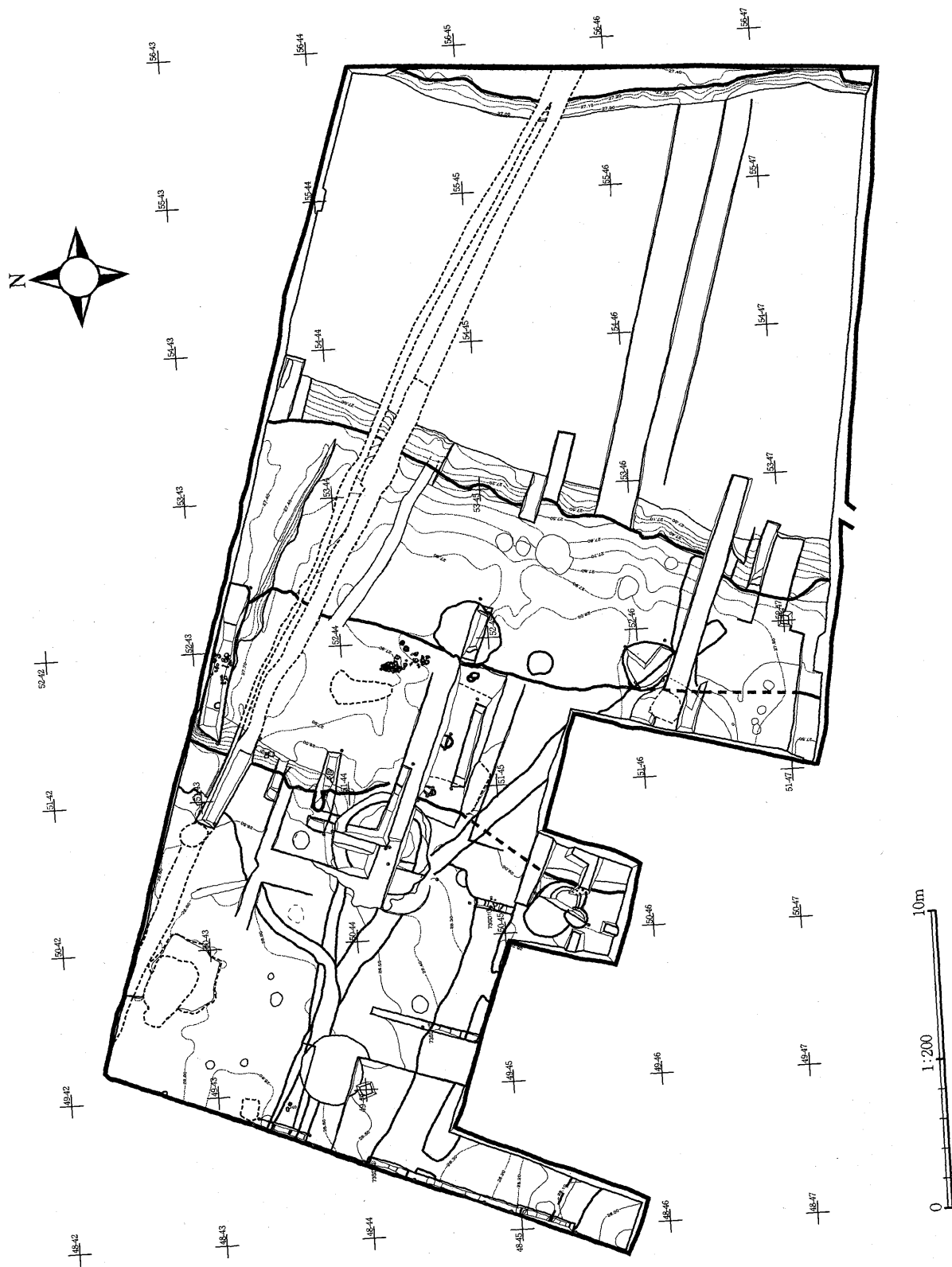


図3 遺構配置図

Ⅱ 調 査 内 容

1 本 調 査 区

(1) 調 査 の 概 要

今回の調査区は平成22年度に実施した72次調査区の南側に隣接する。49-42グリッドから55-47グリッドにかけて設定した調査区で、調査対象面積は1,100m²である。公有地化以前の状況は宅地及び畑地である。現況地形は西側が高く、調査区中央付近から東側に向かって緩やかに傾斜している。

今回の調査は、72次調査区で検出された2条の堀跡72SD1・72SD2の延長上にあたると思われることから、その規模と走行方向の確認を第一の目的とする。また、堀内部地区と外部地区の結節点にあたることから、堀外部地区から内部地区へ至る導入施設である道路や橋等の検出を第二の目的としている。

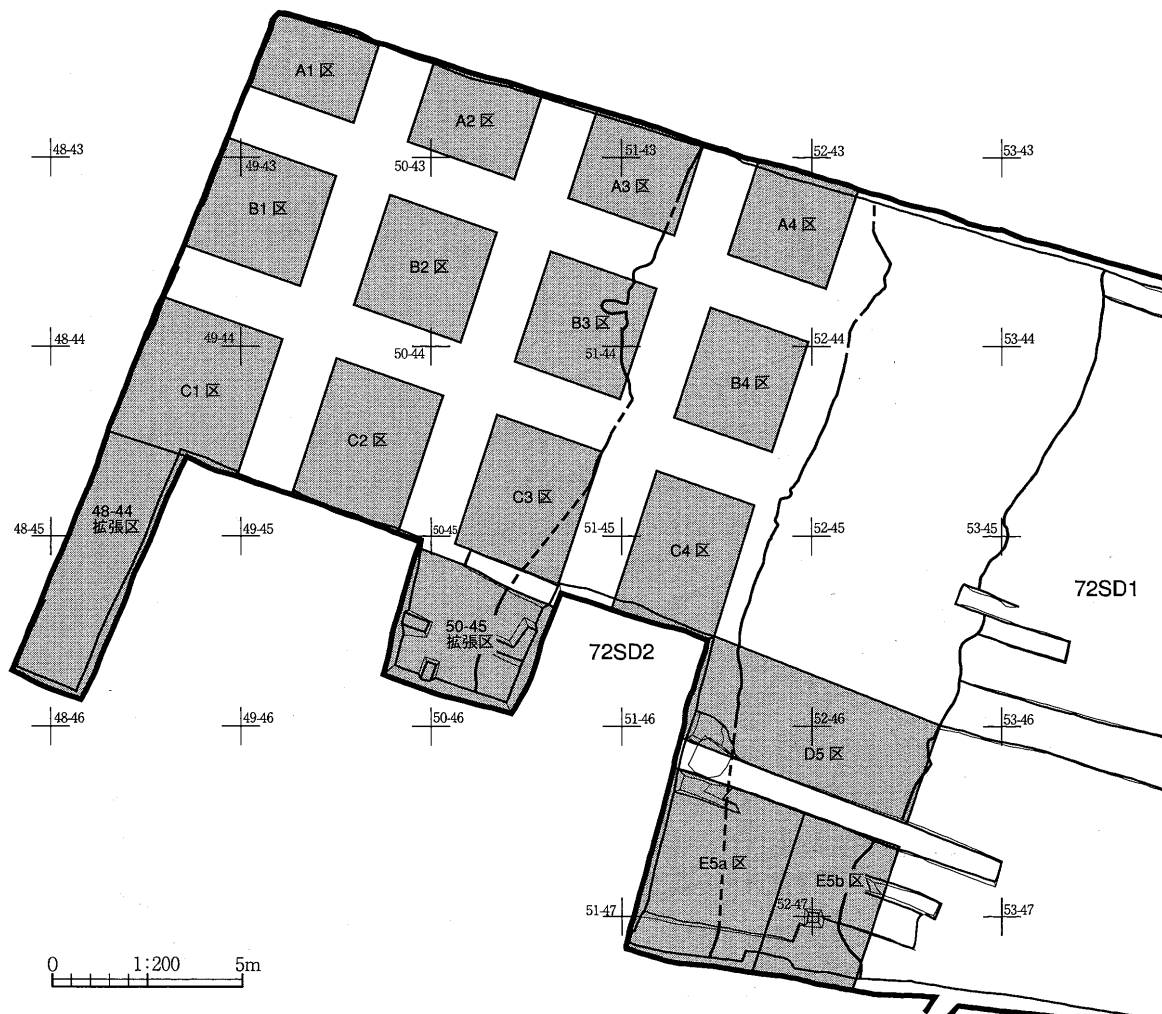


図4 調査区西側遺物取り上げ区割図

1 本調査区

調査区内は、宅地であったこともあり造成による攪乱と削平が著しい。検出面までの層序は、調査区中央から東側（72SD1 直上）にかけては表土（Ⅰ層）と近現代の盛土の直下で黄色粘土・砂の地山となるが、調査区西側はⅠ層の直下に近世以降の堆積と考えられる暗褐色土（Ⅱ層）が確認されており（図17 73SD3～5断面図参照）、Ⅱ層の直下で地山となる。そのため、調査区中央から西側についてはグリッド杭敷設前には調査区と地形に沿って区画を設定してⅡ層から人力で掘り下げを行っている（図4）。遺構はほとんどが地山面で検出されているが、73SD1等の一部の遺構はⅡ層中で検出している。また、調査途中に、道路側溝と考えられる73SD4に対応する溝の有無を確認するために48-44グリッド内に、橋脚の可能性のある柱穴の有無を確認するために50-44グリッド内に拡張区を設けて調査を行っている。

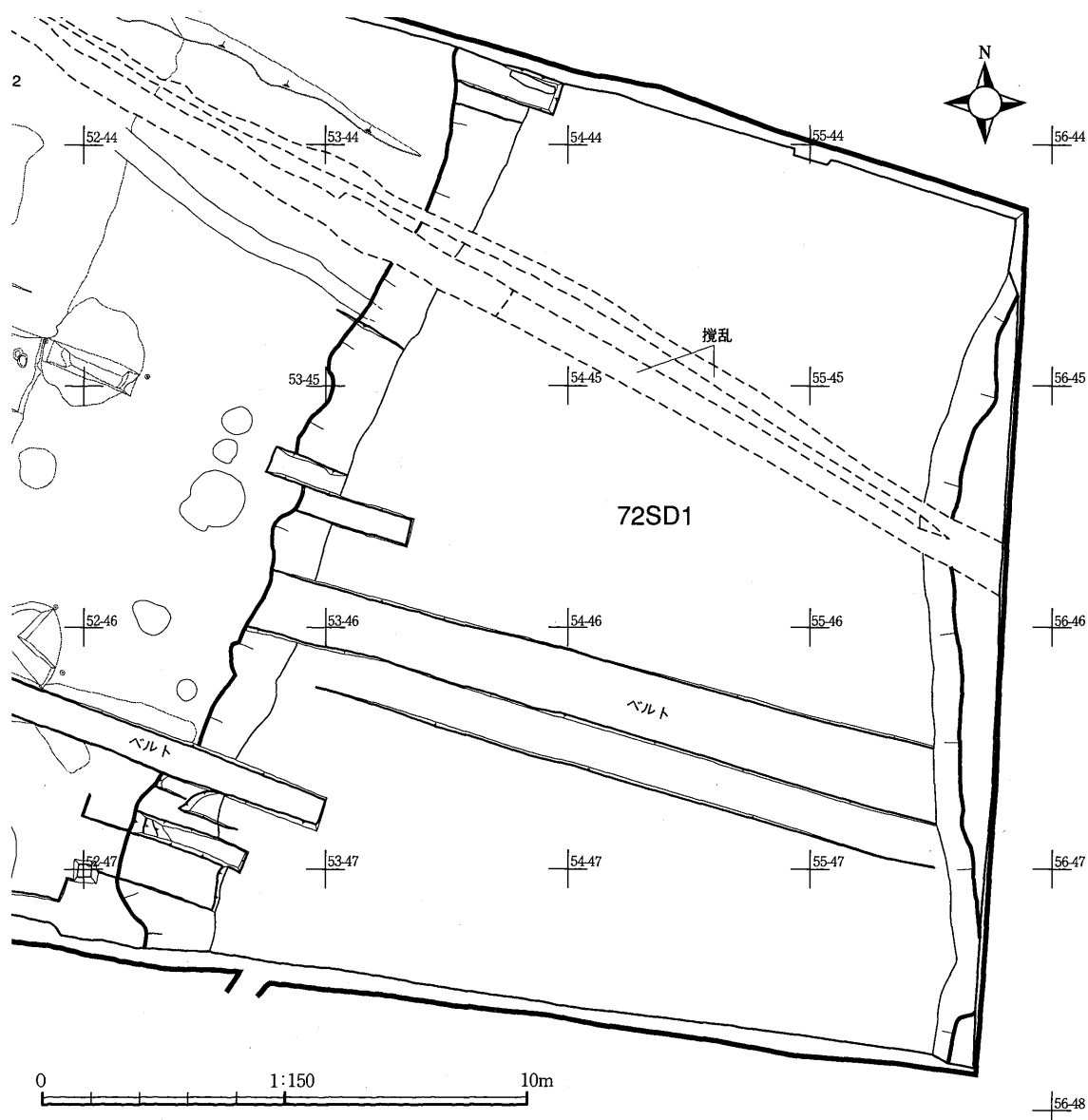


図5 72SD1平面図

今回の調査における検出遺構は以下の通りである。次節では精査を行った遺構を中心に記述する。

堀 跡	2 条
土 坑	7 基
道路状遺構	1 箇所 (溝 2 条)
溝 跡	7 条 (道路状遺構の溝含む)
柱 穴	10 個

(2) 検 出 遺 構

【堀 跡】

72SD1 (図 5)

調査区東側53-43～55-47グリッドに位置する。過去に調査された内側の堀 (21SD1・41SD2・72SD1等) と一連のものと考えられる。72次調査区から連続している状況が確認できたため、今回は昨年度と同じ72SD1の遺構名を付した。調査区内では約19mの延長を検出している。

今回は走行方向及び関連施設の確認を目的としたため、上位の近世以降の盛土層を約1m分掘り下げたのみであり、断面形と深さは確認していない。検出面での上面規模は12～13mと、72次調査検出分とはほぼ同規模である。北東－南西方向にはほぼ直線的に走っており、主軸方位はN－18°－Eである。なお、盛土層を除去しながら壁面に関連施設が無いか確認したが、西壁で雨裂状の抉れ等が確認されたのみで遺構は検出されなかった。

遺物は、基本的に盛土層からの出土であり、取り上げは南北3m幅で区画を設定して行った(図6)。かわらけが5,692.6g、国産陶器が2,461.7g、輸入陶磁器が69.3g、瓦が1点、羽口が1点、壁土が17.8g出土しており、このうちかわらけ5点、国産陶器46点、輸入陶磁器7点、瓦1点を掲載した(1～59)。

72SD2 (図 7～11)

調査区中央52-43～51-47グリッドに位置する。過去に調査された外側の堀 (21SD2・56SD39・72SD2等) と一連のものと考えられる。72次調査区から連続している状況が確認できたため、今回は昨年度と同じ72SD2の遺構名を付した。調査区内では約21mの延長を検出している。

北東－南西方向に直線的に走る堀で、主軸方位はN－20°－Eである。近世以降の溝である73SD1～3と重複関係にあるが、いずれにも一部を壊されている。その他、73SX1、73SK1・2・6とは接する位置にあるが、上面の削平が著しいことから切り合い関係を確認することはできなかった。

Ⅱ層直下で検出しており、上面幅は4.2～7.0mである。ただし、51-46グリッド以南については東側のみの検出であるため、この部分の規模は不明である。全体的には暗褐色土のプランとして検出されているが、51-44・45グリッド内には後述する南トレンチ1層に対応する黄褐色土、2層に対応する砂層が広がっている。なお、本遺構では上端を確認するために上面を全体的に5～10cm掘り下げており、遺物は南北約2m幅の区画を設定して取り上げている(図6)。

平面検出の後、断面形と深さを確認するためのトレンチを2本設定して掘り下げを行った。また、51-43グリッド内にもトレンチを設定した(図9)。以下、トレンチ毎に所見を記載する。

南トレンチは、中央にあたる51-44グリッド内に設定した。検出規模は、上面幅4.7m、底面幅2.5m、深さ約1.5mである。地山を掘り込んで形成されており、断面形は逆台形状で、幅の広い底面から緩

やかに外方に向かって立ち上がる。なお、トレンチ内では西壁面で73P1、底面中央で73P2、東壁面で73P3と3個の柱穴を検出している。これらについては本遺構に架かる橋の橋脚である可能性を考慮して精査を行っており、精査状況については後述する。堆積土は28層に分層した。最上位にはⅡ層に対応すると考えられる黄褐色土（1層）があり、それを除去すると砂層（2層）の堆積が確認された。この砂層は周辺からの流れ込みによるものであるが、今回検出した範囲では本トレンチ内と取り上げ区画の1・2区でのみ確認されている。層厚が0.4～0.5mと厚く、堆積する直前までこの範囲が大きく窪んでいたものと考えられる。2層の堆積時期については明確ではないが、12世紀以降と考えられる。4層以下は12世紀中の堆積と考えられる。ほとんどが灰褐色土または地山由来の黄色系粘土で構成されており、人為的な堆積であると考えられる。堆積状況も複雑で、きれいにレンズ状に堆積する部分がみられないことも人為堆積であることを示しているといえる。ただし、底面付近は自然堆積層である。なお、28層の上面では柱穴（73P2）を検出している。そのため、28層については全域を掘り下げず、底面の確認は南壁側にサブトレンチを設定して行っている。

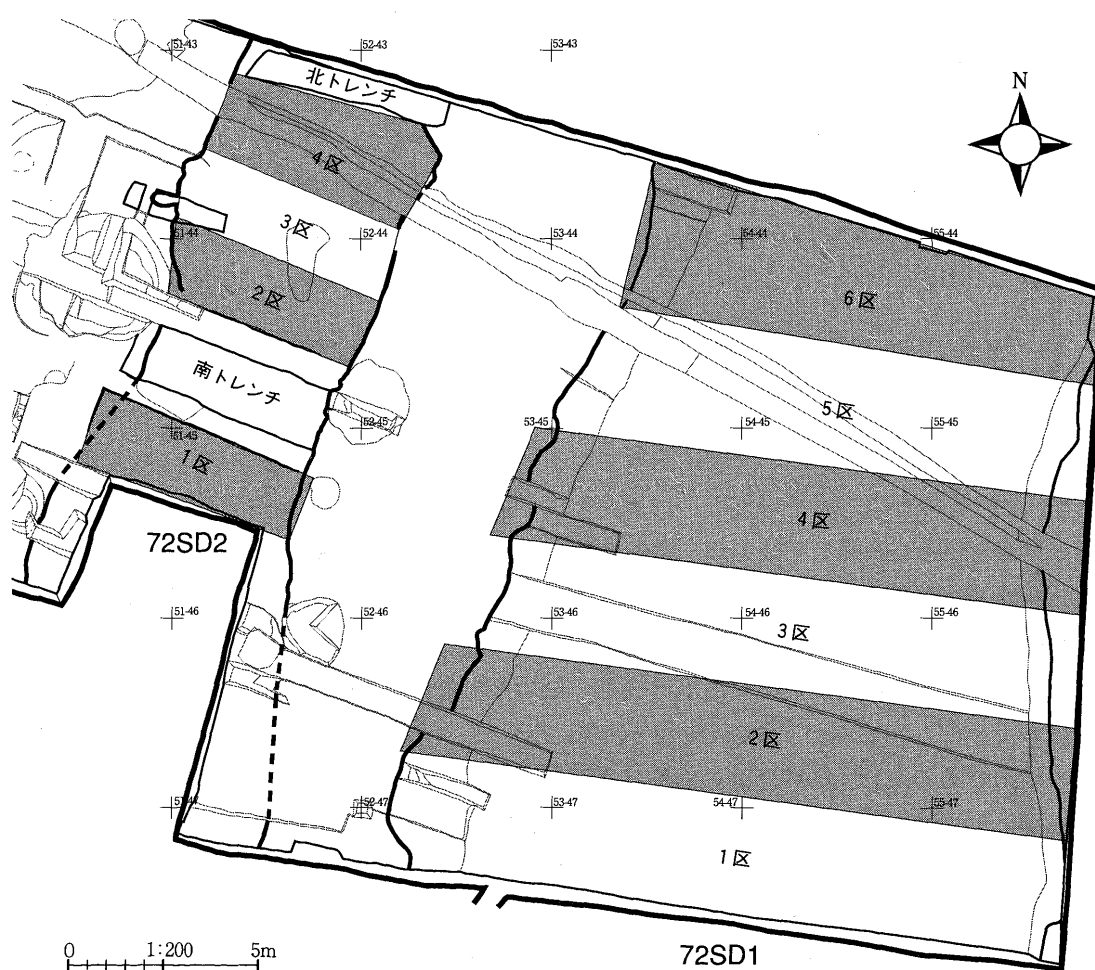


図6 72SD1・2遺物取り上げ区割図

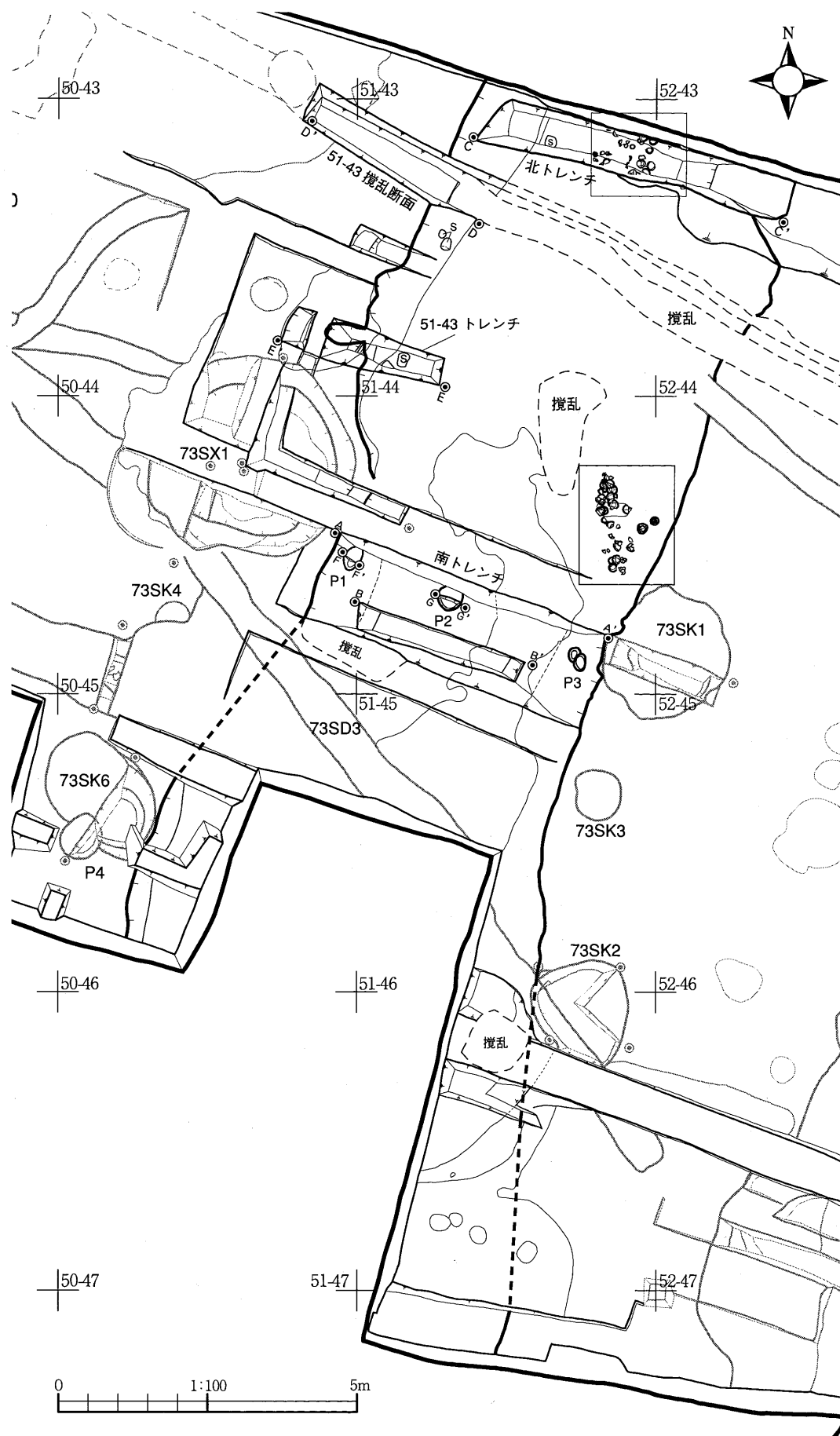


図7 72SD2平面図

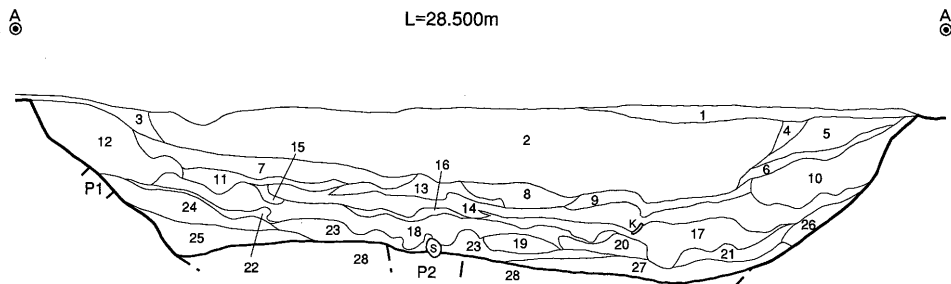
北トレンチは、調査区北端51-43グリッド内に設定した。本トレンチから北側に向かって造成の際に削平されている為、南トレンチよりも遺存状況は悪い。検出規模は、上面幅4.2m、底面幅3.0m、深さ約0.75mである。壁面の立ち上がりは南トレンチよりも緩やかで、特に東壁面は底面から明確な傾斜変換点を形成しないで緩やかに外方に立ち上がっていく。底面はグライ化しており若干波打っている。堆積土は18層に分層した。1層は51-43グリッド内にあるケーブル埋設時の攪乱で観察した断面の1層に対応するもの（図10）、2層は水道管埋設後の人為堆積土であり、いずれも新しい時代の堆積である。また、15・16層は後述する73SX1のB3区東トレンチで確認された壁面の水平堆積層に対応すると思われる、壁面を形成する人為堆積土の可能性がある。したがって、これらを除くと本遺構の堆積土は3～14層となる。灰褐色土主体の人為堆積で、底面付近が自然堆積である点は南トレンチと類似した状況である。なお、5層は中間に薄い砂層も確認されるため細分できる可能性もあるが、地山ブロック等混和物の割合が少なく今回は大まかな分層に留めた。遺物は南トレンチより多いが、ほとんどが2層と5層の境界付近からの出土である（図20・21）。

51-43トレンチは、西壁上端付近に暗褐色の不整形円のプランが確認されたため、その内容確認のために設定したトレンチである。掘り下げの結果、72SD2堆積土を切るように掘削されている土坑状のプランを確認した。堆積土は13層に細分した。このうち上面で検出した不整形円のプランに伴う堆積は4層である。この層は51-43グリッドの攪乱断面2層に対応すると考えられ、これらから南北に長い不整形なプランの遺構であると考えられる。1～3層は72SD2堆積土の上位の人為堆積土に対応するもので、南トレンチでは3層あるいは12層がこれに対応すると考えられる。5～7層は下位の土坑状プラン埋没後の堆積である。72SD2上位堆積土の1～3層より下位にあることから、12世紀中の堆積と考えられる。10～12層は土坑状プランに伴う堆積土であり、72SD2堆積土下層に対応する堆積土である13層を切って掘削されている。底面には板状の木材が横向きに設置されていた。なお、今回の調査ではこの土坑状プランの堆積は72SD2堆積土との関係から12世紀中のものである可能性が考えられたが、次年度調査（第74次調査）で本トレンチを北側に拡張した際に5～7層を切っている状況が改めて確認されたことから12世紀以降に掘削された土坑であると判断された。これに関しては次年度調査の報告の際に詳しく記すこととする。本トレンチ内からは遺物は出土していない。

遺物はかわらけ43,441.7g、国産陶器2,889.6g、輸入陶磁器1.3gが出土しており、かわらけ191点、国産陶器36点、輸入陶磁器1点を掲載した（60～288）。遺物は堆積土最上位の暗褐色土から多量に出土しており、特にかわらけは2区の東側と北トレンチでまとまって出土している（図11）。一方、南トレンチからの出土は少なく、柱穴を検出した28層上面付近や上位の灰褐色土から出土している程度である。

以上が本遺構の精査状況である。北側に隣接する72次調査区で検出した範囲よりも遺存状況が良く、規模や堆積状況が良好に観察された。逆台形状の断面形と人為堆積層が主体である点は72次調査区と同様の状況である。一方、北トレンチや後述する73SX1のB3区東トレンチでは西壁で堀堆積土とは異なる水平な人為堆積層を確認している。これは他の調査地点では確認されていないもので、壁面を補修するために積み上げたものである可能性がある。ただし、南トレンチや51-43トレンチでは確認されていないことから、一部分でのみ行われたものと考えられる。

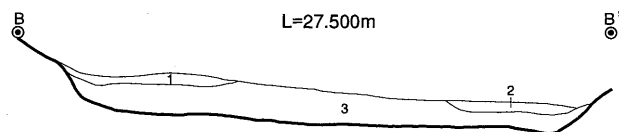
南トレンチ



南トレンチ (A-A')

- 1 2.5Y8/8 黄色と 10YR4/2 灰黄褐色の混合土 締りやや有・粘性弱 近世以降の堆積土でⅡ層に対応
 - 2 10YR7/3 に近い黄橙色砂 締り・粘性共に無 錆びた砂のラインが数条 堆積の単位か 自然堆積
 - 3 10YR6/2 灰黄褐色土 締りやや密、粘性やや弱
 - 4 10YR4/3 に近い黄褐色土 締りやや密、粘性やや弱
 - 5 2.5Y8/4 淡黄色土 締り密、粘性やや強 酸化鉄少量含む
 - 6 10YR6/1 褐色粘土 締り密、粘性強 酸化鉄含む
 - 7 10YR5/1 褐色粘土 締り密、粘性強 ϕ 1~5mm の炭 5%、小礫極微量含む
 - 8 10YR4/1 ~ 5/1 褐色粘土 締り密、粘性強 2.5Y8/6 黄色土ブロック 25% 含む
 - 9 10YR4/1 ~ 5/1 褐色粘土 2.5Y8/6 黄色土ブロック 15% 含む
 - 10 10YR5/1 褐色と 2.5Y8/6 黄色の混合土 酸化鉄多く含む 人為堆積
 - 11 10YR6/1 褐色粘土 締り密、粘性強 酸化鉄含む
 - 12 10YR5/1 褐色と 2.5Y8/6 黄色土の混合土 酸化鉄多く含む 人為堆積
 - 13 10YR4/1 ~ 5/1 褐色粘土 2.5Y8/6 黄色土ブロック 15% 含む
 - 14 2.5Y8/4 淡黄色粘土 締り密、粘性強 地山由来の人為堆積 ϕ 2~5mm の炭 2%、褐色粘土 20% 含む。酸化鉄多い
 - 15 10YR6/1 褐色粘土 締り密、粘性強 2.5Y8/4 淡黄色土ブロック 20% 含む
 - 16 10YR5/1 褐色粘土 15 層とほぼ同じ
 - 17 10YR5/1 褐色粘土 締り密、粘性強 ϕ 1~3mm の炭 2%、2.5Y8/6 黄色土ブロック 10% 含む 人為堆積
 - 18 2.5Y8/4 淡黄色粘土 締り密、粘性強 16 層に似るが酸化鉄多く含むため赤みがかる (10YR8/6 黄褐色に近い) やや砂質
 - 19 10YR5/1 褐色粘土と 2.5Y8/6 黄色の混合土 締り密、粘性強 黄色土は地山由来でやや砂質 人為堆積
 - 20 10YR5/1 褐色粘土 締り密、粘性強 酸化鉄多く含む
 - 21 2.5Y8/4 淡黄色粘土 締り密、粘性強 地山由来 10YR5/1 褐色土 25% 含む
 - 22 2.5Y7/2 灰黄色粘土 締り密、粘性強 ϕ 20mm 前後の炭 2%、酸化鉄含む 人為堆積
 - 23 10YR4/1 褐色粘土 締り密、粘性強 2.5Y8/6 黄色土 5% 含む 自然堆積か
 - 24 2.5Y7/4 浅黄色土 締り密、粘性やや強 ϕ 3~5mm の炭 10% 含む 酸化鉄多く含む赤みがかる
 - 25 2.5Y7/4 浅黄色土 締り密、粘性やや強 24 層に似るが酸化鉄は少ない
 - 26 2.5Y7/3 浅黄色土 締り密、粘性強 ϕ 2~3mm の炭 3% 含む 壁面崩落土か
 - 27 N4/ 灰色粘土 締り密、粘性強 酸化鉄少量含む 自然堆積
 - 28 N3/ 暗灰色 ~ 2/ 黒色粘土 締り密、粘性非常に強 ϕ 2~10mm の炭 10% 含む
- ※11・12 層は B3 区東トレンチ南断面の 7・8 層に対応するが、11・12 層の堆積順序逆か

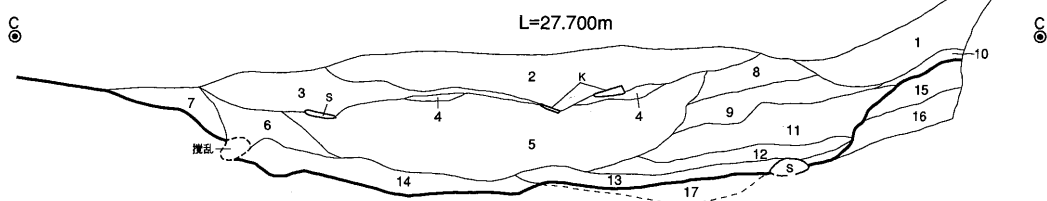
底面サプトレンチ



底面サプトレンチ (B-B')

- 1 7.5Y6/1 灰色土 粘性強 炭化物を少量含む 自然堆積
- 2 5Y8/2 灰白色土 粘性強 自然堆積
- 3 南トレンチ 28 層と同じ

北トレンチ



北トレンチ (C-C')

- 1 10YR8/3 浅黄褐色土 締りやや密、粘性やや強 7.5Y8/2 灰白色が斑状に混じる ϕ 1~3mm の炭 3% 含む
- 2 10YR6/1 褐色粘土 締り密、粘性非常に強 ϕ 2~10mm の炭 5% 含む かわかけ出土層
- 3 10YR5/1 褐色粘土 締り密、粘性強 ϕ 1~2mm の炭 3% 含む
- 4 10YR5/1 褐色粘土 締り密、粘性強 ϕ 2~30mm の炭 25%、かわかけ片含む
- 5 10YR3/1 黒褐色粘土 締り密、粘性非常に強 ϕ 1~5mm の炭 3%、地山ブロック 10% 含む 上位にかわかけ含む
- 6 10YR5/2 灰黄褐色土 締り密、粘性強 やや砂質 ϕ 1~3mm の炭 15% 含む 人為堆積
- 7 10YR6/2 灰黄褐色土 締り密、粘性有 ϕ 2~5mm の炭 5%、 ϕ 10mm の小礫極微量含む
- 8 10YR6/2 灰黄褐色土 締り密、粘性有 ϕ 2~5mm の炭 5% 含む
- 9 10YR6/1 褐色粘土 締り密、粘性強 ϕ 2~10mm の炭 5%、地山ブロック 20% 含む 人為堆積
- 10 10YR6/1 褐色粘土 締り密、粘性強 粘土質 ϕ 2~5mm の炭 5% 含む
- 11 10YR3/1 黒褐色と 5BG6/1 青灰色地山ブロックとの混合土 締り密、粘性強 人為堆積
- 12 10YR2/1 黒色粘土 締り密、粘性強 部分的に砂を少量含む 自然堆積か
- 13 10YR1/1 黒色粘土 締り密、粘性強 ϕ 1~5mm の炭と木質遺物を含む
- 14 5BG6/1 青灰色砂質土 締りやや密、粘性強 ϕ 1~3mm の炭 5%、 ϕ 30mm 前後の黒色土ブロック 15% 含む
- 15 7.5Y8/2 灰白色粘土と 10YR6/1 褐色砂質土の混合土 締り密、粘性強 人為堆積か
- 16 10YR5/1 褐色砂質土 締りやや密、粘性強 ϕ 2~5mm の炭 3%、青灰色地山土少量含む 人為堆積か
- 17 5BG5/1 青灰色粘土 締り密、粘性強 地山

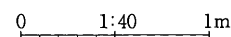
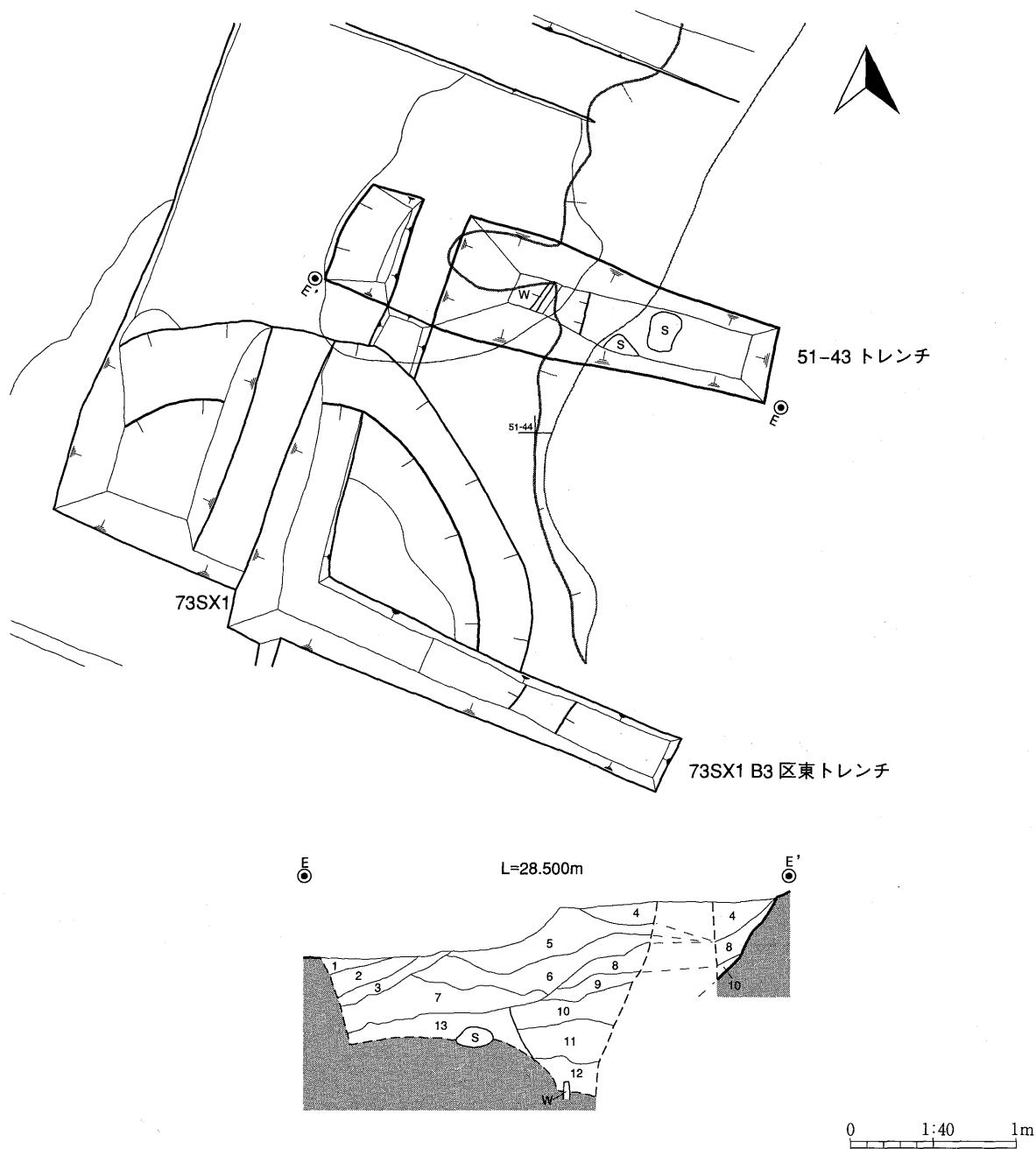


図 8 72SD2断面図

1 本調査区

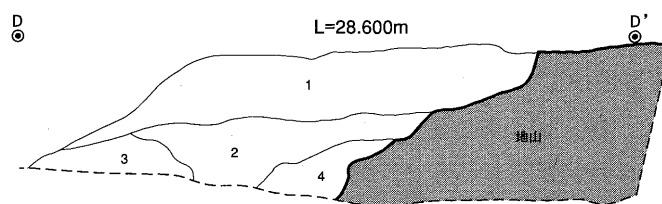


51-43 トレンチ

- 1 2.5Y6/2 灰黄色土 締り強、粘性無 かわらけ含む
- 2 2.5Y5/2 暗灰黄色砂質土 締り強、粘性無 かわらけ片・酸化鉄を含む
- 3 2.5Y4/2 暗灰黄色砂質土 締り強、粘性無 炭化物・酸化鉄を含む
- 4 2.5Y6/2 灰黄色土 締り強、粘性無 土坑埋土
- 5 2.5Y5/3 黄褐色土 締りやや弱、粘性無 $\phi 1 \sim 3\text{mm}$ の 2.5Y8/2 灰白色ブロック多く含む 酸化鉄を多く含む
- 6 5層と同質だが、灰白色ブロックをより多く含むブロックの密度が高い
- 7 2.5Y6/3 にぶい黄色土 締りやや弱、粘性無 10YR8/6 黄橙色地山ブロック・2.5Y8/2 灰白色ブロックを多く含む
- 8 5Y6/1 灰色土 締り弱、粘性無 10YR8/6 黄橙色ブロックを多く含む
- 9 8層と同質だが、黄橙色ブロックを多く含むブロックの密度が高い
- 10 10YR6/1 褐灰色砂質土 締りやや有、粘性有 炭化物を含み、10YR8/3 浅黄橙色ブロックを多く含む
- 11 10YR5/1 褐灰色土 締り有、粘性有 炭化物含む 10YR8/3 浅黄橙色ブロックを含む
- 12 10YR6/1 褐灰色 締りやや弱、粘性有 10・11層と色調は同質だがブロックが少ない
- 13 73SX1 B3 区東トレンチ南断面 24・25 層に対応 堀埋土下層の人為堆積

図9 51-43トレンチ平面・断面図

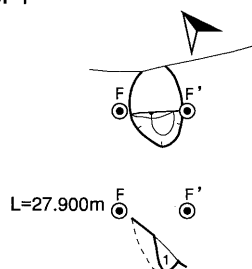
51-43 グリッド攪乱断面



攪乱断面

- 1 10YR3/3 暗褐色土 締り密、粘性やや弱 かわけ片 10% 含む 近世以降の堆積土
 2 7.5YR6/8 橙色土 10YR5/1 褐灰色粘土が酸化鉄の混入により橙色化したもの ϕ 1~2mmの赤色粒子 3% 含む
 3 10YR6/1 褐灰色粘土 締り密、粘性強 ϕ 30mmの炭 2%、酸化鉄含む
 4 2.5Y7/2 灰黄色砂質粘土 締り密、粘性強 地山壁面崩落土か 砂質であること以外は地山と酷似

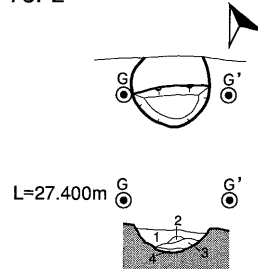
73P1



73P1

- 1 炭化物を多く含み締りは弱い 粘性無

73P2



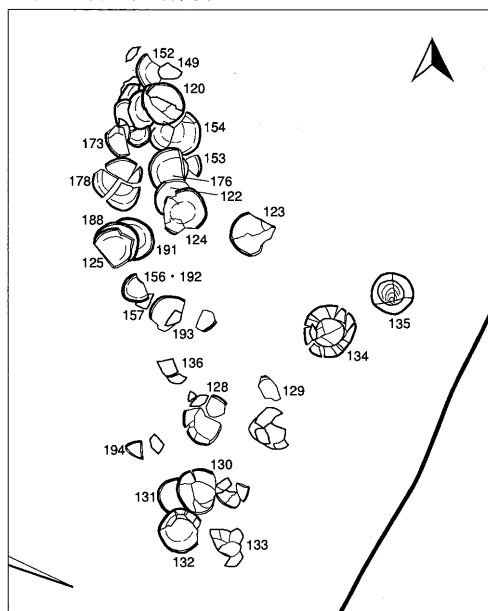
73P2

- 1 10YR4/1 褐灰色土 締り有、粘性強
 2 2.5Y6/2 灰黄色土 締り有、粘性強 炭化物少量含む
 3 5Y4/1 灰色土 締り有、粘性強 炭化物が集中する部分がある
 4 黒色砂

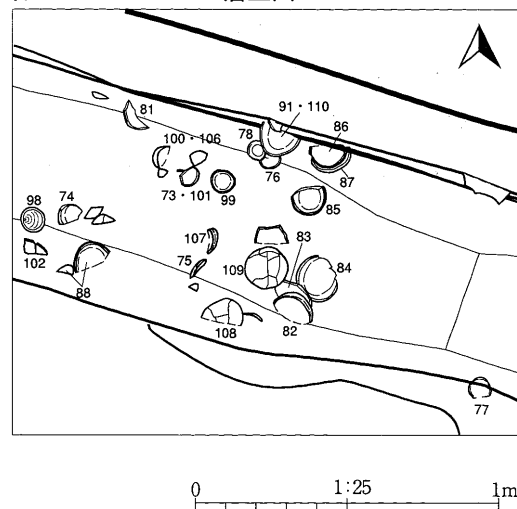
0 1:40 1m

図10 73P1・2平面・断面図

2区 最上位暗褐色土



北トレンチ 2~5層上面



0 1:25 1m

図11 72SD2遺物出土状況図

【72SD2南トレンチ内柱穴】

73P1 (図10)

72SD2南トレンチの西壁面中位で検出した。平面形が楕円形の柱穴で、上面規模は $0.42 \times 0.26\text{m}$ である。断面形は半円形で、西上端からの深さは 0.3m である。柱痕跡は確認できないが、柱穴であるとするは打ち込みによるものと考えられる。堆積土は締りの弱い灰褐色土の単層で、遺物は出土していない。

73P2 (図10)

72SD2南トレンチの中央部、28層上面で検出した。北端はベルトの下にあるため全体を検出していないが、平面形はほぼ正円形であり、上面規模は直径 0.4m と考えられる。断面形は半円形で、深さは 0.17m である。柱痕跡は確認されなかった。堆積土は自然堆積と考えられ、4層に分層した。黒褐色の粘質土が主体で、間に薄い砂層が混入する。遺物は出土していない。

73P3

72SD2南トレンチの東壁面中位で検出した。検出のみで留めているため深さ・断面形状は不明である。平面プランとしては柱穴が2個連結したような形状で、上面の堆積土は灰褐色土である。上面の規模は $0.45 \times 0.3\text{m}$ である。検出状況では柱痕跡は確認できなかった。

【土 坑】

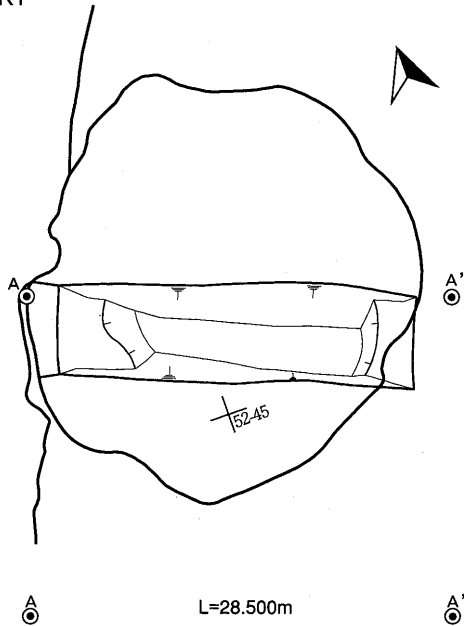
73SK1 (図12)

52-44グリッドに位置する。西壁が72SD2の東壁と接しているが、削平が著しいため両者の新旧関係については判断できなかった。

平面形は円形で、上面規模は $2.15 \times 2.1\text{m}$ である。断面形は箱形で、深さは 0.82m である。壁面はほぼ垂直に立ち上がるが、上部は崩落により広がっている。堆積土はいずれも地山土を使用した人為堆積土であり、混和物や粘性の相違により6層に細分した。遺物は堆積土の上位からかわらがけ 11.7g 出土しているが、細片のため図示していない。

本遺構は、72SD2に隣接していることからこれに伴う橋の橋脚である可能性が考えられた。しかし、精査の結果、人為的に埋め戻されたものであることは確認できたが、柱痕跡等の柱穴であることを示す情報を得ることはできなかったため、今回は土坑とした。

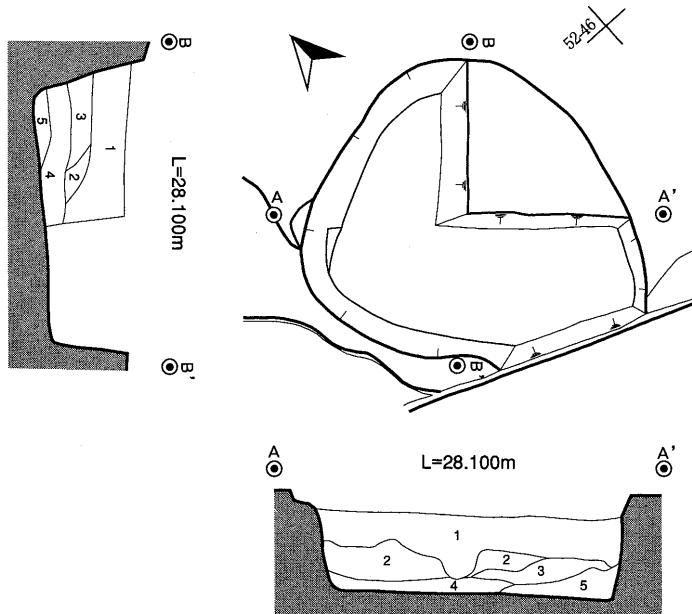
73SK1



73SK1

- 1 10YR8/4 浅黄橙色粘土質シルト 締り有、粘性強 ϕ 5～10 cmの地山ブロックを含む 人為堆積
- 2 10YR8/2 灰白色砂質シルト 締り強、粘性やや弱 砂質土を基本とする ϕ 10 cmからより大きな地山ブロックを多く含む 人為堆積
- 3 10YR7/3 濃い黄橙色粘土質シルト 締り有、粘性強 1・2層と同じ ϕ 10 cmの黄橙色地山ブロックを含む 暗褐色土ブロックも含む 人為堆積
- 4 10YR8/6 黄橙色粘土質シルト 締りやや強、粘性強 粘質土を基本とするが黄橙色地山ブロック・砂質シルトを多く含む 人為堆積
- 5 10YR8/3 浅黄橙色粘土 締り弱、粘性強 ϕ 10～15 cmのブロックで形成される暗褐色土のブロックを含む 人為堆積
- 6 10YR8/2 灰白色砂質シルト 締りやや有、粘性有 地山ブロックを含む 底面に一部炭化物があるが少量含むのみである 底面の中央がやや凹むが堆積に変化は無い 人為堆積

73SK2



73SK2

- 1 10YR8/8 黄橙色土 締り密、粘性非常に強 灰白色～褐灰色粘土が斑状に混じる 粘土質かつ砂質 地山由来
- 2 10YR8/4 浅黄橙色土 締り密、粘性強 やや砂質 酸化鉄含む 地山由来
- 3 10YR8/3 浅黄橙色土 締り密、粘性強 粘土質土中に砂質少量部分的に褐灰色土含む ϕ 1～3 mmの炭化物微量含む 地山由来
- 4 10YR8/4 黄橙色土 締り密、粘性強 砂質で1～3層に比べると締り、粘性共に弱い 地山由来
- 5 10YR8/4 黄橙色土 4層に似るが、より黄色がかり ϕ 1～3 mmの炭化物微量含む 粒子細かい 地山由来

0 1:40 1m

図12 73SK1・2平面・断面図

73SK2 (図12)

51-46グリッドに位置する。西壁がわずかに72SD2の東壁と接しているが、削平が著しいため両者の新旧関係は判断できなかった。

平面形は不整な円形で、上面規模は $1.8 \times 1.56\text{m}$ である。断面形は箱形で、深さは 0.55m である。堆積土は6層に分層した。いずれも地山由来と考えられ、非常に粘性が強い。遺物は検出面からかわらけが 50.0g 出土しており、1点を掲載した(289)。

本遺構も73SK1同様72SD2に隣接していること、72SD2の対岸に同規模の土坑(73SK6)が存在することから橋脚の可能性が考えられた。しかし、柱痕跡を確認することはできなかったため、今回は土坑とした。

73SK6・P4 (図13)

50-45グリッドに位置する。P4と重複関係にあり、P4のほうが新しい。73SK6の東端が72SD2西壁と隣接するが、直接的な重複関係には無い。

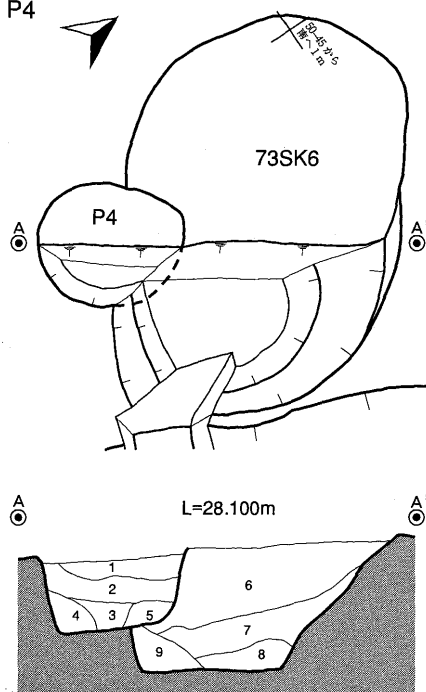
73SK6は楕円形プランの土坑で、上面規模は $2.1 \times 1.45\text{m}$ である。断面形は逆台形で、北東側は外方に開きながら立ち上がる。深さは 0.65m である。堆積土は4層に分層した(6～9層)。いずれも地山由来の人為堆積土と考えられるが、地山土に酷似しているため判別が困難であった。

73P4は円形プランの柱穴で、上面規模は $0.8 \times 0.66\text{m}$ である。断面形は箱形で、深さは 0.42m である。堆積土は5層に分層した(1～5層)。いずれも地山由来の人為堆積土と考えられ、地山土及び73SK6堆積土に酷似している。

遺物は73SK6堆積土の上位からかわらけが 3.9g 出土しているが、細片の為図示していない。

本遺構も72SD2に隣接し、72SD2の対岸に同規模の土坑(73SK2)が存在することから橋脚の可能性が考えられた。しかし、柱痕跡を確認することはできなかったため、今回は土坑とした。

73SK6・P4



73SK6・P4

- 1 10YR6/6 明黄褐色土 締り有、粘性強 炭化物粒を少量含む
 - 2 10YR8/6 黄橙色土と10YR8/3 浅黄橙色土(粘性強)が混じる 締り強
 - 3 10YR8/4 浅黄橙色土を主体とし、10YR6/6 明黄橙色土が混じる 締りやや弱
 - 4 10YR8/3 浅黄橙色土を主体に10YR6/6 明黄橙色土がブロック状に混じる 締り有
 - 5 4層と同様の土質に黒色の粘性強い土が混じる
 - 6 10YR6/6 明黄褐色土 締り有、粘性強 10YR8/3 浅黄橙色土が縞状に入る
 - 7 10YR8/4 浅黄橙色土を主体に10YR8/8 黄橙色の粘性強い土がブロック状に入る 10YR6/1 褐灰色の粘土が少量入る
 - 8 2.5Y7/4 浅黄色土 締り有、粘性強 10YR6/1 褐灰色が縞状に入る
 - 9 10YR8/3 浅黄橙色砂質土 地山の砂質土が入るか
- ※1～5層がP4、6～9層が73SK6の堆積土

図13 73SK6・P4平面・断面図

73SX1 (図14・15)

50-44グリッドに位置する。73SD3と重複関係にあり、これに壊されている。平面形は不整な円形で、検出時の上面規模は3.9×3.5mである。本来は土坑状のプランであったと考えられるが、中央部に近世以降と考えられる掘り込みがあり、これによって本遺構の大部分が失われている。この掘り込みは深さが約1.6mあり、本遺構底面よりも深く掘り込まれている。この部分を除いて本遺構の残存部分は、北東側（B3区東）の一部と考えられる。残存部の観察では、平面形は円形プランであり、壁面はわずかに外方に開きながら立ち上がるようである。

断面観察は十字にベルトを設定して各ベルト面で行った。最も状況が明瞭に確認できたのは北ベルト東面とB3区の72SD2隣接部分に設定したサブトレンチ（B3区東トレンチ）であり、これらの所見を中心に述べていく。

北ベルトでは近世以降の掘り込みに伴う堆積土は1～3層である。白色粘土を主体としており、かわらけや国産陶器とともに近世陶磁器が出土している。この掘り込みにより大部分が失われている為、本遺構に伴う堆積土の残存状況は非常に悪く、北壁付近で4～7層が確認できるのみである。いずれも水平な堆積であり、6層はB3区東トレンチ26層に対応するものと考えられる。

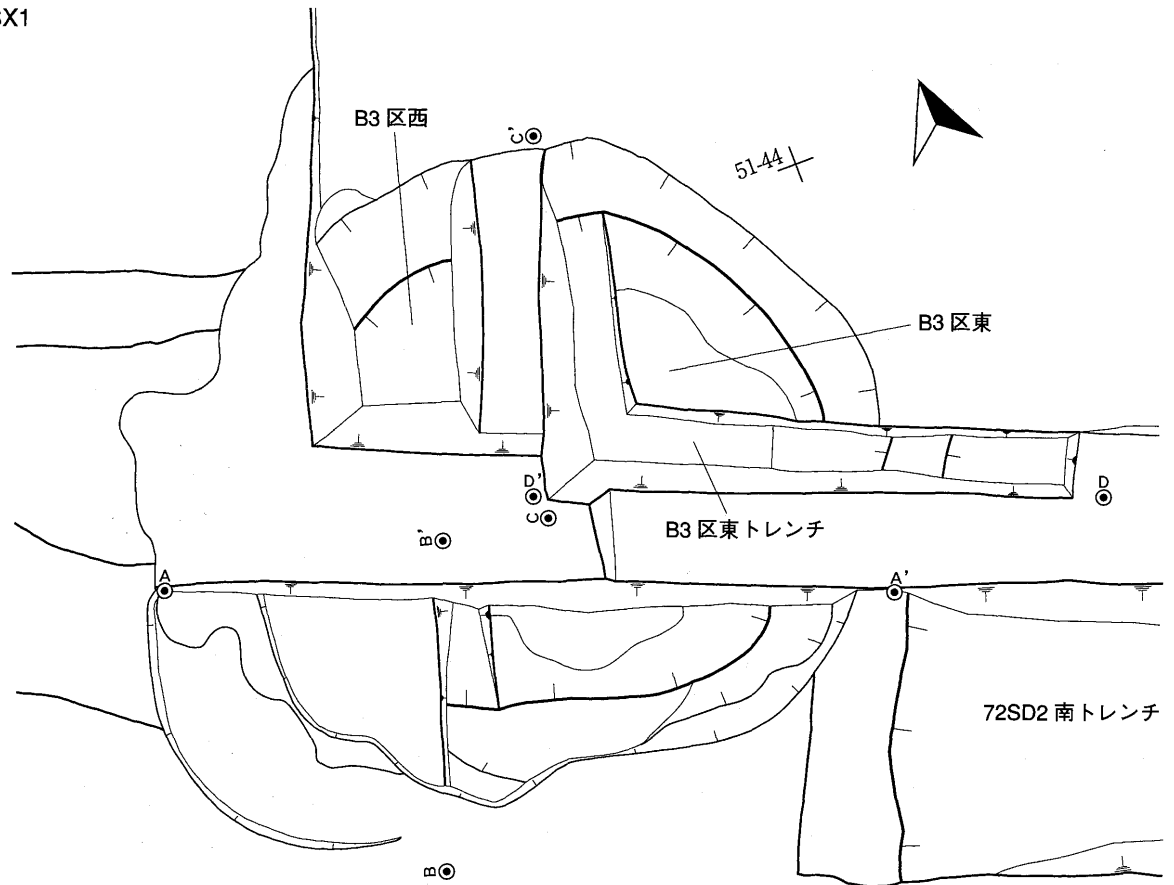
B3区東トレンチでも1～3層は掘り込み内の堆積土である。このトレンチでは本遺構の堆積土としては26層が確認されるのみであるが、それより上位には72SD2堆積土とそれとは異なる人為堆積層が確認できる。5～11層は72SD2上位の堆積土である。砂層である5層は南トレンチ2層、人為堆積土である7層は12層、8層は11層に対応するものと考えられる。12～23層は地山由来のブロックを主体とする人為堆積土で、全体的に締りが強い。いずれも水平方向に積み上げられており、人為的なものであるが72SD2の埋め戻し土とは意図が異なるものと考えられる。これらの下位に堆積するのが72SD2下位の自然堆積層に対応する24・25層と本遺構に伴う堆積と考えられる26層である。この上部に19・21・23層が本遺構の堆積土をまたいで堆積している。

遺物は2・3層からの出土がほとんどで、後世に混入したものと考えられる。かわらけ757.6g、国産陶器238.5gが出土しており、このうち国産陶器7点を図示した（290～296）。

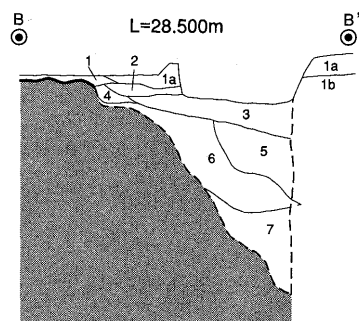
以上が本遺構の精査状況である。位置関係から73SK1と同じく橋に関わる可能性があるものと考えられたが、後世の掘り込みに大部分を壊されていたため性格を明らかにすることはできなかった。なお、水平な人為堆積層である12～23層は、底面付近に自然堆積層が形成されたのちに積み上げられたものであり、掘機能時に崩落した壁面を補修したものである可能性がある。このような状況はこれまでの調査では確認されておらず、今回の調査でも72SD2北トレンチで確認されているのみであることから、部分的な補修の痕跡と考えられる。本遺構の年代については、72SD2下位の堆積層と26層の上部に水平堆積層である19・21・23層が両者を跨ぐ形で堆積していることから、両者は同一時期であり72SD2が完全に埋め戻される以前の遺構であると考えられる。

1 本調査区

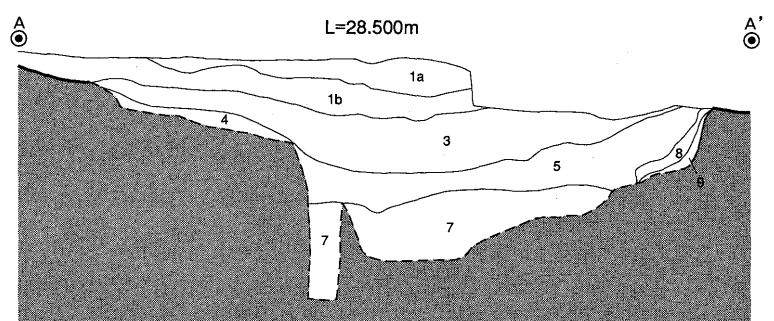
73SX1



南ベルト



東西ベルト



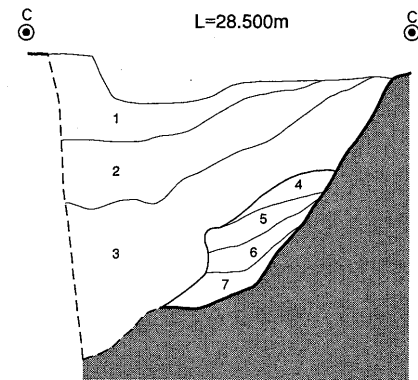
東西・南ベルト (A-A'・B-B')

- 1 基本層序Ⅱ層 a・bは混和物の割合で分層しているが基本的には同一層
- 2 白色粘土と黄褐色土の混合土 粘性やや強
- 3 北ベルト断面2層と同じ
- 4 10YR4/2 灰黄褐色 締りやや密、粘性やや弱 ϕ 3~5mmの炭化物と赤色粒子(かわらけ片?)を極微量含む
- 5 北ベルト断面3層の上位と対応
- 6 10YR5/2 灰黄褐色土 締り密、粘性強 ϕ 10~50mmの地山ブロック 30%含む
- 7 北ベルト断面3層の下位と対応
- 8 10YR5/3 にぶい黄褐色土 締り密、粘性やや弱 ϕ 1~2mmの酸化鉄少量含む
- 9 10YR7/8 黄橙色土 締り密、粘性強 ϕ 1~10mmの酸化鉄 15%含む やや砂質だが粘性は強い

0 1:40 1m

図14 73SX1平面・断面図

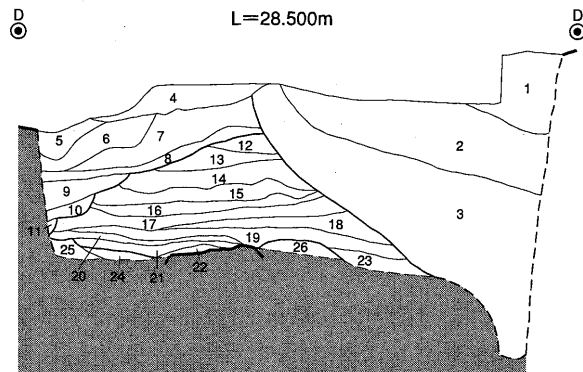
北ベルト



北ベルト (C-C')

- 1 基本層序Ⅱ層
- 2 2.5Y8/4 浅黄色土ブロックで形成される 10YR6/1 褐灰色ブロックを含む かわけを少量含む 締り強、粘性弱 砂質土 人為堆積
- 3 10YR6/1 褐灰色土 2.5Y8/4 淡黄色ブロックを縞状に含む 中心部にφ5～10cmの礫を含む 中～下層で近世の遺物を確認
- 4 2.5Y5/3 黄褐色土 締りやや有、粘性有 2.5Y8/4 浅黄色ブロックを縞状に含む φ5cm程の礫を含む
- 5 2.5Y6/2 灰黄色土 締り強、粘性弱 酸化鉄を含む
- 6 B3区東トレンチ26層に対応 炭化物を多く含む 10YR6/1 褐灰色土・5Y8/2 灰白色土ブロックを含む 締りやや強、粘性弱
- 7 2.5Y6/1 黄灰色土 締り強、粘性有 炭化物を少量含む、φ5～10cmの扁平な礫を含む 5Y8/2 灰白色ブロックを含む

B3区東トレンチ



B3区東トレンチ (D-D')

- 1 基本層序Ⅱ層
 - 2 北ベルト2層と同じ
 - 3 北ベルト3層と同じ
 - 4 10YR6/1 褐灰色土 締り強 炭化物・かわけを含む
 - 5 10YR7/3 において黄橙色砂 締り・粘性共に無 72SD2 南トレンチ2層に対応 自然堆積
 - 6 10YR7/2 において黄橙色土 締り強、粘性弱 炭化物多く含む 人為堆積
 - 7 10YR4/6 明黄褐色シルト 締り強、粘性弱 2.5Y8/6 黄色の地山ブロック多量に含む 炭化物粒を多く含む 人為堆積
 - 8 10YR6/1 褐灰色シルト かわけ・炭化物粒を含む 72SD2 南トレンチ11層に対応か
 - 9 10YR7/2 において黄橙色土と10YR8/6 黄橙色土ブロックの混合 炭化物粒・かわけ片を含む
 - 10 10YR8/3 浅黄橙色の地山ブロックと10YR6/3 において黄橙色土の混合 ブロックは縞状に堀内側に向かって下る
 - 11 2.5Y6/1 黄灰色土 10YR8/4 浅黄橙色の地山ブロックを多く含む
 - 12 10YR8/6 黄橙色土のブロックで形成される層 締り強、粘性弱
 - 13 10YR8/4 浅黄橙色のブロックで形成され、2.5Y6/1 黄灰色土が混じる 締り強 炭化物粒を含む
 - 14 10YR8/3 浅黄橙色土のブロックで形成され、2.5Y6/1 黄灰色土が水平方向に薄く混じる 締り強
 - 15 10YR8/3 浅黄橙色土と2.5Y8/4 浅黄色土のブロックで形成され、2.5Y6/1 黄灰色土が水平方向に入る 締り強
 - 16 10YR8/6 黄橙色土のブロックで形成され、2.5Y6/1 黄灰色土が混じる
 - 17 10YR8/3 浅黄橙色のブロックで形成される 10YR6/1 褐灰色が水平方向に混じる 炭化物を含む
 - 18 10YR8/6 黄橙色土のブロックで形成される 締り強
 - 19 10YR8/6 黄橙色土のブロック 2.5Y6/1 黄灰色土が混じる
 - 20 2.5Y6/1 黄灰色土が水平方向に堆積する 締り強
 - 21 2.5Y8/6 黄色土が水平方向に堆積する 堀の埋土をまたいで堆積する 23層と同一層
 - 22 2.5Y8/6 黄色土が薄く水平方向に堆積する 締り強
 - 23 2.5Y8/6 黄色土が水平方向に堆積する 堀の埋土をまたいで堆積する 21層と同一層
 - 24 7.5Y7/1 灰色土に7.5Y8/1 灰白色土のブロックが混じる グライ化した自然堆積 粘性強
 - 25 7.5Y5/1 灰色土 粘性強 自然堆積
 - 26 土坑埋土 炭化物を多く含む
- ※6・7層：72SD2 南トレンチ人為堆積上層と対応か
 ※8～11層：72SD2 堆積時の人為堆積
 ※12～23層：横方向の人為堆積土、締り強い
 ※24・25層：72SD2 の堆積土下層の自然堆積

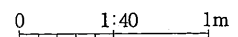


図15 73SX1断面図

【道路状遺構】

73SD4・7（＝73SC1道路状遺構）（図16・17）

調査区西側では東西方向に走る溝跡を複数検出しているが、このうち平行する73SD4と73SD7については位置関係等から道路側溝と考え、これらの溝跡で区画された範囲を道路状遺構として捉えた。以下では両溝跡と区画内の状況について記述する。

73SD4は、北側を区画する側溝と考えられる。調査区西側48-43～50-43グリッドに位置しており、73SD3・5、73SK5、73SX1と重複関係にあり、本遺構が最も古い。東西方向に直線的に走る溝で、主軸方位はN-76°-Wである。調査区内では8.8m検出した。上面の幅は0.4m前後であるが、削平を考慮すると本来はこれよりも幅広かったと考えられる。断面形と深さは調査区西端に設定したトレンチで確認した。断面形は箱形で、検出面からの深さは0.22mである。堆積土は褐灰色土と黄橙色土の混合土の単層で、重複する73SD3・5の堆積土とは明らかに異なる。遺物は堆積土からかわらけが18.8g出土しているが、細片のため図示していない。

73SD7は、南側を区画する側溝と考えられる。調査区西側48-45グリッドに位置する。上面は近世以降の堆積土に覆われているが、平面的には他遺構との重複関係は無い。東西方向に走る溝で、調査区内では1.7m検出した。なお、主軸方位はN-70°-Wであるが、検出範囲が狭いため若干いずれかに振れる可能性もある。断面形と深さは西端のトレンチで確認した。その結果、本遺構の堆積土とその下位に地山土と異なる堆積を確認しているが、堆積状況から2層のみが本遺構の堆積土であり、それより下位は本遺構以前に存在した別遺構に伴う堆積と考えられる。したがって、本遺構の上面幅は0.82m、断面形は浅い皿形で深さは0.2mである。なお、トレンチ内のみでの検出であり平面形は不明であるが、下位のプランの断面形は底面の広い逆台形であり、検出面からの深さは0.3mである。遺物は2層からかわらけが10.0g、国産陶器が11.7g出土しており、このうち国産陶器1点を図示した（297）。

検出範囲が狭いため検討を要する部分もあるが、今回はこの範囲を道路状遺構（73SC1）と考えておきたい。両溝跡を含めた幅は南北約10mである。この範囲は水平ではなく、地形に沿うように73SD4から73SD7に向かって緩やかに傾斜しており、両溝の底面の比高差は約0.5mある。これらの溝に囲まれた範囲では、削平の影響もあって硬化面・波板状圧痕といった路面を示す状況は確認できなかった。なお、本調査区西側に位置する堀外部地区（30次調査区）でも道路側溝と考えられる溝跡が検出されており、今回検出した溝跡もこれらに連続する可能性がある。しかし、堀外部地区では溝間の距離が7～8mと、今回検出したものより間隔が狭いことから、両者の繋がりについては検討が必要である。

【溝】

道路側溝と考えられるもの以外で精査したものについて記載する。

73SD1（図16・17）

調査区西側48-44～50-45グリッドに位置する。東端が72SD2と重複関係にあり、これを壊す形で掘削されていること、Ⅱ層掘り下げ中にプランを把握していることから近世以降に掘削された溝と考えられる。

北西-南東方向に直線的に走る溝で、主軸方位はN-66°-Wである。東側は72SD2付近で削平を受けて消失していることと西側は調査区外へと延びていることから全長は不明であるが、調査区内では約12m検出した。上面幅は1.0～1.3mで、南東方向に傾斜する地形に沿って掘削されているため東側ほど規模が小さくなる。3本のトレンチを設定し、断面形と深さを確認した。断面形は箱形あるいは

は逆台形である。深さは西端の断面Fラインでは0.59m、東端の断面Dラインでは0.4mである。堆積土は褐灰色土が主体であり、地山ブロックをほとんど含まないことから自然堆積と考えられる。遺物はかわらけが507.0g、国産陶器が370.8g出土しており、このうちかわらけ1点と国産陶器2点を図示した(298~300)。

73SD3 (図16・17)

調査区西側48-43~51-46グリッドに位置する。73SD4・5、73SX1、72SD2、73SK2と重複関係にあり、73SD5以外の遺構の一部を壊している。73SX1を壊しており、検出面から近世陶磁器も出土していることから近世以降に掘削された溝と考えられる。

北西-南東方向に走る溝で、50-44グリッド内で緩やかに角度を変えており、主軸方位が西側ではN-63°-W、50-44グリッド付近から東側はN-37°-Wとなる。調査区内では約24m検出している。東端は51-46グリッドで終結し、西側は調査区外へ延びる。上面幅は0.7~0.8mで、東端までほぼ同一規模である。断面形は箱形で、深さは0.25mである。堆積土は5層に細分した(73SD3・4・5断面4~6・9層)。主体となるのは暗褐色土で、壁面付近には地山崩落土が堆積している。遺物はかわらけが325.3g、近世陶磁器が1点出土しているが、細片のため図示していない。

73SD5 (図16・17)

調査区西側48-43~51-43グリッドに位置する。73SD3・4、73SK5と重複関係にあり、73SD3・4を壊すが、73SK5に上面を壊されている。近世以降と考えられる73SD3を壊していることから、それより新しい溝と考えられる。

調査区内では12.6m検出した。西側で検出された部分についてはN-76°-Wの方位で直線的に走るが、49-43グリッドの東端付近で北東方向に向きを変え51-43グリッド方向へ延びる。ただし、51-43グリッド内ではプランが不明瞭になり、これより東では確認できない。断面形は浅い皿形で、深さは0.1m前後である。堆積土はにぶい黄褐色土の単層で、礫とかかわらけ片を少量含んでいる。遺物は73SD3堆積土との境界付近でかわらけが16.6g出土したが、細片のため図示していない。

(村田)

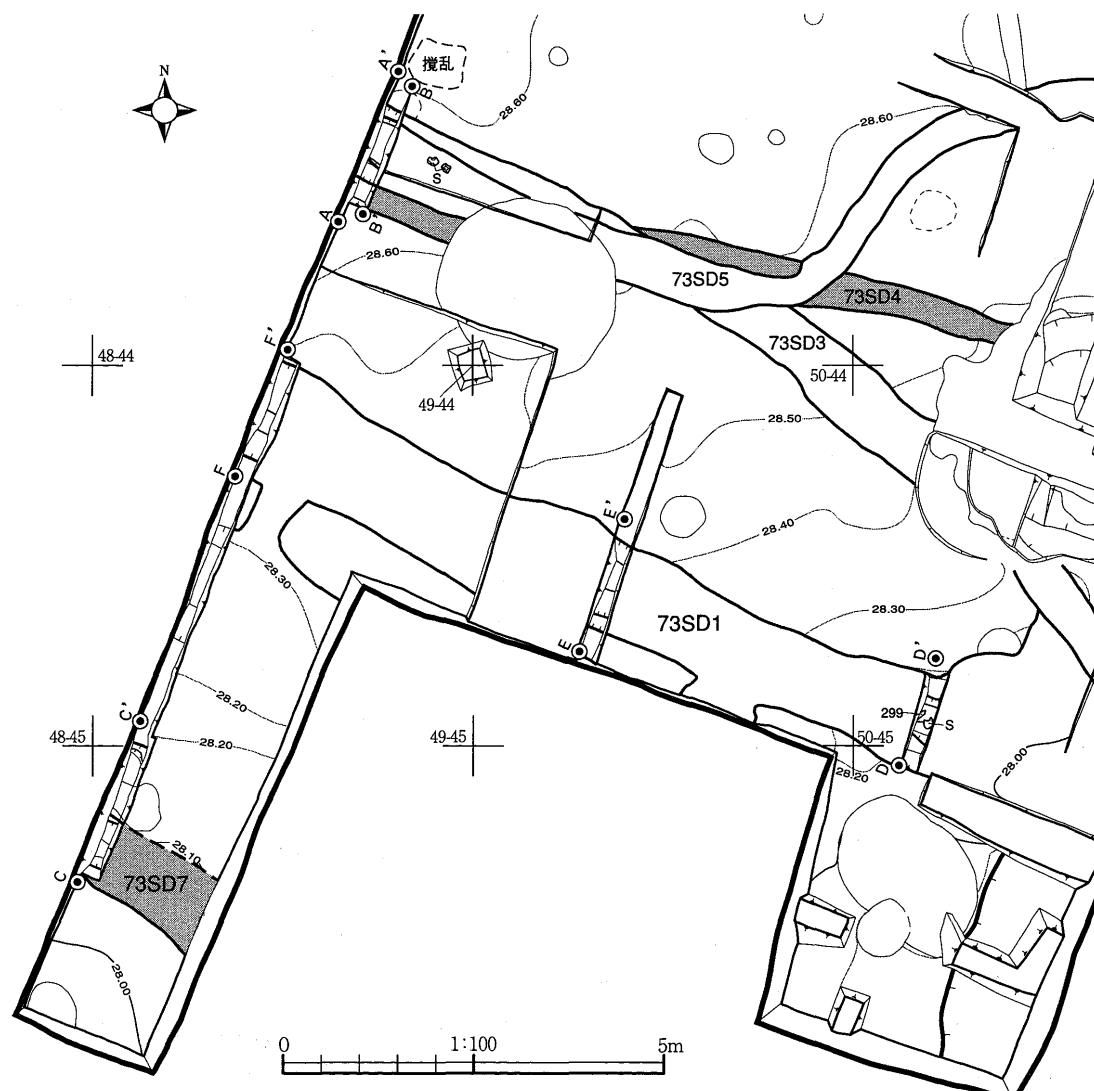


図16 73SD1・3～5・7平面図

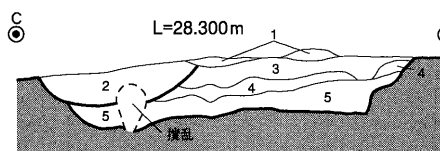
73SD3・4・5



73SD3・4・5

- 1 I層=表土
 2 II層=10YR5/3 にぶい黄褐色土 かわけ片・地山ブロック・近世遺物を含む 近世暗褐色土
 3 10YR4/3 にぶい黄褐色土 締め密、粘性強 礫・かわけ片少量含む
 4 7.5YR5/1 褐灰色土 締め密、粘性強 ϕ 2~5mmの焼土・炭化物各3%含む
 5 10YR8/3 浅黄褐色粘土 締め密、粘性強 褐灰色土少量含む 壁面崩落土
 6 7.5YR5/1 褐灰色土 締め中、粘性やや強 ϕ 5~20mmの焼土・炭化物各10%含む
 7 7.5YR5/1 褐灰色と10YR7/8黄褐色との混合土 締め中、粘性強 やや砂質
 8 7.5YR5/1 褐灰色土 締め中、粘性やや強 ϕ 2~20mmの焼土・炭化物各25%含む 地山が被熱により変成した部分か
 9 6層と土質は同じだが、5層より後に堆積しているため分層
 ※4~6・9層=73SD3 堆積土、7層=73SD4 堆積土、3層=73SD5 堆積土

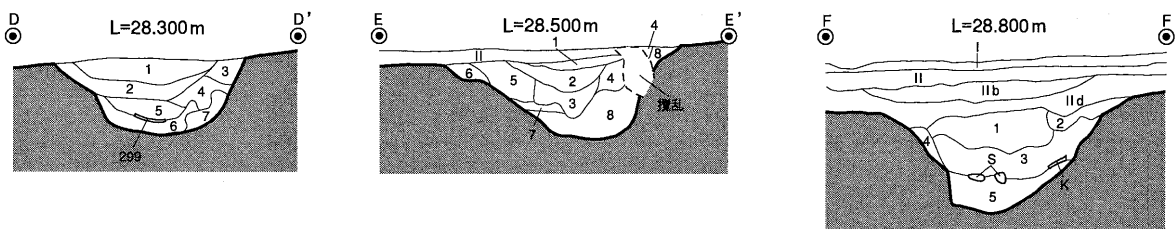
73SD7



73SD7

- 1 10YR7/6 明黄褐色・2.5Y8/6 黄色・10YR4/1 褐灰色の混合土 締め密、粘性中 かわけ片含む
 2 10YR3/2 黒褐色と10YR6/1 褐灰色の混合土 黒褐色土は砂質、褐灰色土は粘土質 斑状に混じる 自然堆積か
 3 2.5Y8/6 黄色と10YR5/1 褐灰色の混合粘土 締め密、粘性非常に強 人為の整地土か
 4 2.5Y8/6 黄色と10YR5/1 褐灰色の混合土 締め密、粘性強 やや砂質 3層よりやや暗い 人為堆積か
 5 10YR5/1 褐灰色砂質土 締め密、粘性強 酸化鉄多く含む
 ※2層が73SD7 堆積土、3~5層は別遺構の堆積土か

73SD1



73SD1①(D-D')

- 1 10YR7/1 灰白色土 締め密、粘性中 ϕ 5mmのかわけ片・炭化物各2%、酸化鉄含む
 2 10YR5/1 褐灰色土 締め密、粘性やや強 ϕ 2~5mmの炭化物10%、かわけ片2%含む
 3 2.5Y6/2 灰黄色土 締め密、粘性やや強 酸化鉄多く含む
 4 10YR6/2 灰黄褐色土 締め密、粘性中 やや砂質 ϕ 1~3mmの炭化物10%、酸化鉄多く含む
 5 2.5Y6/2 灰黄色土 締め密、粘性やや強 粘土と砂の混合土 ϕ 1~2mmの炭化物2%、かわけ片含む
 6 10YR6/2 灰黄褐色粘土 締め密、粘性非常に強 上位に ϕ 2mmの炭化物2%含む 5層との境界から遺物出土
 7 2.5Y6/2 灰黄色粘土 締め密、粘性非常に強 酸化鉄含む

73SD1②(E-E')

- 1 7.5YR6/1 褐灰色土 締め密、粘性強 ϕ 5mm炭化物2%含む
 2 10YR7/4 にぶい黄褐色土 締め密、粘性強 上位に褐灰色土含む
 3 7.5YR4/1 褐灰色粘土 締め密、粘性非常に強 下位に ϕ 5mmの炭化物5%含む
 4 10YR4/2 灰黄褐色土 締め密、粘性やや強 にぶい黄褐色土を含む
 5 10YR5/1 褐灰色土 締め密、粘性やや強 やや砂質 にぶい黄褐色土ブロック30%、 ϕ 2mmの炭化物3%含む
 6 10YR5/1 褐灰色土 締め密、粘性やや強 5層に似るが、混和物無し
 7 7.5YR4/2 灰褐色砂 締め、粘性共に無 粗砂 ϕ 2mmの炭化物2%含む
 8 7.5YR5/1 褐灰色土 締め密、粘性強 やや砂質 にぶい黄褐色土ブロック5%含む

73SD1③(F-F')

- 1 10YR6/1 褐灰色土 締め密、粘性中 やや砂質で北側に黄色粘土含む
 2 10YR6/1 褐灰色粘土 締め密、粘性強 B断面1層に対応
 3 10YR5/1 褐灰色砂質土 締めやや密、粘性中 ϕ 1~2mmの炭化物5%含む E断面8層に対応
 4 10YR5/1 褐灰色土 締めやや密、粘性中
 5 10YR6/3 にぶい黄褐色土 締め密、粘性強 混和物ほとんど無し

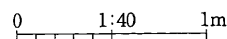


図17 73SD1・3~5・7断面図

表4 73次調査出土遺物数量表

出土遺構	精査	かわらけ(g)	国産陶器(g)	輸入陶磁器(g)	計(g)
72SD1	○	5,692.6	2,461.7	69.3	8,223.6
72SD2	○	43,441.7	2,889.6	1.3	46,332.6
73SD1	○	507.0	370.8	0	877.8
73SD2	×	61.0	0	0	61.0
73SD3	○	325.3	0	0	325.3
73SD4	○	18.8	0	0	18.8
73SD3 or 5	○	16.6	0	0	16.6
73SD6	×	0	0	0	0
73SD7	○	10.0	11.4	0	21.4
73SK1	○	11.7	0	0	11.7
73SK2	○	50.0	0	0	50.0
73SK3	×	0	0	0	0
73SK4	×	0	0	0	0
73SK5	×	0	0	0	0
73SK6・P4	○	3.9	0	0	3.9
73SX1	○	757.6	238.5	0	996.1
73P1	○	0	0	0	0
73P2	○	0	0	0	0
73P3	×	0	0	0	0
遺構外		22,674.8	9,455.5	49.1	32,179.4
本調査区計		73,571.0	15,427.5	119.7	89,118.2
試掘T1～3		528.7	49.4	0	578.1
総計(g)		74,099.7	15,476.9	119.7	89,696.3

(3) 出土遺物

出土遺物は総重量で90,194.3 gである。73次調査では遺構の平面的な位置関係を確認することを主な目的としたため、遺構の精査は基本的に行っていない。また、堀跡については72SD2にトレンチを設定して精査を行ったが、部分的なものであり遺物量は多くない。72SD1からの出土遺物の多くは近世以降の盛土とみられる層から出土したものである。この他の遺構からの出土遺物も含め、遺物の多くは原位置をとどめたものではない。

遺物は総重量のうち、かわらけが73,571.0 gと最も多く、約80%を占める。次いで陶磁器類が15,547.2 gと多い。壁土も517.5 g出土している。陶磁器類は国産陶器が15,427.5 gで、このうち渥美窯産が157点で10,931.5 g、常滑窯産が90点で4,090.9 gを占める。輸入陶磁器は18点で119.7 g出土している。

なお、かわらけはおおむね1/4以上残存し器形が復元可能なものを図示し、国産陶器類と輸入陶磁器、瓦は全点を登録し表に掲載、図示可能なものを示した。また、輸入陶磁器の分類にあたっては「大宰府分類」（太宰府市教育委員会2000）を参考にしている。

【土器・陶磁器類】

72SD1出土遺物

72SD1は精査を行っておらず、出土遺物も盛土等からの出土である。かわらけが5,692.6 g、国産陶器類が2,461.7 g、輸入陶磁器が69.3 g、瓦が1点、羽口が1点、壁土が17.8 g出土し、かわらけ5点、国産陶器46点、輸入陶磁器7点、瓦1点を図示した（1～59）。かわらけはいずれもロクロかわらけで1は小皿、2～5は大皿である。大皿は碗形の器形、皿形の器形の両者がある。いずれも72SD1の時期にあたる資料ではないが、12世紀第3四半期以降の特徴をもつ。国産陶器類は6～34は渥美窯産、35～48は常滑窯産、49～51は須恵器である。輸入陶磁器類は52～57は白磁で碗及び壺類である。58は中国陶器壺である。瓦は59の1点が出土し、図示した。軒丸瓦の瓦当面の破片で、欠損のため全体は不明だが巴文の端部が確認でき、三巴文とみられる。丸瓦部分は欠損しているが、印籠つぎで端部へのキザミ等の加工はみられない。

72SD2出土遺物

72SD2から出土した遺物はかわらけ43,441.7 g、国産陶器2,889.6 g、輸入陶磁器1.3 gで、このうちかわらけ191点、国産陶器36点、輸入陶磁器1点を図示した（60～288）。

精査を行ったトレンチでは、南トレンチからの遺物はかわらけは60・61はロクロかわらけ小皿、62～68はロクロかわらけ大皿、69は手づくねかわらけ小皿、70は手づくねかわらけ大皿である。ロクロかわらけの大皿は器高が4 cm以上と高い器形のものが目立ち碗形のものが多く、皿形の器形も含まれる。これらの特徴は、下層からも皿形の資料が出土しており、層位ごとに大きく異なるものではない。手づくねかわらけの大皿である70はやや出土層位が異なり、上層での出土だが、口径13.4 cmと小形の器形である。国産陶器は71・72で渥美窯産の甕である。

北トレンチからの遺物では2～5層として取り上げた遺物が多く、これらはこの層の境界部分からまとまって出土したものである。かわらけは73～80はロクロかわらけ小皿、81～98はロクロかわらけ大皿、99～105は手づくねかわらけ小皿、106～111は手づくねかわらけ大皿である。ロクロかわらけの大皿は器高の高い碗形の器形が多いが、口径が大きく器高の低い皿形の器形も含まれる。手づくねかわらけ小皿は法量の平均値で口径が9.4 cm、器高が2.0 cmと口径が大きい器形が多い。手づくねかわ

72SD1

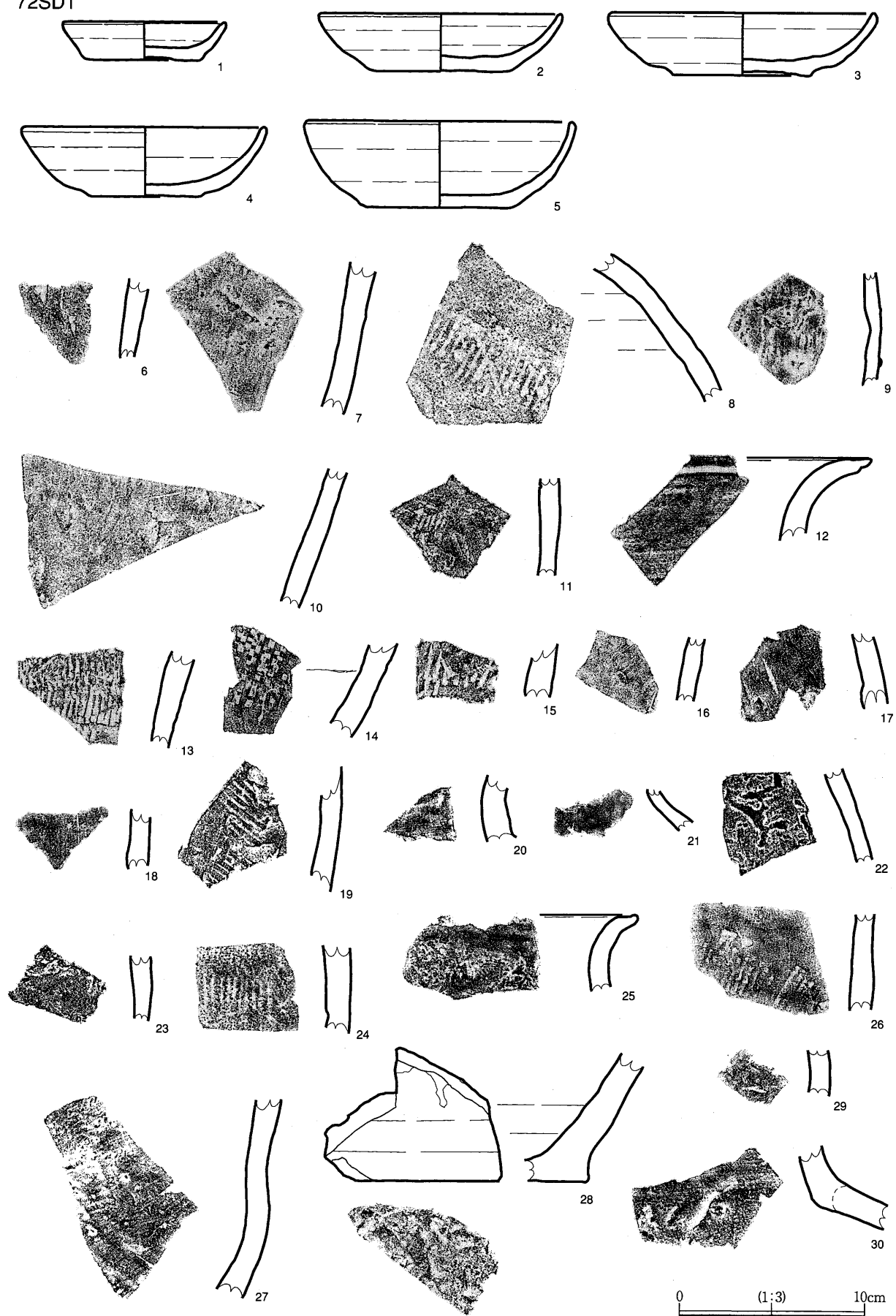


図18 72SD1出土土器類実測図 1

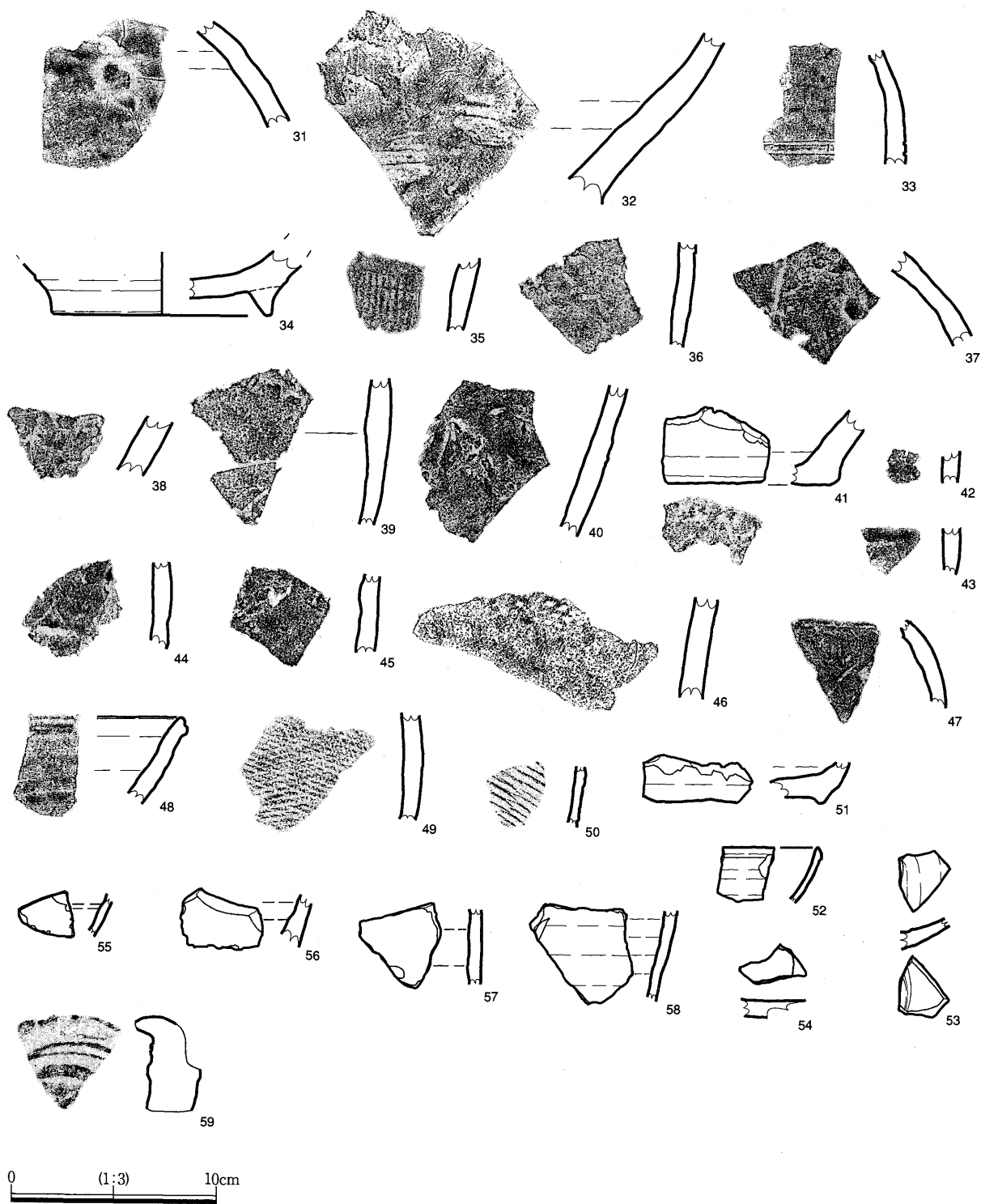


図19 72SD1出土土器類実測図 2

らけ大皿は口径が14.3～15.0cm、器高が3.0～3.5cmとやや幅がある。この中で、口径が15.0cmと大型の器形が含まれる点は注目できる（106、110）。調整は一段ナデのものが多いが、二段ナデのものも含まれる。国産陶器は常滑窯産の甕類の体部片である（112）。

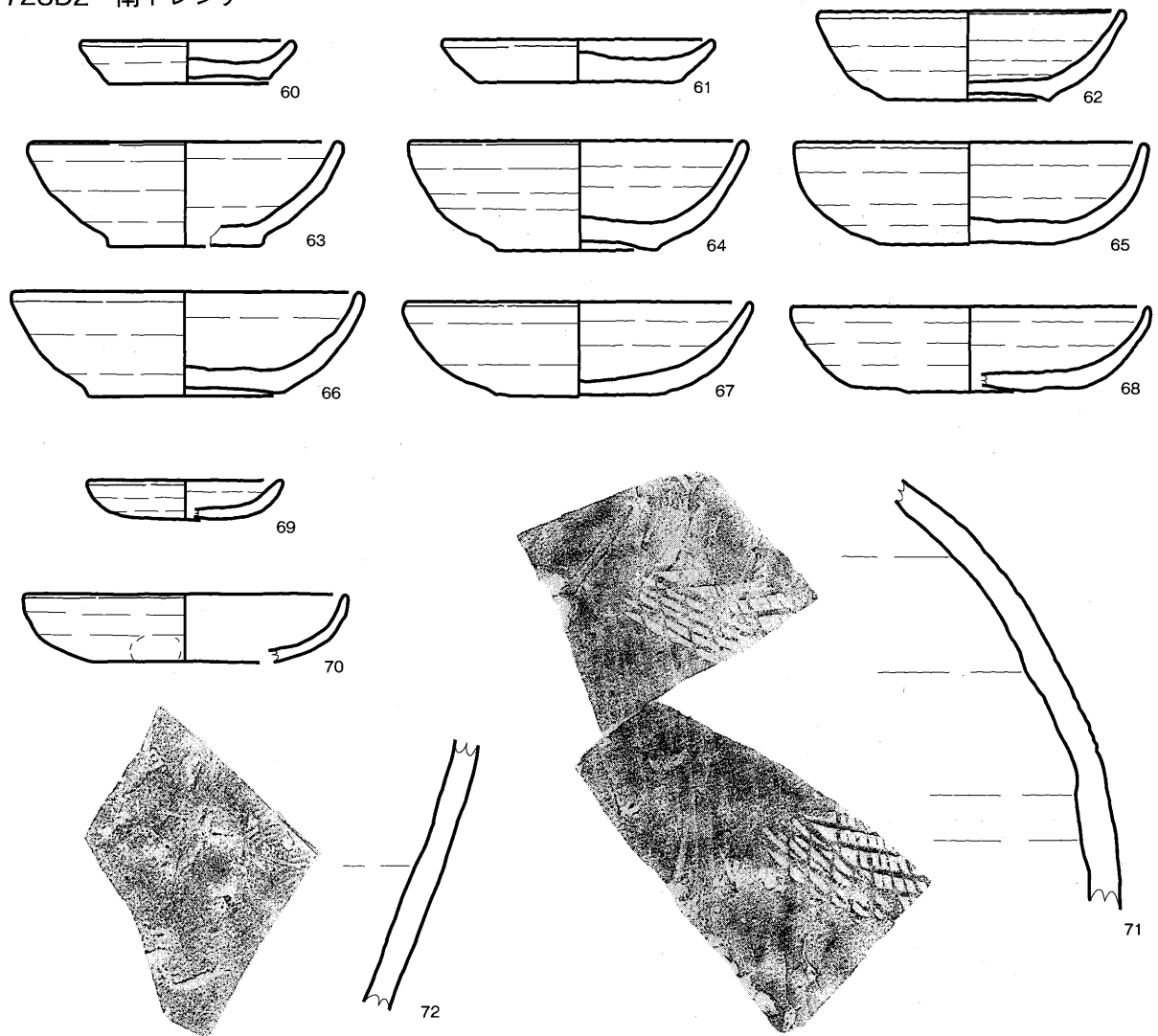
これらの精査した2つのトレンチでは類似した特徴の資料が多い。これらをみると72SD2では国産陶器が少ないことがわかる。かわらけではロクロ成形の資料が多く、手づくね成形のものは点数が少なく破片等が多い。ロクロかわらけ大皿は器高が高い椀形と皿形とがそれぞれ含まれること、手づくねかわらけ大皿では口径が15cm前後と比較的大型のものと14cm弱と小型のものとが含まれることが特徴的である。

その他に、検出面から多くの遺物が出土し、ここでは遺構検出後の遺物取り上げと、遺構検出時の遺物とに分けて掲載した。これらの多くは、取り上げの2～3区に限定的に分布する暗褐色土層及び砂層からかわらけが出土したもので、同一の層位から出土したものだが便宜的に分けている。113～119はロクロかわらけ小皿、120～146はロクロかわらけ大皿である。大皿では口径が12.8～15.2cmと幅があるが、14cm以下と小型の器形が多い。器高は多くが4cm以下で皿形の器形が多い。胎土は赤褐色が強いものが多く特徴的である。

暗褐色土層から出土したこれらの資料は検出面に近く、一括性には疑問も残るが、分布が限定的な土層から出土している点は注目できる。ある程度の一括性がある資料として捉えることが妥当ならば、資料の特徴からはトレンチ内の資料より後出の特徴をもつ土器群として捉えることができる。72SD2については上層の削平もあり、埋め戻しが全体に及ぶものか部分的なものか判断できない部分が残されているが、遺構の堆積自体の時期的な変化とともに注目できる。147～169は手づくねかわらけ小皿、170～217は手づくねかわらけ大皿である。大皿は口径が11.7～14.6cm、器高が1.6～3.3cmと幅をもつが、口径は14cm以下の小型の器形が多く、14cmを超えるものは少ない。218・219は内折れかわらけである。国産陶器類は少ないが、220～230は渥美窯産、231～236は常滑窯産である。237は白磁碗の口縁部である。これらは近世段階のⅡ層に対応する層から出土した資料で、手づくねかわらけは12世紀後半の資料が多い。

遺構検出時の遺物では、238～246はロクロ小皿、247～258はロクロ大皿である。252、253のような器高が4cmを超えるものもあるが、多くは器高の低い皿形の器形である。259～261は手づくね小皿、262～272は手づくね大皿である。大皿も口径が14cm以下の器形が多く、12cm前後以下の小型の器形が多い。国産陶器類は少ないが、273～277は渥美窯産、278～287は常滑窯産である。288は宮城県水沼産とみている。

72SD2 南トレンチ



72SD2 北トレンチ

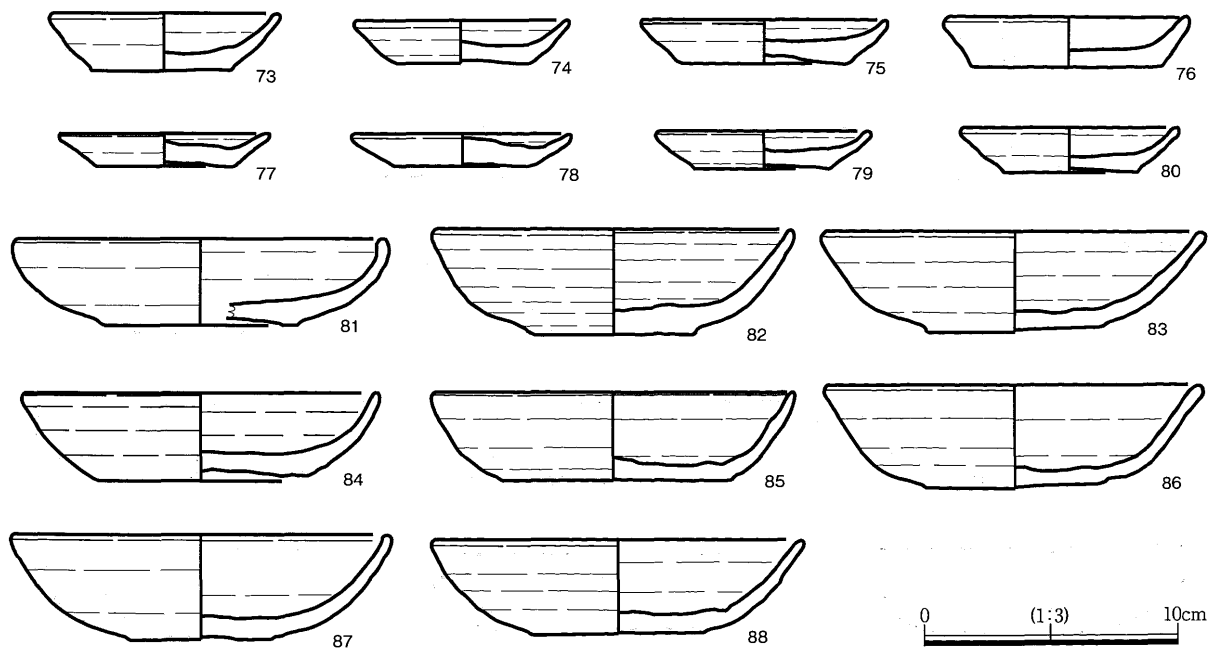
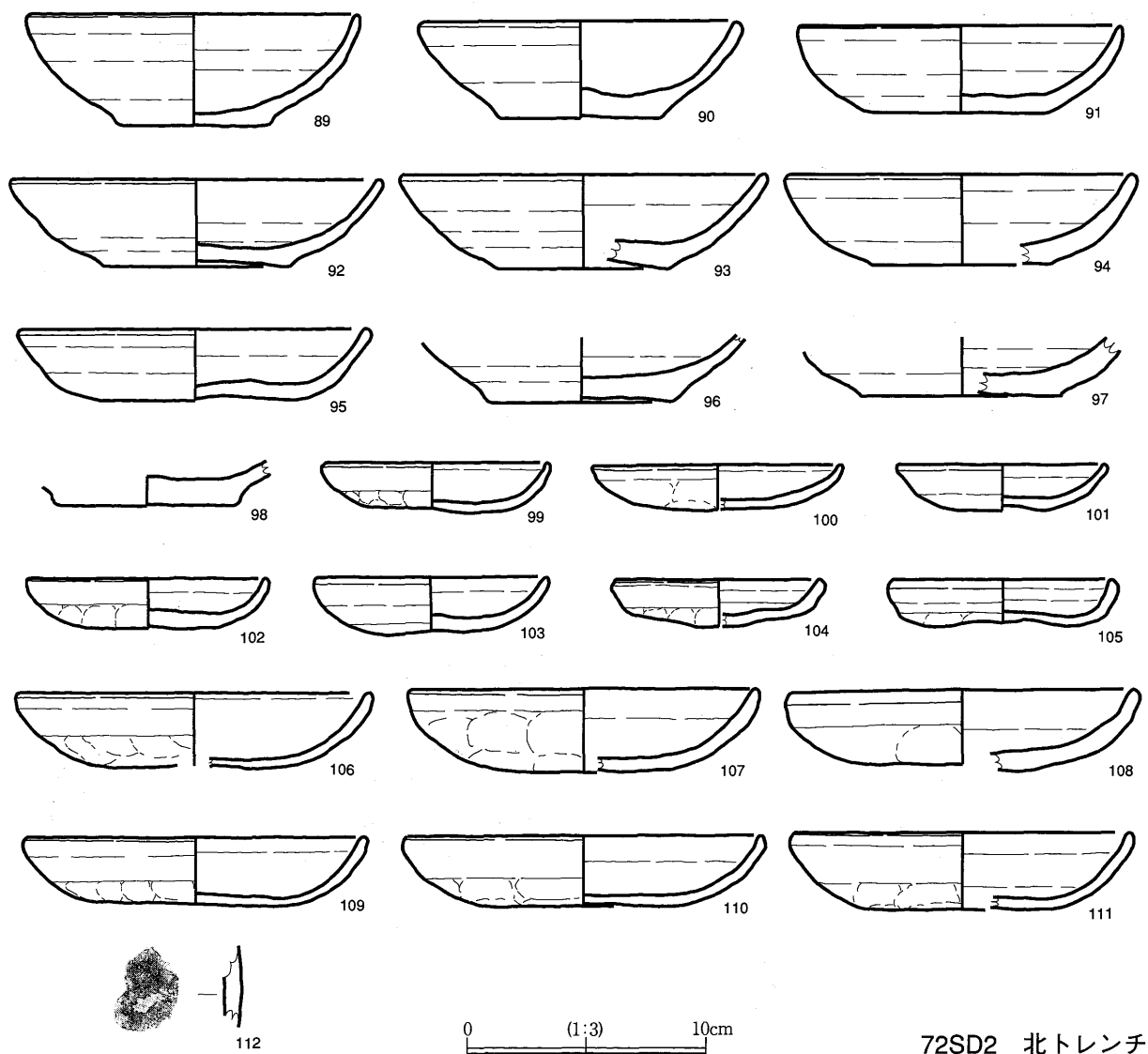


図20 72SD2出土土器類実測図1

1 本調査区



72SD2 北トレンチ

72SD2 1～4区

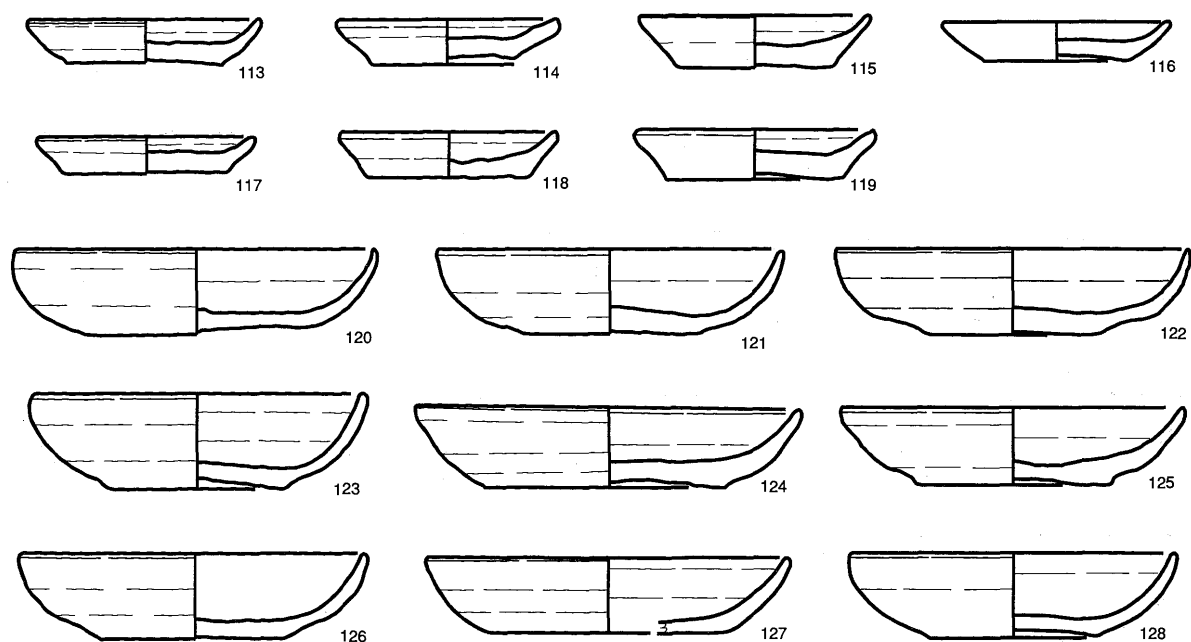


図21 72SD2出土土器類実測図 2

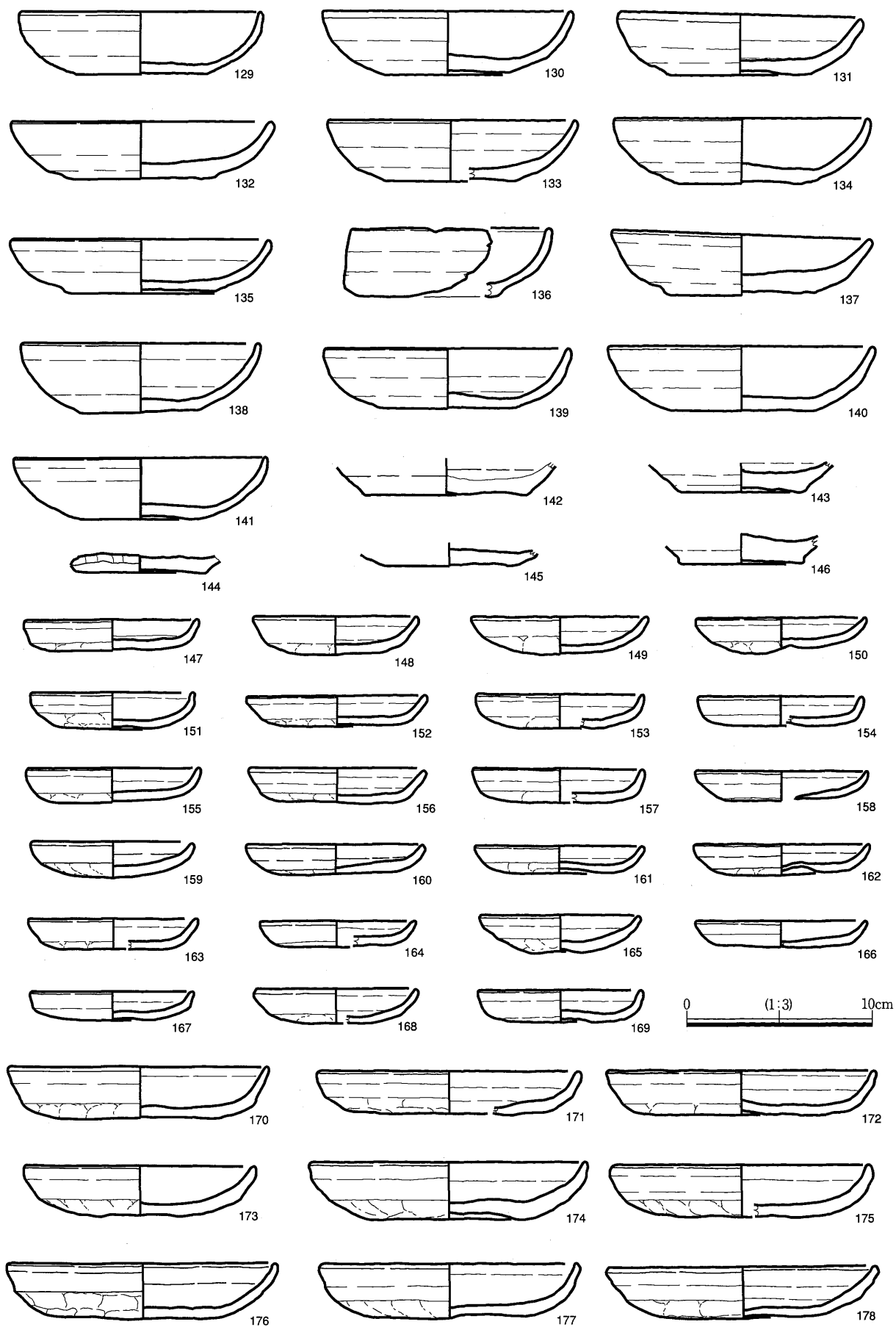


図22 72SD2出土土器類実測図 3

1 本調査区

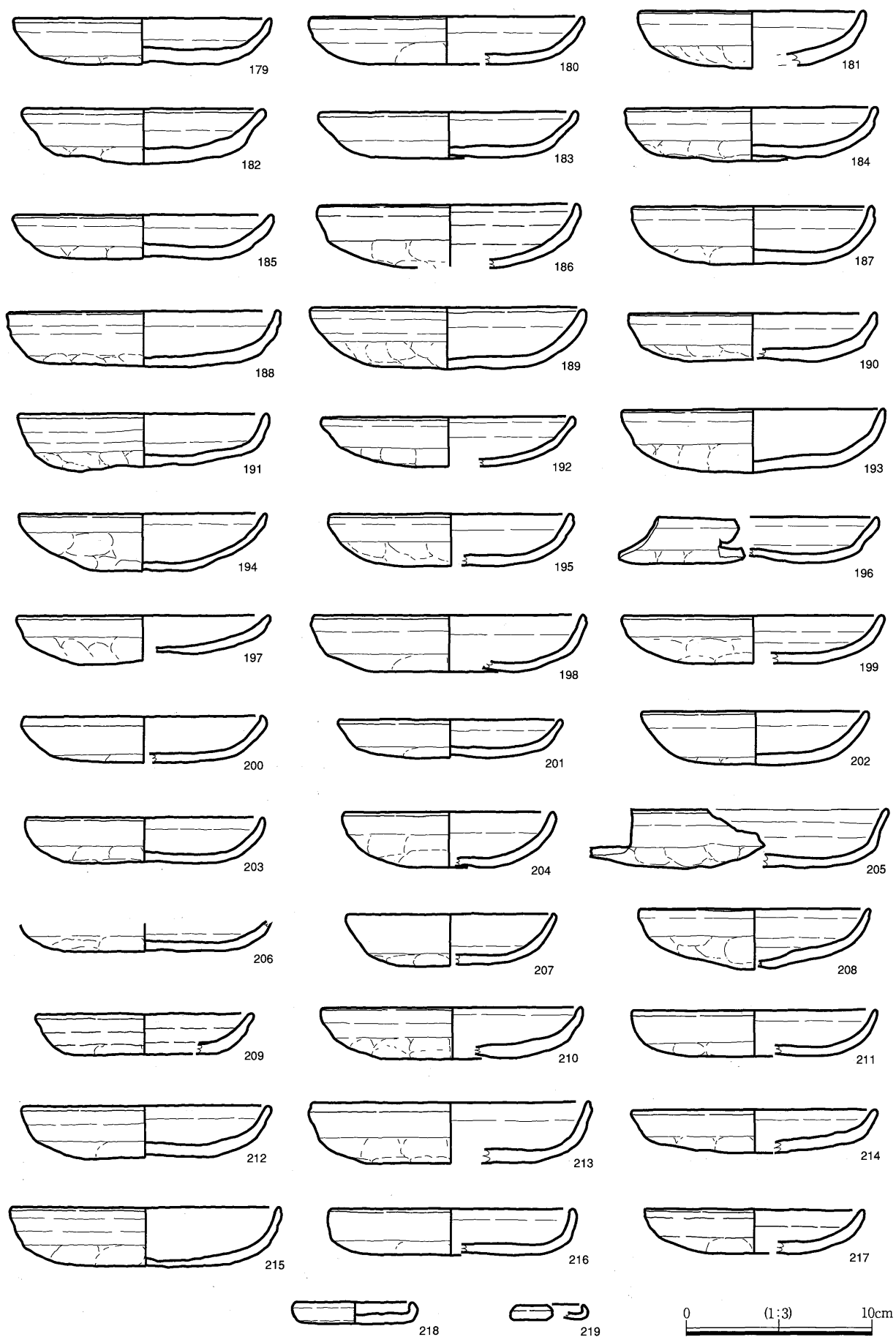


図23 72SD2出土土器類実測図 4

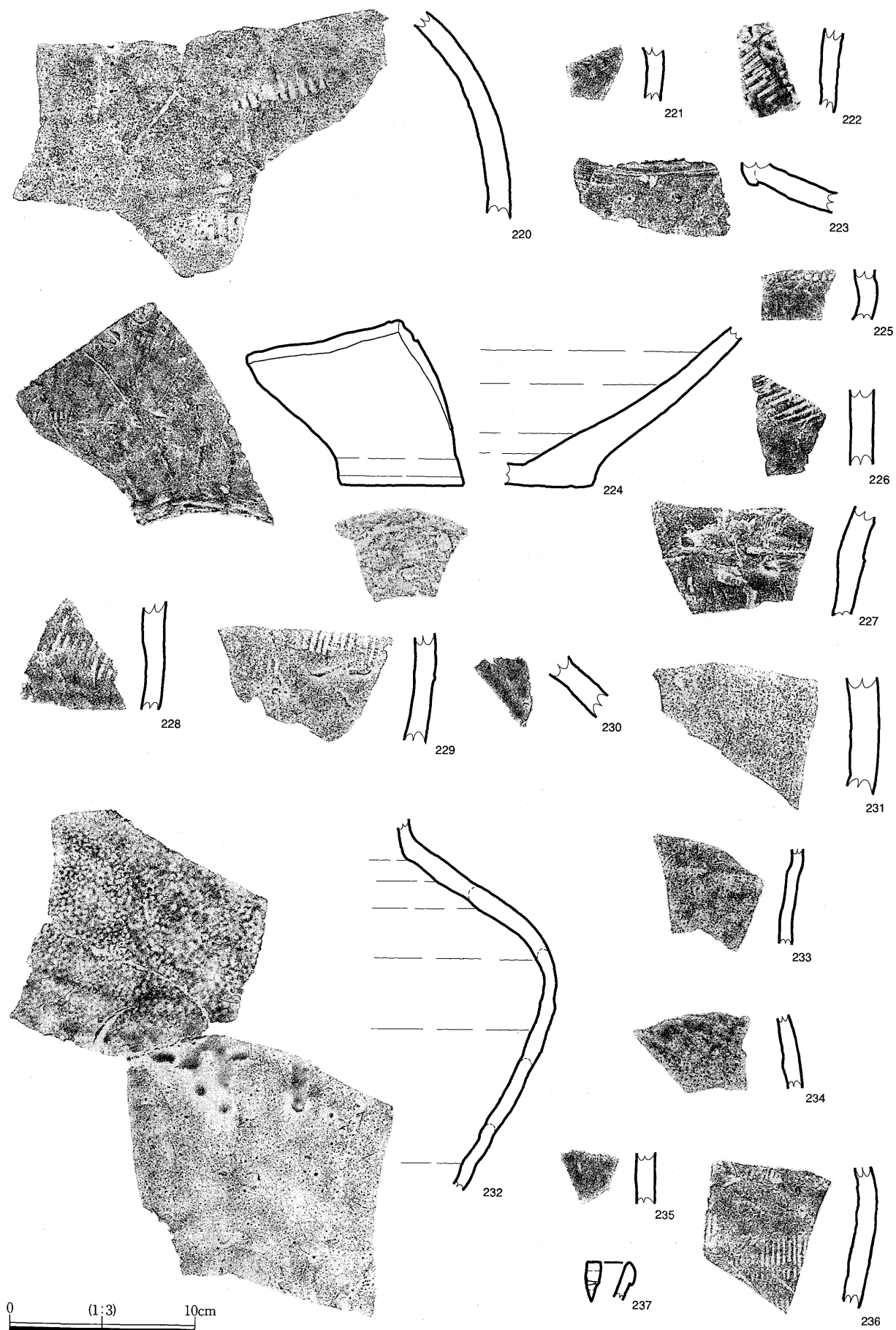


図24 72SD2出土土器類実測図 5

72SD2 その他

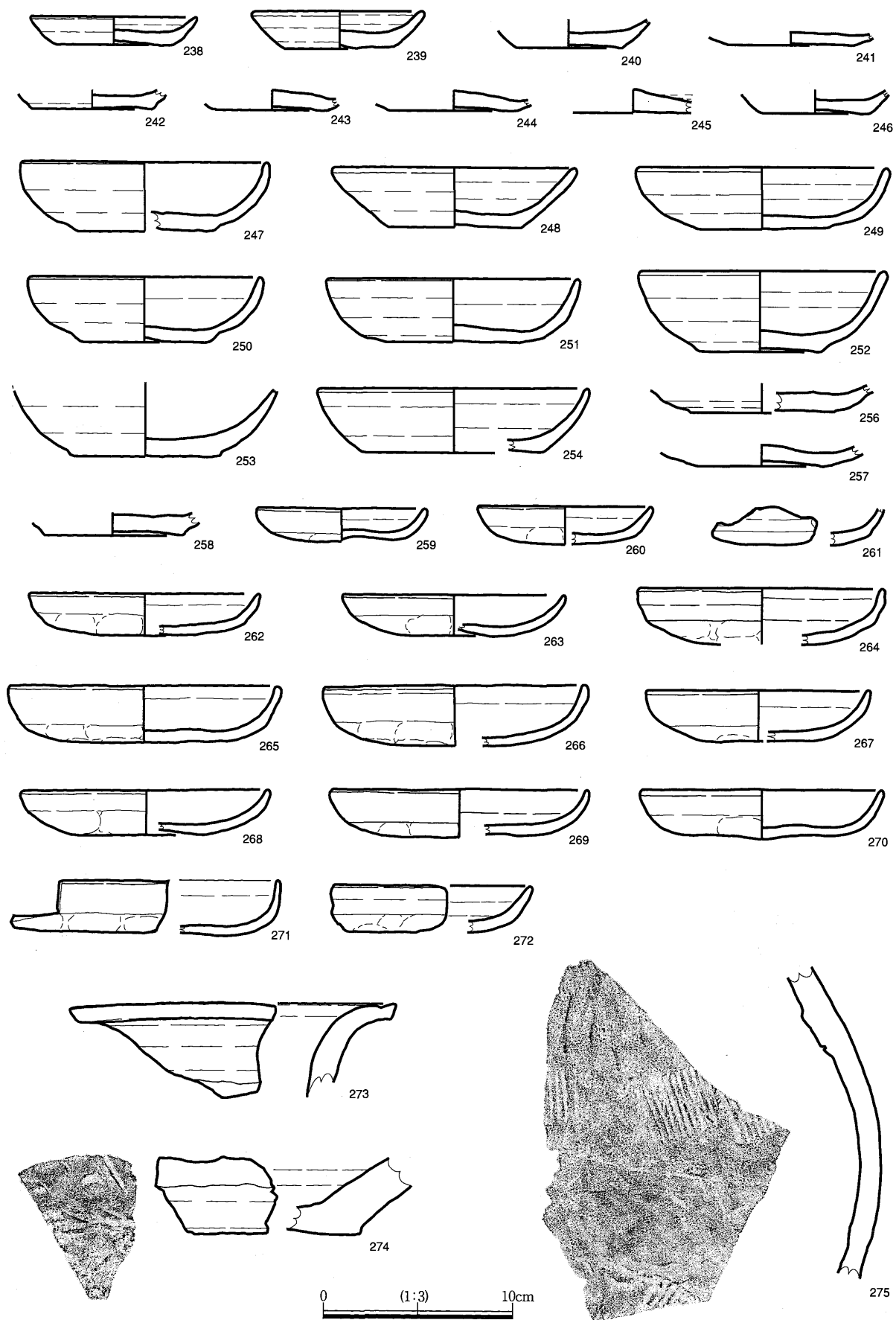
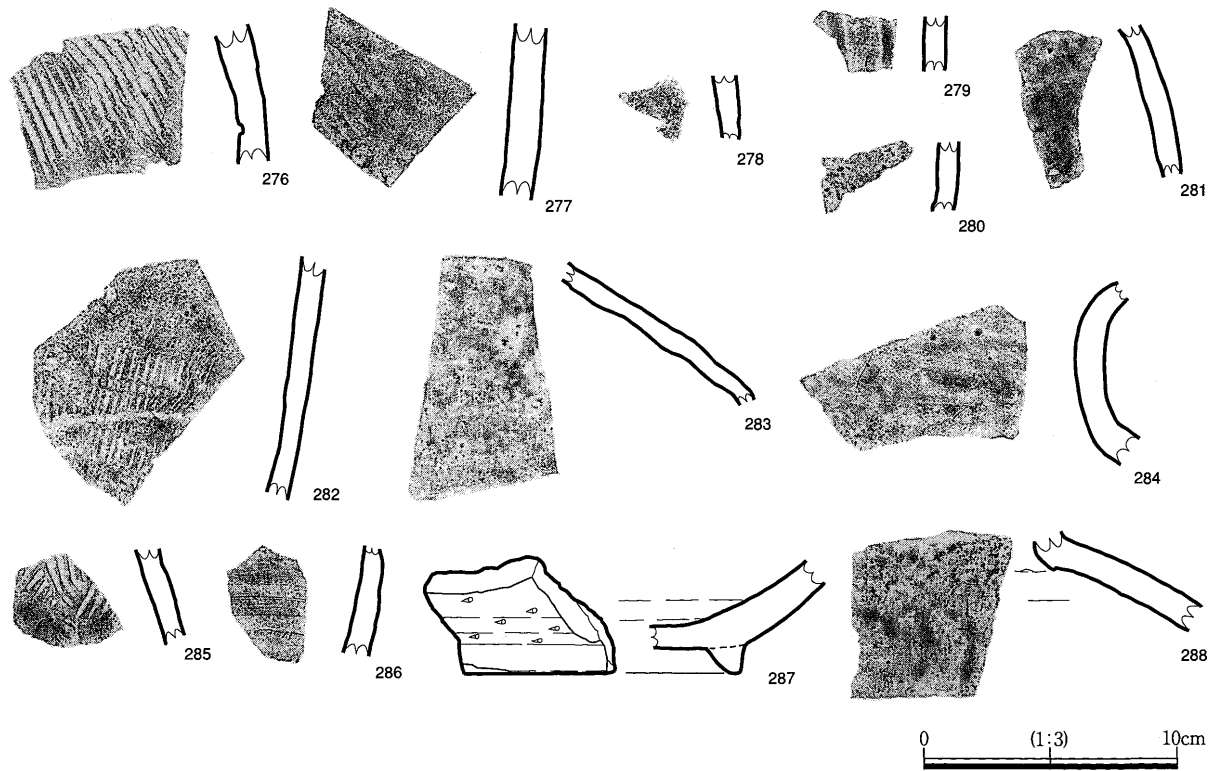
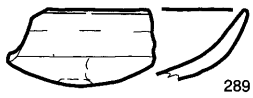


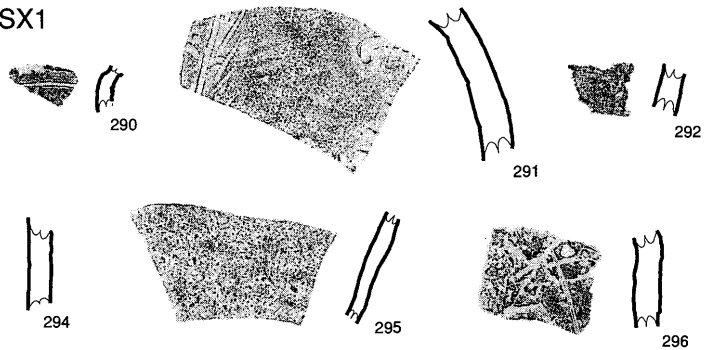
図25 72SD2出土土器類実測図 6



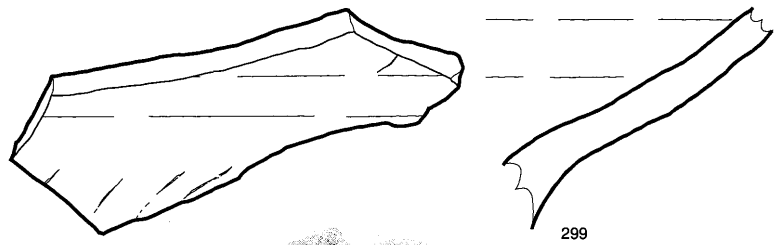
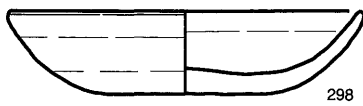
73SK2



73SX1



73SD1



73SD7

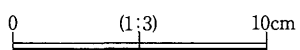


図26 72SD2・その他遺構出土土器類実測図

その他の遺構出土遺物

この他の遺構からの出土遺物では、289は73SK2から出土した手づくね大皿である。290～296は73SX1から出土した国産陶器類で、290・291は渥美窯産、292～296は常滑窯産である。291は刻画文がみられる。これらの遺物は近世段階の掘り込みから出土したもので、遺構の時期とは異なる遺物である。297は73SD7から出土した国産陶器で渥美窯産の甕体部片である。73SD1から出土した遺物では298はロクロ大皿、299は渥美窯産の甕、300は常滑窯産の甕である。

遺構外出土遺物

遺構外の遺物はかわらけ4点、国産陶器171点、輸入陶磁器10点を図示した（図27～30）。かわらけは303は内折れかわらけ、304は柱状高台の台部である。国産陶器は器種は壺、甕、片口鉢があり、305～336、363～377、385～442、482～484は渥美窯産である。335は刻画文がみられる。402・403は袈裟襷文壺とみられる。337～360、378～383、443～466は常滑窯産である。446は複線文が確認でき、三筋文壺とみられる。467は水沼産とみられる。

【土製品】

羽口・壁土が出土しているが、いずれも小破片であるため今回は表での掲載のみとした。壁土は総量で517.3g出土している。多くは72SD2の検出面で出土し、摩滅が著しい個体が多いため使用された位置等は不明だが、比較的数量が多く注目される。

（櫻井）

2 試掘調査区（図32）

本調査区の東側、57-46～58-48グリッド内に遺構の有無を確認する為に幅2mの試掘トレンチを3本設定した（第1～3トレンチ）。各トレンチとも表土直下が地山面となり、水道管設置の際の攪乱が検出されたのみで、遺構は確認されなかった。この調査区の北側は72次調査で標高28.7mほどの範囲で、東側の70次調査区では標高28.2mほどの範囲で、南側の56次調査区の北部では標高28mほどの範囲で、それぞれ遺構を確認している。それに対してこの調査区は27.5mで検出面となっており、0.5～1m程と大きく削平を受けていることがわかる。遺物はかわらけの細片528.7g、国産陶器49.4gが出土しており、国産陶器6点を掲載した（482～486）。

（村田）

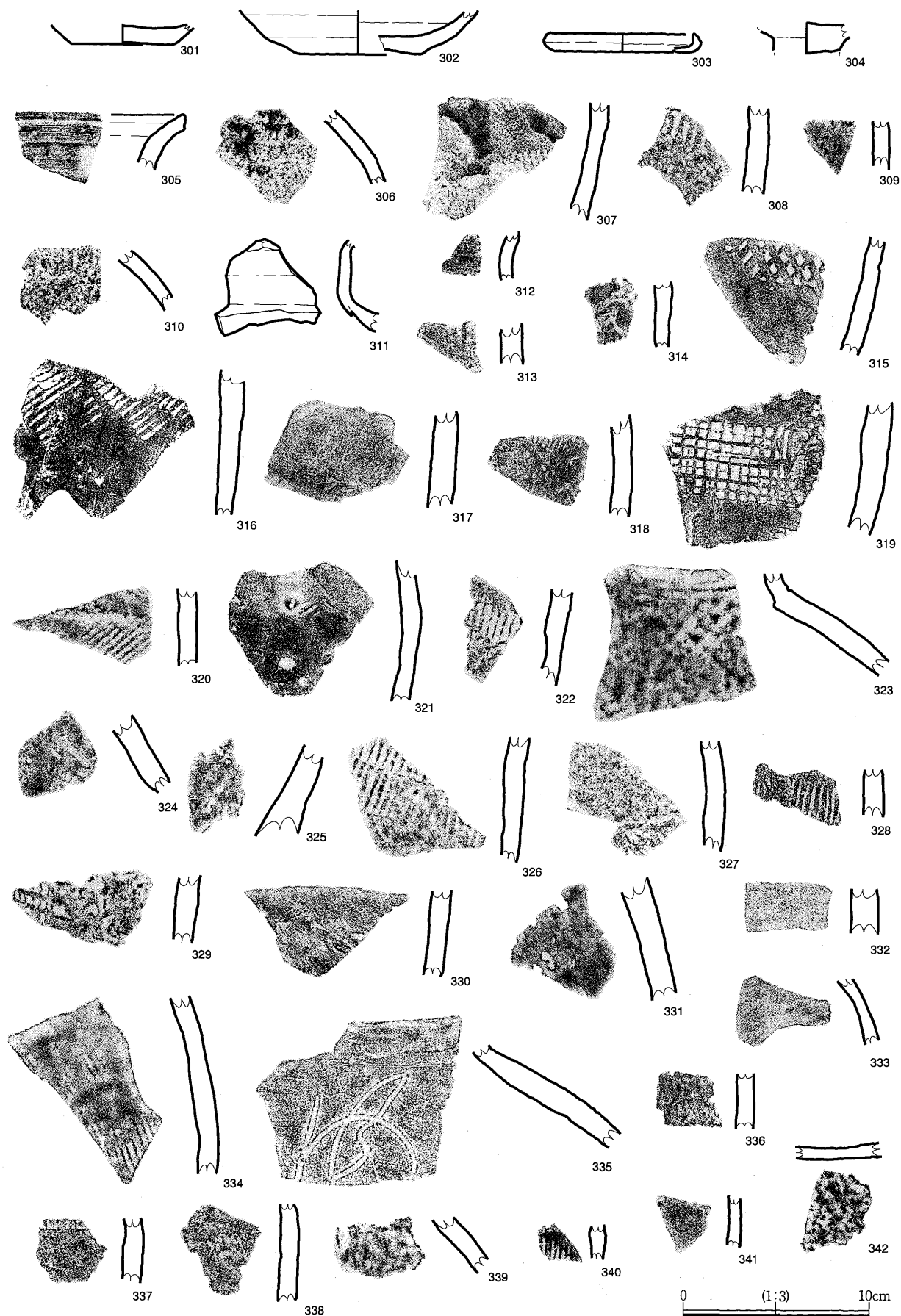


図27 遺構外出土土器類実測図 1

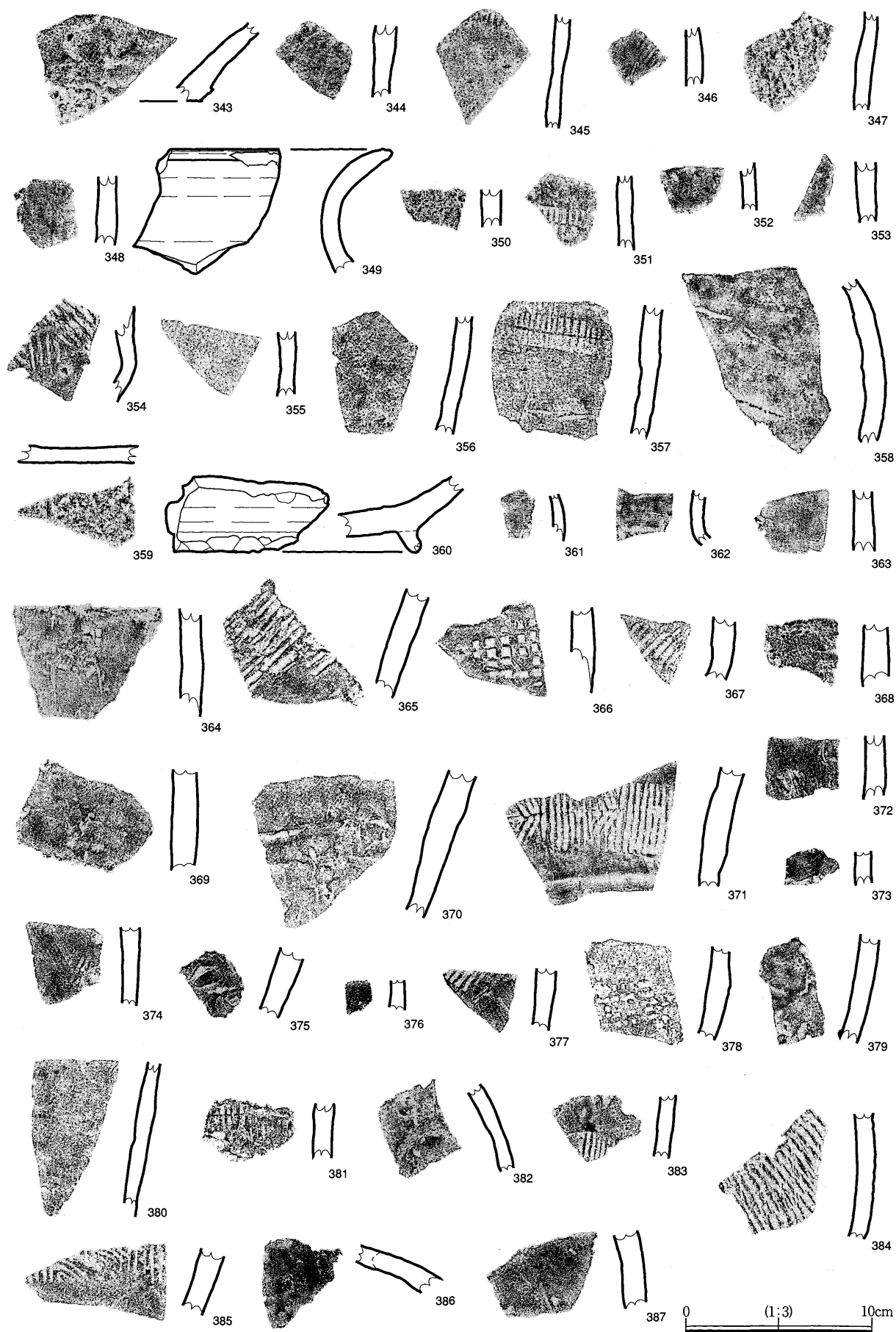


図28 遺構外出土土器類実測図 2

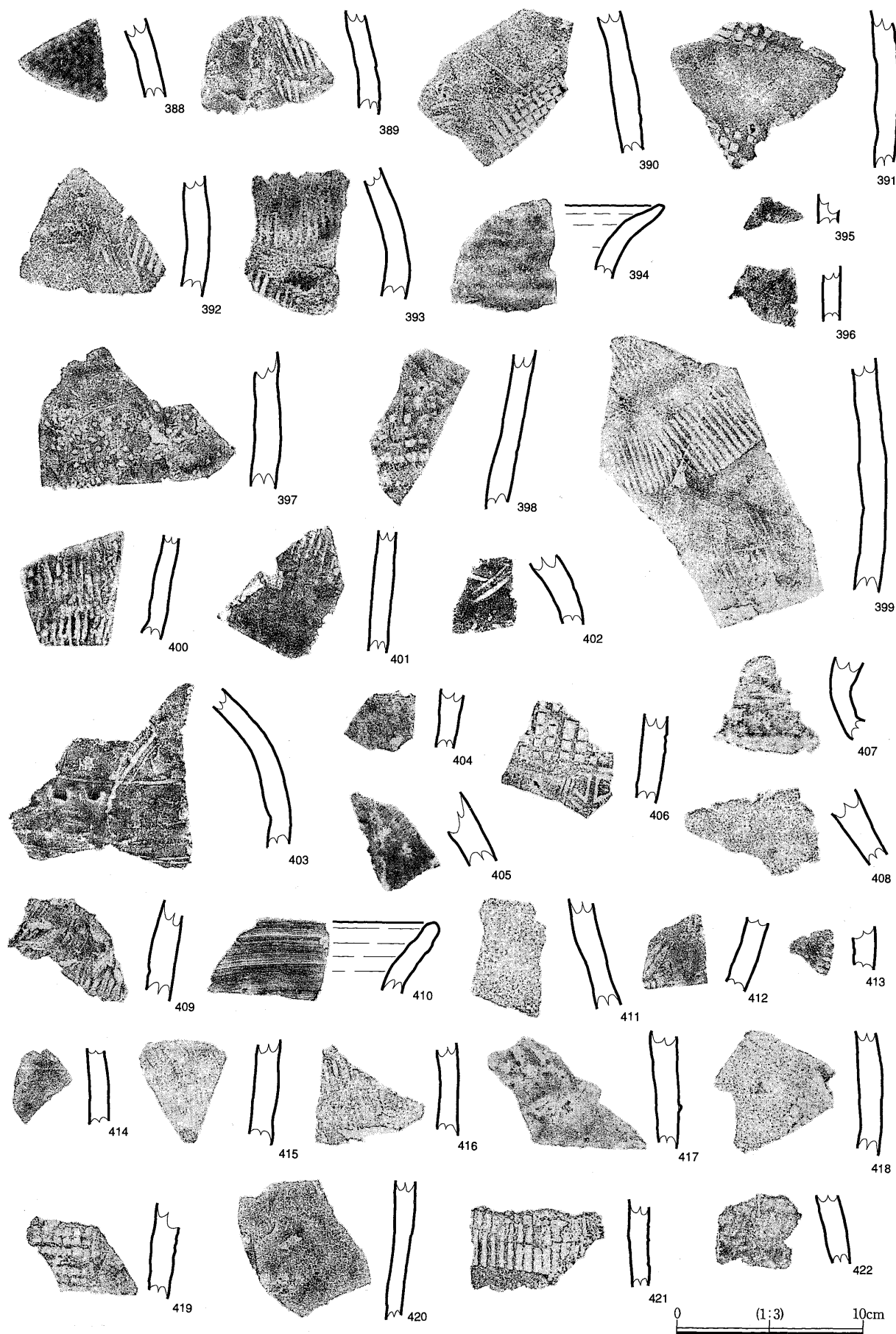


図29 遺構外出土土器類実測図 3

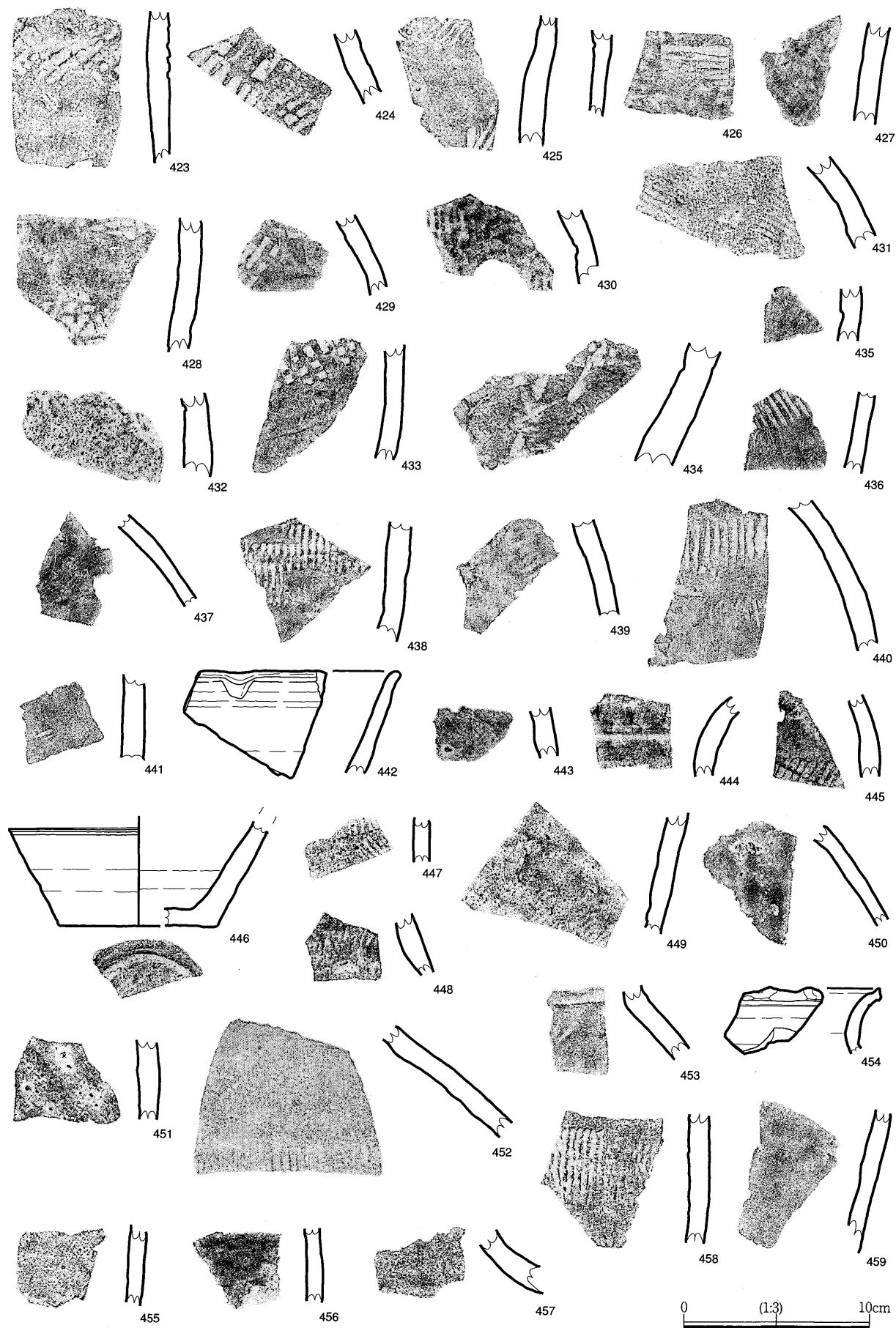


図30 遺構外出土土器類実測図 4

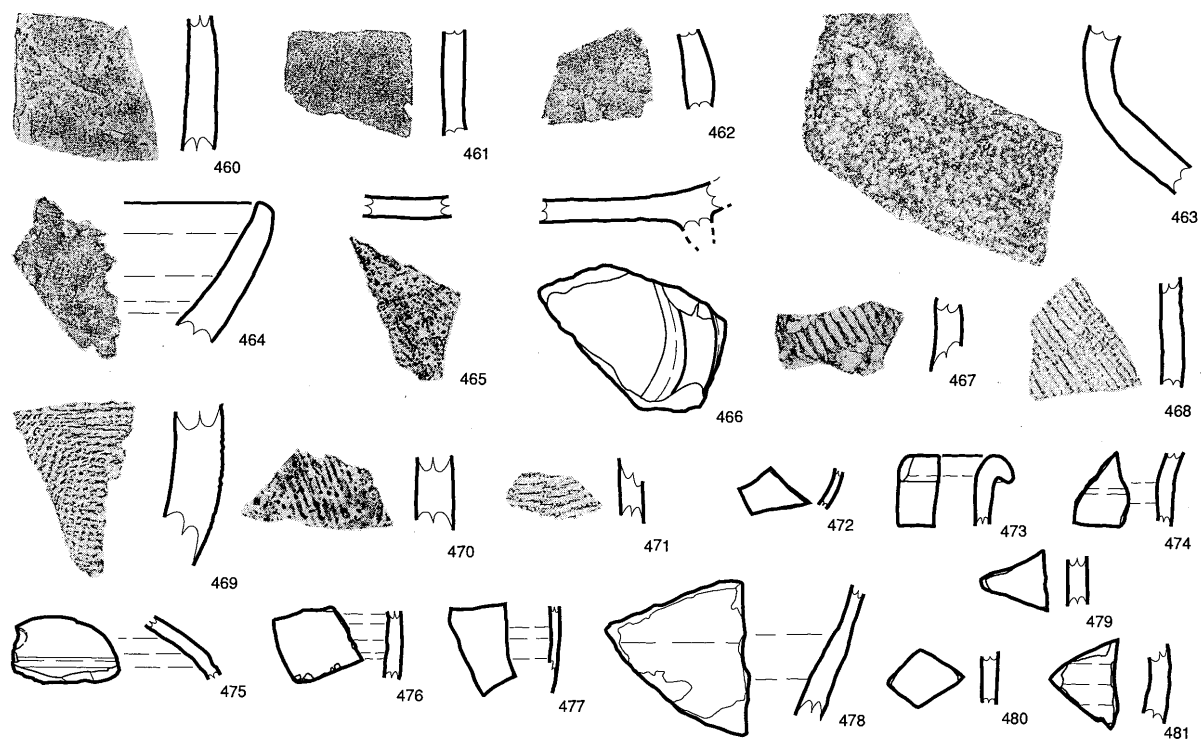


図31 遺構外出土土器類実測図 5

第1～3トレンチ

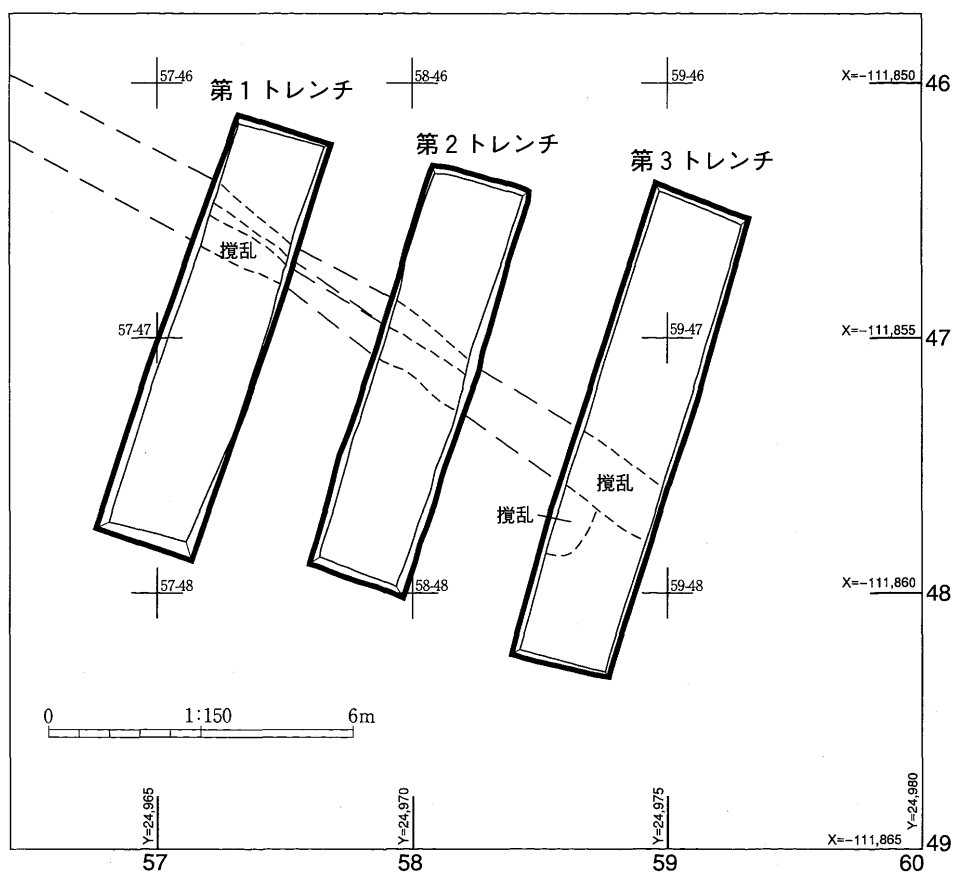


図32 試掘調査区平面図・出土土器実測図

Ⅲ 自然科学分析

パリノ・サーヴェイ株式会社

はじめに

柳之御所遺跡は、奥州藤原氏の政庁である「平泉館」に相当すると考えられており、これまでの発掘調査により、12世紀後半を中心とする遺構・遺物が確認されている。

本報告では、遺構の年代を確認するために、土坑(73SX1)内から出土した炭化材について放射性炭素年代測定を実施する。また、溝跡(72SD2)から出土した漆器2点について、木材利用を検討するための樹種同定と資料活用のための保存処理を実施する。

I. 放射性炭素年代測定

1. 試料

試料は、土坑(73SX1)内から出土した炭化材1点である。炭化材は、半径45mm、最大幅約30mmのミカン割状を呈する。残存する最外年輪を含む5年分を測定試料として採取した。

2. 分析方法

土壌や根など目的物と異なる年代を持つものが付着している場合、これらをピンセット、超音波洗浄などにより物理的に除去する。その後HClにより炭酸塩等酸可溶成分を除去、NaOHにより腐植酸等アルカリ可溶成分を除去、HClによりアルカリ処理時に生成した炭酸塩等酸可溶成分を除去する(酸・アルカリ・酸処理)。

試料をバイコール管に入れ、1gの酸化銅(Ⅱ)と銀箔(硫化物を除去するため)を加えて、管内を真空にして封じきり、500℃(30分)850℃(2時間)で加熱する。液体窒素と液体窒素+エタノールの温度差を利用し、真空ラインにてCO₂を精製する。真空ラインにてバイコール管に精製したCO₂と鉄・水素を投入し封じ切る。鉄のあるバイコール管底部のみを650℃で10時間以上加熱し、グラファイトを生成する。化学処理後のグラファイト・鉄粉混合試料を内径1mmの孔にプレスして、タンデム加速器のイオン源に装着し、測定する。測定機器は、3MV小型タンデム加速器をベースとした14C-AMS専用装置(NEC Pelletron 9SDH-2)を使用する。AMS測定時に、標準試料である米国国立標準局(NIST)から提供されるシュウ酸(HOX-II)とバックグラウンド試料の測定も行う。また、測定中同時に¹³C/¹²Cの測定も行うため、この値を用いて $\delta^{13}\text{C}$ を算出する。

放射性炭素の半減期はLIBBYの半減期5568年を使用する。また、測定年代は1950年を基点とした年代(BP)であり、誤差は標準偏差(One Sigma;68%)に相当する年代である。なお、暦年較正は、RADIOCARBON CALIBRATION PROGRAM CALIB REV6.00(Copyright 1986-2010 M Stuiver and PJ Reimer)を用い、誤差として標準偏差(One Sigma)を用いる。

暦年較正とは、大気中の¹⁴C濃度が一定で半減期が5568年として算出された年代値に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の¹⁴C濃度の変動、及び半減期の違い(¹⁴Cの半減期5730±40年)を較正することである。暦年較正に関しては、本来10年単位で表するのが通例であるが、将来的に暦年較正プログラムや暦年較正曲線の改正があった場合の再計算、再検討に対応するため、1年単位で表している。試料が炭化材であることから、北半球の大気中炭素に由来する較正曲線を用いる。

暦年較正は、測定誤差 σ 、 2σ 双方の値を計算する。 σ は統計的に真の値が68%の確率で存在する範囲、 2σ は真の値が95%の確率で存在する範囲である。また、表中の相対比とは、 σ 、 2σ の範囲をそれぞれ1とした場合、その範囲内で真の値が存在する確率を相対的に示したものである。

表5 放射性炭素年代測定及び暦年較正結果

遺構・層位	種類 (樹種)	処理 方法	測定 年代 BP	$\delta^{13}\text{C}$ (‰)	補正年代 (暦年較正用) BP	暦年較正結果				Code No.
						誤差	cal BC/AD	cal BP	相対比	
SX1 B3区東トレンチ 黒色炭まじり 層(26層)	炭化材 (コナラ属 コナラ節)	AAA	900±20	-23.48±0.47	920±20 (924±23)	σ	cal AD 1,045 - cal AD 1,096	cal BP 905 - 854	0.622	IAAA- 112357
							cal AD 1,119 - cal AD 1,141	cal BP 831 - 809	0.272	
							cal AD 1,147 - cal AD 1,155	cal BP 803 - 795	0.107	
						2σ	cal AD 1,032 - cal AD 1,163	cal BP 918 - 787	1.000	

- 1) 処理方法は、酸処理－アルカリ処理－酸処理(AAA処理)である。
- 2) 年代値の算出には、Libbyの半減期5568年を使用した。
- 3) BP年代値は、1950年を基点として何年前であることを示す。
- 4) 付記した誤差は、測定誤差 σ (測定値の68%が入る範囲)を年代値に換算した値。
- 5) 暦年の計算には、RADIOCARBON CALIBRATION PROGRAM CALIB REV6.0 (Copyright 1986-2010 M Stuiver and PJ Reimer)を使用した。
- 6) 暦年の計算には、補正年代に()で記した1桁目を丸める前の値を使用している。
- 7) 年代値は、1桁目を丸めるのが慣例だが、暦年較正曲線や暦年較正プログラムが改正された場合の再計算や比較が行いやすいように、暦年較正用年代値は1桁目を丸めていない。
- 8) 統計的に真の値が入る確率は σ は68%、 2σ は95%である。
- 9) 相対比は、 σ 、 2σ のそれぞれを1とした場合、確率的に真の値が存在する比率を相対的に示したものである。

3. 結果・考察

同位体効果による補正を行った測定結果および暦年較正結果を表5に示す。炭化材の補正年代は、920 $\pm$ 20BPであり、測定誤差を σ として計算させた暦年較正結果は、calAD1,045-1,155である。この結果から、11世紀中頃～12世紀中頃の年代が推定される。

なお、測定試料とした炭化材について、測定試料の由来を明らかにするために樹種同定を実施した結果、コナラ属コナラ節に同定された。コナラ節には、コナラ、ミズナラ、カシワ、ナラガシワがある。コナラ節は、山地～平地まで生育する落葉高木であり、木材は重硬で強度が高い材質を有する。

Ⅱ. 樹 種 同 定

1. 試 料

試料は、溝跡(72SD2)から出土した漆碗2点(297,335)である。

2. 分析方法

剃刀を用いて木口(横断面)・柁目(放射断面)・板目(接線断面)の3断面の徒手切片を直接採取する。切片をガム・クロラール(抱水クロラール、アラビアゴム粉末、グリセリン、蒸留水の混合液)で封入し、プレパラートとする。プレパラートは、生物顕微鏡で木材組織の種類や配列を観察し、その特徴を現生標本および独立行政法人森林総合研究所の日本産木材識別データベースと比較して種類を同定する。

なお、木材組織の名称や特徴は、島地・伊東(1982)やWheeler他(1998)を参考にする。また、日本産木材の組織配列は、林(1991)や伊東(1995,1996,1997,1998,1999)を参考にする。

3. 結 果

樹種同定結果を表6に示す。漆碗2点は、いずれも広葉樹のケヤキに同定された。以下に解剖学的特徴等を記す。

・ケヤキ (*Zelkova serrata* (Thunb.) Makino) ニレ科ケヤキ属

環孔材で、孔圈部は1-2列、孔圏外で急激に管径を減じたのち、塊状に複合して接線・斜方向に紋様状あるいは帯状に配列し、年輪界に向かって径を漸減させる。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列、小道管内壁にはらせん肥厚が認められる。放射組織は異性、1-6細胞幅、1-50細胞高。放射組織の上下縁辺部を中心に結晶細胞が認められる。

表6 樹種同定結果

掲載番号	登録番号	袋番号	遺構	位 置	層 位	器種	木取り	樹種	備考
295	72RW8	605	72SD2	Aトレンチ	16層	漆碗	横木地	ケヤキ	両面黒漆
335	72RW52	611	72SD2	Bトレンチ	埋土上位 暗褐	漆碗	横木地	ケヤキ	両面黒漆

4. 考 察

漆碗は、いずれも横木地であり、両面に黒漆が塗られている。漆碗の木材は、いずれもケヤキに同定された。ケヤキは山地から平地の水分の多い肥沃な土地に生育する落葉高木であり、木材は重硬で強度・靱性・耐朽性に優れる。この結果から、堅牢なケヤキを漆器木地として利用したことが推定される。

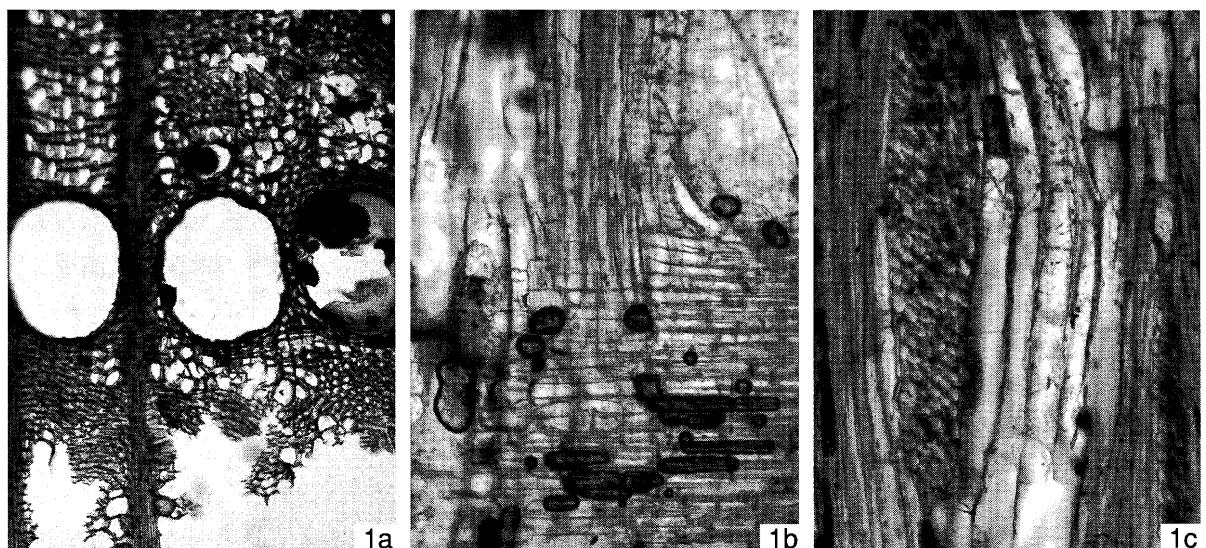
柳之御所遺跡では、これまでも第21・23・41・52・55・56次調査等で出土した漆碗や皿の樹種同定が行われている。その結果ではほとんどがケヤキであり、他の種類はブナ属が1点認められているだけである(能城,1995;高橋,1995a,2003a,2003b;パリノ・サーヴェイ株式会社,2001)。今回の結果は既往事例の用材傾向と調和的と言え、柳之御所遺跡では漆碗の木材にはケヤキを主体としていたことが推定される。

なお本地域では、志羅山遺跡や泉屋遺跡でも漆碗・皿について樹種同定が行われている(高橋,1995b,2000,2001;パリノ・サーヴェイ株式会社,2003)。その結果をみると、12世紀代の資料ではケヤキを主体とした木材利用が確認され、本遺跡と同様の木材利用状況が確認されている。一方、志羅山遺跡の12世紀以降の資料や13世紀前半～14世紀前半とされる資料ではブナ属の利用が目立ち、木材の利用状況が変化した可能性がある。

引用文献

- 林 昭三,1991,日本産木材 顕微鏡写真集.京都大学木質科学研究所.
- 伊東隆夫,1995,日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅰ.木材研究・資料,31,京都大学木質科学研究所,81-181.
- 伊東隆夫,1996,日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅱ.木材研究・資料,32,京都大学木質科学研究所,66-176.
- 伊東隆夫,1997,日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅲ.木材研究・資料,33,京都大学木質科学研究所,83-201.
- 伊東隆夫,1998,日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅳ.木材研究・資料,34,京都大学木質科学研究所,30-166.
- 伊東隆夫,1999,日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅴ.木材研究・資料,35,京都大学木質科学研究所,47-216.
- 能城修一,1995,柳之御所遺跡から出土した木製品の樹種.「柳之御所跡 一閑遊水地事業・平泉バイパス建設関連第21・23・28・31・36・41次発掘調査報告遺跡」,岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第228集,(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター,433-456.
- パリノ・サーヴェイ株式会社,2001,柳之御所遺跡から出土した木製品の樹種.「柳之御所遺跡一第52次発掘調査概報一」,岩手県文化財調査報告書第111集,岩手県教育委員会,153-160.

- バリノ・サーヴェイ株式会社,2003,泉屋遺跡第21次調査出土材の樹種.「泉屋遺跡第16・19・21次発掘調査報告書 一閑遊水地事業関連遺跡発掘調査(第2分冊)」,岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第399集,(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター,278-291.
- Richter H.G.,Grosser D.,Heinz I. and Gasson P.E.(編),2006,針葉樹材の識別 IAWAによる光学顕微鏡の特徴リスト.伊東隆夫・藤井智之・佐野雄三・安部 久・内海泰弘(日本語版監修),海青社,70p. [Richter H.G.,Grosser D.,Heinz I. and Gasson P.E.(2004)IAWA List of Microscopic Features for Softwood Identification].
- 島地 謙・伊東隆夫,1982,図説木材組織.地球社,176p.
- 高橋利彦,1995a,柳之御所遺跡第23次・31次調査出土材の樹種.「柳之御所跡 一閑遊水地事業・平泉バイパス建設関連第21・23・28・31・36・41次発掘調査報告」,岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第228集,(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター,423-432.
- 高橋利彦,1995b,平泉町志羅山遺跡25次調査出土材の樹種.「志羅山遺跡第14・25次発掘調査報告書」,岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第216集,岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター,115-118.
- 高橋利彦,2000,志羅山遺跡第66次・第74次調査出土材の樹種.「志羅山遺跡第46・66・74次発掘調査報告書」,岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第312集,(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター,433-444.
- 高橋利彦,2001,平泉町志羅山遺跡第80次調査出土材の樹種.「志羅山遺跡発掘調査報告書(第47・56・67・73・80次調査)」,岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第352集,(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター,649-662.
- 高橋利彦,2003a,柳之御所遺跡第55次調査出土材の樹種.「柳之御所遺跡 第56次発掘調査概報」,岩手県文化財調査報告書第117集,平泉遺跡群発掘調査報告書,岩手県教育委員会,100-108.
- 高橋利彦,2003b,柳之御所遺跡第56次調査出土材の樹種.「柳之御所遺跡―第56次発掘調査概報―」,岩手県文化財調査報告書第117集,岩手県教育委員会,84-99.
- Wheeler E.A.,Bass P. and Gasson P.E.(編),1998,広葉樹材の識別 IAWAによる光学顕微鏡の特徴リスト.伊東隆夫・藤井智之・佐伯 浩(日本語版監修),海青社,122p. [Wheeler E.A.,Bass P. and Gasson P.E.(1989)IAWA List of Microscopic Features for Hardwood Identification].



1.ケヤキ(72RW8)

a:木口, b:柁目, c:板目

200 μ m:a
100 μ m:b,c

図33 木材断面図

IV 総 括

今年度の調査成果についてまとめ、今後の調査の課題を述べる。

1 堀跡の調査成果

72SD1、72SD2は、昨年度確認した2条の堀跡と連続すると考えられる遺構である。これまで柳之御所遺跡の各地点で平行する2条の堀跡が確認されている。それらの堀跡と連続すると考えられ、柳之御所遺跡全体を堀が区画していることがわかる。

今回確認した堀跡についてそれぞれの特徴をまとめると、72SD1は精査していないが、幅が12～13mで上層には近世以降の盛土が厚く堆積し、整地されている。

72SD2は、旧宅地の範囲にあたり攪乱を受けているが、旧地形を大きく改変するような削平は行われていない。高館方面から伸びる丘陵の端部にあたり、遺跡が機能した当時から周囲よりやや高い範囲が伸びていたとみられる。72SD2は幅が4～5m、底面では幅3m程、深さが深い部分で約1.5mの逆台形状である。北側の72次調査の範囲では幅が3～4m、深さがもっとも深い部分でも0.8mで、旧水田であり削平が著しい範囲であることが推定されていた。今回の調査成果と合わせると、本来の地形は今回の範囲の標高から20～30cm程高い地形が高館方面から伸びる傾斜地であったことが想定される。ただし、堀内部にかけての範囲では標高が高くなることから、やや下がる沢状の部分に堀が構築されたことも想定されるが、この範囲では旧地形の残存が堀跡内外のいずれでも良好ではないため判別できない。堆積層はほぼ全体が人為堆積による埋土で、堀廃絶時に埋められたと考えられる。断面形状や堆積の様相からは、明確な作り替えの痕跡は確認できない。72SD2堀跡周辺には土坑が複数みつまっているが、堀に伴うものかは不明である。

72SD2の時期については精査したトレンチからの出土遺物をみると、国産陶器が少ないことが指摘できる。かわらけでは、ロクロかわらけの数量が手づくねかわらけに比して多いことやロクロかわらけでは器高の高い椀形の器形が含まれること、手づくねかわらけ大皿では口径が15cmとやや大きいものが含まれることが指摘できる。ただし、手づくねかわらけ大皿は口径14.5cm前後のものが多くことや手づくね小皿でも口径が8.5～10.0cmと幅をもち、小型の資料も含まれる。これらは12世紀中葉の後半以降から12世紀後半代の特徴として指摘されており、その中でも12世紀第3四半期ころの資料と類似する特徴である。今回の調査ではかわらけ等の資料が限られることもあり、ここでは厳密な時期は確定できない。72SD2については72次調査範囲でも人為堆積により埋められており、12世紀中葉から後半代のかかわりが出土している。この内容は今回の成果とも整合するが、72SD2は長大な遺構でもあり、時期や埋め戻しの様相は地点による差が想定される。より南側の範囲を74次調査で調査しており、それらと合わせて堀外部と接する遺跡西側の堀跡の様相や時期を検討したい。

2 調査区周辺の様相

今回の調査範囲は道路跡の延長部分にあたるのが指摘されてきた(図34)。既述のように今回の調査範囲は宅地による攪乱を受けていたものの、旧水田耕作地にみられるような地形改変を伴う削平は受けていないことがわかる。遺跡が機能した当時から高館方面から伸びる丘陵の端部周囲よりやや高い範囲が伸びていたとみられる。ただし、今回の調査範囲のなかでは橋跡や関連する建物跡は確認できていない。また堀内部に入る部分に設定した試掘調査区の成果から堀内部の導入部は大きく削平

を受けており、遺構の有無が確認できない。そのため、今回の調査範囲からは、この範囲の様相には不確定な要素が多い。

このうち、今回の調査範囲で確認された遺構では平行して走る73SD4と73SD7が目される。遺構の詳細で既述したように道路状遺構として確定するには不確定な部分があるが、周囲との関連などからは道路状遺構の可能性が想定できる(73SC1)。この2条の溝跡の成果をまとめると、73SD4はN-76°-Wの走向で幅が約0.4m程、深さが約0.2m程である。73SD7はN-70°-Wの走向で幅が約0.8m程、深さが約0.2m程である。両者の関係は走向は東西方向を向き、幅は10m弱となり、底面の標高の差が0.5m程である。いずれの範囲でも遺構上面の堆積土が薄く削平を受けたとみられ、路面等の痕跡は残っていない。

ここで柳之御所遺跡の堀内部及び外部で確認されている道路状遺構をまとめると表7のとおりである(註1)。遺跡内では6本の道路跡が確認され、いずれも遺跡外の他の地区との関連が想定され、柳之御所遺跡が他の遺跡と関連をもちながら機能していたことを示している。建物跡との切り合いが存在する道路もあることから、遺跡が機能した段階で遺構変遷があったことが理解できる。また、いずれも遺構面は削平を受けており、顕著な硬化面や平泉町内の他の遺跡で確認されている波板状凹凸の痕跡などの地業痕跡は確認されていない。

このうち、今回の調査で確認された道路状遺構は、方向から堀外部の道路遺構とつながる可能性があるが、幅には差異もみられる。ただし、一連の道路遺構でも一定の幅に収まるものではないことからすれば、この点からは反証とはならない。堀内部の道路で時期による変遷が想定されることや堀外部の端部で確認されている整地層などの存在から(平泉町教委1993)、遺跡内の時期的な遺構変遷と関連した道路跡の変化も想定される。今後はそれらと合わせた未調査範囲の検討が必要となり、特に堀外部については今回の遺構とさらに外部で既に確認されている道路遺構とがつながる部分が未調査範囲となっている。そして、堀内外で確認されている道路状遺構の連続を含め、調査範囲の南側など周囲の様相には不明な点が残されており、今回の調査範囲を含めた周囲にはこれらの関連する遺構が存在する可能性が高い。これらは堀外部地区を含めた隣接地点の調査によって、今後検討を加える必要がある。それによって堀内部と外部とを結ぶ範囲の様相が示すことが可能となる。今回の調査では堀外部の道路遺構とつながる可能性を指摘するにとどめておきたい。

表7 柳之御所遺跡道路遺構一覧

		遺 構 名	方向		幅	備 考
堀内部	21SC1	21SD4・23SD10	南北	N-4°-E	7.6~10.2	志羅山遺跡・泉屋遺跡等へ延びる道路跡
		21SD7・23SD13				
	55SC1	50SA1	東西	N-79°-W	13.0	堀内部から中尊寺方向へ延びる
		37SD4・55SA5				
	52SC1	52SD30→52SD32	東西	N-60°-W	8.0	堀内部から中尊寺方向へ延びる
		52SD29・10・14・22				
	65SC1	65SA1	東西	N-70°-W	4.0	無量光院跡方向へ延びる道路跡か
		65SA3				
堀外部	道路遺構	25SD3→25SD7・29SD2	東西	M-72°-W	8.0	中尊寺方向へと延びる道路跡
		29SD1				
	73SC1	73SD4	東西	N-76°-W	10.0	中尊寺方向へと延びる道路跡か
		73SD7				



図34 道路遺構分布図

3 ま と め

- 1) 柳之御所遺跡の西側の堀跡周辺部を調査し、堀跡2条、土坑、溝跡を確認した。溝跡はうち2条が平行に走り、道路跡の可能性はある。72SD2を精査し、年代検討の材料を得ることができたが、下層からの遺物は点数、総重量ともに少なく今回の範囲では12世紀後半に埋められたと考えるにとどまる。74次調査で南側を調査することから、それらと合わせて検討する必要がある。
- 2) 今回の調査範囲では道路状遺構を確認したが、橋跡等は確認されなかった。今回の調査範囲は宅地として利用されていたこともあり、周囲の旧水田耕作地と比べて旧地形は比較的残されていた範囲であるが遺構検出面は削平が著しい。これまでの調査成果をふまえると、堀の内外をつなぐ部分がこの周囲に想定され、未調査範囲も含めて未確認の遺構が存在する可能性がある。

(櫻井)

註

- 1) このほかに21次調査区で確認されている溝跡が無量光院跡方向へ向かう道路跡の可能性はあるほか、21SC1の延長部分で確認されている部分で道路跡の可能性はある。

表8 遺物観察表(かわらけ)

掲載 番号	器種名	出土遺構	層 位	口径	器高	底径	重量 (g)	残存率 (%)	色 調	備 考	登録番号
1	ロクロ 小	72SD1	盛土	8.8	2.1	6.2	68.7	90	2.5Y8/2灰白	骨針を含む 器形の歪みが大きい部分がある	73ROk195
2	ロクロ 大	72SD1	盛土	13.0	3.2	7.6	137.8	80	10YR8/1灰白		73ROk198
3	ロクロ 大	72SD1	盛土	14.3	3.4	7.5	142.0	80	7.5YR8/4浅黄橙	骨針を含む	73ROk196
4	ロクロ 大	72SD1	盛土	13.0	3.7	6.2	108.8	50	5YR5/6明赤褐	外面摩滅が著しい	73ROk199
5	ロクロ 大	72SD1	盛土	14.4	4.7	7.8	182.3	80	2.5Y8/1灰白		73ROk197
60	ロクロ 小	72SD2 南トレンチ	23・27層	8.8	1.7	6.7	84.8	100	7.5YR8/6浅黄橙	胎土に骨針含む	73ROk146
61	ロクロ 大	72SD2 南トレンチ	16・17層	11.0	1.8	8.6	66.9	30	7.5YR8/2灰白	全体に摩滅が著しい 石粒を多く含む	73ROk147
62	ロクロ 大	72SD2 南トレンチ	1層	12.4	3.6	7.0	81.2	45	7.5YR7/4にぶい橙	骨針・石粒を多く含む 内面は黒色粒を含む	73ROk148
63	ロクロ 大	72SD2 南トレンチ	23・27層	12.6	4.3	6.4	74.6	30	2.5Y8/2灰白	骨針を多く含む 穿孔(径2.0cm)へう状の痕跡有	73ROk149
64	ロクロ 大	72SD2 南トレンチ	28層直上No.1	14.0	4.6	6.5	152.7	45	2.5Y8/2灰白	内面のナデは薄い 糸切痕(粘土の凹凸が著しい)	73ROk150
65	ロクロ 大	72SD2 南トレンチ	14・18層	14.6	4.2	7.0	220.6	80	2.5Y8/3淡黄	骨針を多く含む 摩滅が著しい	73ROk151
66	ロクロ 大	72SD2 南トレンチ	23・27層	14.4	4.3	8.0	219.7	95	10YR8/2灰白	骨針を含む	73ROk152
67	ロクロ 大	72SD2 南トレンチ	28層直上No.1	14.3	3.9	6.8	273.6	90	2.5Y8/2灰白		73ROk153
68	ロクロ 大	72SD2 南トレンチ	23・27層	14.8	3.5	6.0	82.8	40	7.5YR8/2灰白		73ROk154
69	手づくね 小	72SD2 南トレンチ	2層	8.0	1.6	-	18.2	30	2.5Y8/3淡黄	摩滅が著しい	73ROk155
70	手づくね 大	72SD2 南トレンチ	清掃中	13.4	2.8	-	37.0	15	10YR8/3浅黄橙		73ROk157
73	ロクロ 小	72SD2 北トレンチ	2～5層上面(No.3)	9.0	2.4	5.2	55.4	60	2.5Y8/3淡黄	胎土は密で石粒等は含まない 骨針を含む 糸切痕(摩滅のため薄い)	73ROk88
74	ロクロ 小	72SD2 北トレンチ	2～5層上面(No.6)	8.6	1.9	5.5	45.5	60	2.5Y8/1灰白	摩滅が著しい 骨針を含む	73ROk89
75	ロクロ 小	72SD2 北トレンチ	2～5層上面(No.10)	9.6	1.8	6.6	62.8	80	2.5Y8/3淡黄	全体に摩滅が著しい 骨針・石粒を多く含む	73ROk90
76	ロクロ 小	72SD2 北トレンチ	2～5層上面(No.20)	9.4	2.0	7.5	105.6	98	2.5Y8/2灰白	胎土に海綿骨針を含む 摩滅が著しい	73ROk91
77	ロクロ 小	72SD2 北トレンチ	2～5層上面(No.22)	8.4	1.3	5.6	53.9	95	5YR8/3淡橙	全体に摩滅が著しい 胎土は粗い	73ROk92
78	ロクロ 小	72SD2 北トレンチ	2～5層上面(No.19)	8.6	1.3	5.7	62.3	98	2.5Y8/2灰白	摩滅著しい	73ROk93
79	ロクロ 小	72SD2 北トレンチ	2層	8.4	1.5	5.5	47.2	80	2.5Y8/1灰白	全体に摩滅が著しい 胎土に骨針を含む 石粒等が多い	73ROk110
80	ロクロ 小	72SD2 北トレンチ	2層	8.5	1.8	5.3	40.9	75	2.5Y8/3淡黄	骨針・石粒を多く含む	73ROk111
81	ロクロ 大	72SD2 北トレンチ	2～5層上面(No.1)	14.7	3.4	7.6	71.1	30	2.5Y8/3淡黄	骨針を少量含む 底面摩滅が著しい	73ROk94
82	ロクロ 大	72SD2 北トレンチ	2～5層上面(No.14)	14.2	4.2	6.6	218.2	98	2.5Y8/3淡黄	石粒(長石等)が多く粗い 骨針は少ない 内面半分摩滅が著しい	73ROk95
83	ロクロ 大	72SD2 北トレンチ	2～5層上面(No.15)、 2層、51-44以北清掃中	15.0	4.0	7.1	156.1	75	外:2.5Y8/3淡黄 内:5Y6/1灰	胎土に海綿骨針を少量含む	73ROk96
84	ロクロ 大	72SD2 北トレンチ	2～5層上面(No.16)	13.9	3.5	8.5	176.2	60	2.5Y8/4淡黄	骨針・石粒を多く含む	73ROk97
85	ロクロ 大	72SD2 北トレンチ	2～5層上面(No.18)	14.2	3.4	9.1	183.0	75	2.5Y8/2灰白	胎土に海綿骨針を少量含む 内面凹凸強い	73ROk98
86	ロクロ 大	72SD2 北トレンチ	2～5層上面(No.21)	15.0	4.1	7.0	258.9	95	2.5Y8/2灰白	摩滅が著しい 骨針・雲母を少量含む 外面一部黒色化している	73ROk99
87	ロクロ 大	72SD2 北トレンチ	2～5層上面(No.21)	15.0	4.2	5.6	207.4	75	10YR3/2黒褐	骨針を含む 内面平行にナデ痕が残る	73ROk100
88	ロクロ 大	72SD2 北トレンチ	2～5層上面(No.23)	14.6	3.8	6.8	187.8	80	外:2.5Y3/1黒褐 内:2.5Y8/2灰白	骨針を多く含む 糸切痕有 糸の密度が濃い	73ROk121
89	ロクロ 大	72SD2 北トレンチ	5層	13.8	4.8	6.5	95.3	30	2.5Y8/4淡黄	骨針を多く含む 長石粒を少量含む	73ROk120
90	ロクロ 大	72SD2 北トレンチ	2層	13.2	4.1	6.8	190.5	90	2.5Y8/2灰白		73ROk115
91	ロクロ 大	72SD2 北トレンチ	5層	13.6	3.7	7.6	222.8	95	2.5Y8/2灰白	骨針を含む	73ROk118
92	ロクロ 大	72SD2 北トレンチ	5層	15.6	3.8	7.8	112.7	45	10YR8/3浅黄橙	摩滅している	73ROk117
93	ロクロ 大	72SD2 北トレンチ	2層	15.2	4.0	7.4	84.0	40	2.5Y8/2灰白	外面は摩滅 骨針を含む	73ROk113
94	ロクロ 大	72SD2 北トレンチ	2層	14.5	3.8	7.8	57.0	20	2.5Y8/3淡黄		73ROk114
95	ロクロ 大	72SD2 北トレンチ	5層下位	14.6	3.0	8.0	116.5	45	2.5Y8/3淡黄	骨針を含む	73ROk119
96	ロクロ 大	72SD2 北トレンチ	5層	-	-	8.0	44.9	10	2.5Y8/2灰白	骨針を多く含む	73ROk116
97	ロクロ 大	72SD2 北トレンチ	2層	-	-	8.5	83.3	15	2.5Y8/3淡黄		73ROk112
98	ロクロ 大	72SD2 北トレンチ	2～5層上面(No.5)	-	-	7.5	103.6	15	2.5Y8/3淡黄		73ROk101
99	手づくね 小	72SD2 北トレンチ	2～5層上面(No.17)	9.4	2.1	-	58.7	98	10YR8/1灰白	口縁部面取り ナデ 粘土えぐれ有(工具?)	73ROk102
100	手づくね 小	72SD2 北トレンチ	2～5層上面(No.4)	9.9	1.9	-	31.8	30	2.5Y8/2灰白	外面下部軽い指押さえ 摩滅 骨針を少量含む	73ROk104
101	手づくね 小	72SD2 北トレンチ	2～5層上面(No.3)	8.8	1.9	-	46.3	50	2.5Y8/2灰白		73ROk103
102	手づくね 小	72SD2 北トレンチ	2～5層上面(No.8)、 2層	10.0	2.1	-	79.7	95	10YR6/2灰黄褐	骨針を含むが少ない 外面は摩滅が著しい 底面凹凸が多い	73ROk105
103	手づくね 小	72SD2 北トレンチ	2層	10.0	2.3	-	58.7	80	2.5Y8/2灰白	外面摩滅が著しい	73ROk122
104	手づくね 小	72SD2 北トレンチ	2層	8.5	2.0	-	27.7	40	2.5Y8/2灰白		73ROk123
105	手づくね 小	72SD2 北トレンチ	2層	9.2	2.0	-	24.4	20	2.5Y8/3淡黄	骨針を含む	73ROk124
106	手づくね 大	72SD2 北トレンチ	2～5層上面(No.4)	15.0	3.2	-	44.6	30	2.5Y5/1黄灰		73ROk106
107	手づくね 大	72SD2 北トレンチ	2～5層上面(No.9)	14.5	3.5	-	89.9	40	2.5Y8/1灰白	スノコ痕有	73ROk107

表8-2 遺物観察表(かわらけ)

掲載 番号	器種名	出土遺構	層 位	口径	器高	底径	重量 (g)	残存率 (%)	色 調	備 考	登録番号
108	手づくね 大	72SD2 北トレンチ	2~5層上面(No.12)	14.6	3.5	-	247.5	75	外:2.5Y8/3淡黄 内:2.5Y7/2灰黄	全体的に摩滅している	73ROk108
109	手づくね 大	72SD2 北トレンチ	2~5層上面(No.13)	14.4	3.0	-	141.2	95	2.5Y8/3淡黄		73ROk109
110	手づくね 大	72SD2 北トレンチ	5層	15.0	3.0	-	45.8	30	2.5Y8/2灰白		73ROk125
111	手づくね 大	72SD2 北トレンチ	2層	14.3	3.3	-	51.1	25	2.5Y8/2灰白	外面に油煙痕	73ROk126
113	ロクロ 小	72SD2 2区	暗褐色土(No.8直下)	9.4	1.7	6.2	73.5	100	7.5YR8/4浅黄橙		73ROk1
114	ロクロ 小	72SD2 2区	砂層	8.7	1.9	5.7	75.9	90	10YR8/4浅黄橙	全体的に歪んでいる	73ROk57
115	ロクロ 小	72SD2 2区	砂層	9.0	2.1	6.3	64.4	65	5YR7/6橙	摩滅している	73ROk58
116	ロクロ 小	72SD2 2区	砂層	-	1.6	5.7	44.6	80	10YR8/4浅黄橙	摩滅が著しい 骨針を含む	73ROk59
117	ロクロ 小	72SD2 1区	最上位黄褐色土	8.6	1.4	6.6	65.9	95	7.5YR8/3浅黄橙	骨針・砂粒を多く含む 口縁部一部黒色化	73ROk127
118	ロクロ 小	72SD2 3区	砂層下の褐灰色土	8.6	1.8	6.5	43.5	45	5YR8/4淡橙	骨針を多く含む 長石粒など石粒が多く粗い胎土	73ROk134
119	ロクロ 小	72SD2 4区	攪乱	9.4	2.0	6.8	65.7	60	2.5Y8/4淡黄		73ROk144
120	ロクロ 大	72SD2 2区	暗褐色土(No.1)	14.0	3.5	7.6	189.9	95	7.5YR7/6橙		73ROk2
121	ロクロ 大	72SD2 2区	暗褐色土(No.1・11周辺)	13.5	3.3	7.0	183.3	80	7.5YR7/6橙		73ROk3
122	ロクロ 大	72SD2 2区	暗褐色土(No.7)	14.0	3.4	7.0	185.3	80	7.5YR7/4にぶい橙		73ROk4
123	ロクロ 大	72SD2 2区	暗褐色土(No.6)	13.2	3.8	7.0	100.2	50	5YR6/8橙	胎土に骨針を多く含む 摩滅が著しい	73ROk5
124	ロクロ 大	72SD2 2区	暗褐色土(No.7)	15.2	3.3	9.6	282.8	80	5YR7/6橙		73ROk6
125	ロクロ 大	72SD2 2区	暗褐色土(No.12)	13.5	3.1	7.8	156.8	70	7.5YR8/6浅黄橙		73ROk7
126	ロクロ 大	72SD2 2区	褐灰色土(No.6-13間)	13.7	3.4	7.3	147.7	75	5YR7/6橙		73ROk9
127	ロクロ 大	72SD2 2区	褐灰色土(No.6-13間)	14.4	3.0	9.8	58.6	30	5YR6/6橙		73ROk10
128	ロクロ 大	72SD2 2区	暗褐色土(No.19)	13.2	3.4	6.5	128.2	80	7.5YR7/6橙	摩滅が著しい	73ROk11
129	ロクロ 大	72SD2 2区	暗褐色土(No.22)	13.0	3.4	7.0	69.8	40	7.5YR7/8黄橙		73ROk12
130	ロクロ 大	72SD2 2区	暗褐色土(No.11・23)	13.4	3.5	7.0	130.7	80	7.5YR8/4浅黄橙		73ROk13
131	ロクロ 大	72SD2 2区	暗褐色土(No.24)	13.1	3.8	7.9	164.3	80	5YR7/6橙	骨針を含む 歪んでいる	73ROk14
132	ロクロ 大	72SD2 2区	暗褐色土(No.25)	14.0	3.1	8.2	205.9	90	7.5YR7/6橙		73ROk15
133	ロクロ 大	72SD2 2区	暗褐色土(No.26)	13.4	3.2	7.2	62.9	35	5YR6/6橙	骨針を多く含む	73ROk16
134	ロクロ 大	72SD2 2区	暗褐色土(No.28)	13.2	3.6	7.4	179.8	55	10YR5/1褐灰 5YR7/8橙	骨針を多く含む 摩滅激しい ロクロだが少し歪んでいる?	73ROk17
135	ロクロ 大	72SD2 2区	暗褐色土(No.29)	14.0	2.9	8.2	158.5	90	5YR6/6橙	摩滅が著しい 骨針・砂粒を含む	73ROk18
136	ロクロ 大	72SD2 2区	暗褐色土(No.18)	-	3.7	7.4	30.6	15	7.5YR8/6浅黄橙		73ROk8
137	ロクロ 大	72SD2 2区	砂層、51-43 検出	14.0	3.5	8.0	254.0	90	5YR7/8橙	歪んでいる	73ROk60
138	ロクロ 大	72SD2 2区	砂層	12.8	3.8	6.8	143.7	80	5YR7/6橙	外面摩滅	73ROk61
139	ロクロ 大	72SD2 2区	砂層、中央暗褐色土	13.1	3.3	7.5	120.2	70	5YR7/8橙	骨針を多く含む	73ROk63
140	ロクロ 大	72SD2 2区	砂層	14.2	3.5	7.5	118.2	50	5YR7/6橙	全体的に摩滅している	73ROk65
141	ロクロ 大	72SD2 3区	褐灰色土	13.6	3.8	7.1	94.3	70	7.5YR8/6浅黄橙	摩滅激しい 歪んでいる	73ROk141
142	ロクロ 大	72SD2 2区	砂層	-	-	9.0	70.2	15	10YR8/4浅黄橙		73ROk64
143	ロクロ 大	72SD2 2区	砂層	-	-	7.2	59.5	15	5YR8/4淡橙	体部下端に糸の痕跡 骨針を多く含む	73ROk66
144	ロクロ 大	72SD2 2区	砂層	-	-	7.2	39.6	10	10YR7/4にぶい黄橙	土器片内盤 縁辺打ち欠き 骨針を含む 内面のナデが明瞭	73ROk68
145	ロクロ 大	72SD2 2区	砂層	-	-	7.0	52.5	10	7.5YR7/6橙		73ROk69
146	ロクロ 大	72SD2 2区	砂層	-	-	6.6	90.8	15	7.5YR8/4浅黄橙	骨針を含む	73ROk67
147	手づくね 小	72SD2 2区	砂層、暗褐色土(No.1直下、No.11)	9.4	1.7	-	65.8	95	10YR8/3浅黄橙	指押さえ摩滅のため薄い	73ROk19
148	手づくね 小	72SD2 2区	暗褐色土(No.1直下、No.11)	8.8	2.1	-	64.9	95	2.5Y8/3淡黄	骨針を含む	73ROk20
149	手づくね 小	72SD2 2区	暗褐色土(No.1直下、No.3・4・11)	9.4	2.1	-	60.0	90	2.5Y8/3淡黄	骨針を少量含む 薄いスノコ痕 指による凹凸がある	73ROk21
150	手づくね 小	72SD2 2区	砂層、暗褐色土(No.11)	9.4	1.8	-	61.2	90	2.5Y8/3淡黄	骨針・石粒を含む 下部粘土紐痕?	73ROk22
151	手づくね 小	72SD2 2区	暗褐色土(No.1直下、No.11)	8.9	2.0	-	51.4	80	2.5Y6/1黄灰	内面に黒色粒付着 細かい雲母片等を含む	73ROk23
152	手づくね 小	72SD2 2区	暗褐色土(No.4)	9.6	1.7	-	48.4	60	2.5Y8/3淡黄	骨針を含む	73ROk24
153	手づくね 小	72SD2 2区	暗褐色土(No.9直下、No.10)	9.0	1.8	-	20.9	20	2.5Y8/2灰白		73ROk25
154	手づくね 小	72SD2 2区	暗褐色土(No.11)	8.8	1.6	-	23.9	30	2.5Y8/3淡黄		73ROk26
155	手づくね 小	72SD2 2区	暗褐色土(No.14直下)	9.2	1.9	-	79.8	90	2.5Y8/3淡黄	胎土に石粒等は少ないが雲母片を含む スノコ痕有	73ROk27
156	手づくね 小	72SD2 2区	暗褐色土(No.15)	9.3	1.9	-	60.0	65	2.5Y8/3淡黄		73ROk28
157	手づくね 小	72SD2 2区	暗褐色土(No.15)	9.0	1.9	-	28.3	30	2.5Y8/3淡黄		73ROk29
158	手づくね 小	72SD2 2区	砂層	9.2	1.5	-	49.0	95	7.5YR8/3浅黄橙	石粒等は含まない雲母片か? 穴有(穿孔か?) 全体に摩滅が著しい	73ROk70
159	手づくね 小	72SD2 2区	最上位黄褐色土	8.7	2.0	-	58.9	85	外:2.5Y8/4淡黄 内:10YR7/2にぶい橙	内面にススが薄く付着 口縁部一部に油煙痕 スノコ痕薄く有	73ROk71

表8-3 遺物観察表(かわらけ)

掲載 番号	器種名	出土遺構	層 位	口径	器高	底径	重量 (g)	残存率 (%)	色 調	備 考	登録番号
160	手づくね 小	72SD2 2区	砂層下褐色土	9.5	1.7	-	287.7	100	2.5Y8/3淡黄		73ROk72
161	手づくね 小	72SD2 2区東	砂層下灰褐色土	9.0	1.5	-	28.1	50	7.5YR8/4浅黄橙		73ROk73
162	手づくね 小	72SD2 2区	砂層	9.5	1.7	-	64.5	98	10YR8/3浅黄橙	骨針を少量含む。ナデの範囲が広い 底部中央の凹凸が著しい	73ROk74
163	手づくね 小	72SD2 2区	砂層	9.2	1.7	-	25.2	30	2.5Y8/4淡黄	一部二段になるが全体は一段ナデ 軽い 指押さえ	73ROk75
164	手づくね 小	72SD2 2区	砂層	8.6	1.4	-	24.2	30	2.5Y8/3淡黄		73ROk76
165	手づくね 小	72SD2 2区	砂層	8.6	2.2	-	64.8	98	2.5Y8/4淡黄		73ROk77
166	手づくね 小	72SD2 2区	砂層	9.2	1.4	-	25.6	30	2.5Y8/3淡黄		73ROk78
167	手づくね 小	72SD2 1区	最上位黄褐色土	8.7	1.6	-	48.4	90	2.5Y7/3浅黄	内面粉が黒色化(油煙も一部に付着) 骨針を少量含む	73ROk128
168	手づくね 小	72SD2 1区	最上位黄褐色土	8.8	1.9	-	26.0	45	10YR8/3浅黄橙		73ROk130
169	手づくね 小	72SD2 3区	褐色土	8.8	1.7	-	60.1	90	5Y8/2灰白	骨針を含む 内面に黒色付着物	73ROk135
170	手づくね 大	72SD2 2区	砂層、暗褐色土(No.1)	13.9	2.8	-	109.9	55	2.5Y8/3淡黄		73ROk30
171	手づくね 大	72SD2 2区	暗褐色土 (No.1直下、No.4・11)	14.0	2.3	-	77.4	30	2.5Y8/2灰白	骨針有	73ROk31
172	手づくね 大	72SD2 2区	暗褐色土 (No.1直下、No.11)	14.4	2.4	-	74.6	30	2.5Y8/3淡黄	骨針を含む 内面口縁端部に一部油煙 付着	73ROk32
173	手づくね 大	72SD2 2区	暗褐色土(No.5)	12.4	2.8	-	76.8	40	2.5Y8/4淡黄		73ROk34
174	手づくね 大	72SD2 2区	暗褐色土(No.4・11)	14.7	3.2	-	155.6	45	2.5Y8/3淡黄		73ROk33
175	手づくね 大	72SD2 2区	暗褐色土(No.5直下)	13.7	2.8	-	84.3	40	2.5Y8/4淡黄		73ROk35
176	手づくね 大	72SD2 2区	砂層、暗褐色土 (No.1直下、No.9・11)	14.4	3.0	-	185.3	95	2.5Y8/3淡黄	スノコ痕薄く有(目が細かい)。ナデの凹凸は 境界が明瞭な部位とそうでない部位の差が顕著	73ROk36
177	手づくね 大	72SD2 2区	No.1直下、No.11、 中央暗褐色土	13.8	3.0	-	112.1	45	2.5Y8/4淡黄	スノコ痕有	73ROk37
178	手づくね 大	72SD2 2区	暗褐色土(No.8)	14.6	2.8	-	180.7	95	2.5Y8/3淡黄	内面に油煙残細かい粒状に付着 スノ コ痕薄く有	73ROk38
179	手づくね 大	72SD2 2区	暗褐色土(No.9直下)	14.0	2.5	-	87.4	50	2.5Y8/3淡黄		73ROk40
180	手づくね 大	72SD2 2区	暗褐色土 (No.1・8直下、No.11)	14.8	2.6	-	56.5	30	10YR8/3浅黄橙	摩滅が著しい	73ROk39
181	手づくね 大	72SD2 2区	暗褐色土 (No.8・9直下)	12.2	3.1	-	79.3	40	2.5Y8/3淡黄	ナデどこまでかわからず	73ROk41
182	手づくね 大	72SD2 2区	暗褐色土 (No.8・14直下)	13.2	3.0	-	204.5	95	2.5Y8/3淡黄	骨針を少量含む 内面油煙痕有 歪み が大きい スノコ痕有	73ROk42
183	手づくね 大	72SD2 2区	暗褐色土(No.8直下)	14.0	2.5	-	50.8	40	2.5YR8/2灰白	摩滅が著しい	73ROk43
184	手づくね 大	72SD2 2区	暗褐色土(No.9直下)	13.6	2.9	-	170.2	85	2.5Y8/3淡黄	2段のナデの単位不明瞭 骨針を含む 石粒等は少ないが雲母片混じる	73ROk44
185	手づくね 大	72SD2 2区	砂層、暗褐色土(No.11)	14.0	2.4	-	140.7	60	2.5Y8/3淡黄	骨針を含む 内面の横方向のヘラナデ が明瞭	73ROk45
186	手づくね 大	72SD2 2区	砂層、暗褐色土(No.11)	14.0	3.4	-	120.3	60	2.5Y8/3淡黄		73ROk46
187	手づくね 大	72SD2 2区	暗褐色土(No.11)	12.8	3.1	-	147.9	80	2.5Y8/3淡黄	指痕あまり見えない	73ROk47
188	手づくね 大	72SD2 2区	暗褐色土(No.13)	14.6	3.0	-	137.2	50	2.5Y8/3淡黄	骨針を含む 口縁部分に油煙痕	73ROk50
189	手づくね 大	72SD2 2区	暗褐色土(No.11)	14.7	3.3	-	223.3	98	2.5Y8/3淡黄	胎土に骨針を含む 黒色粒が内面に付 着 スノコ痕有	73ROk48
190	手づくね 大	72SD2 2区	暗褐色土(No.11)	13.3	2.6	-	79.6	40	2.5Y8/4淡黄		73ROk49
191	手づくね 大	72SD2 2区	暗褐色土(No.11直下、 No.14)	13.4	3.1	-	176.8	98	2.5Y8/3淡黄		73ROk51
192	手づくね 大	72SD2 2区	暗褐色土(No.15)	13.6	2.7	-	25.9	25	2.5Y8/3淡黄		73ROk52
193	手づくね 大	72SD2 2区	砂層、暗褐色土(No.16)、 中央暗褐色土	14.1	3.4	-	177.3	80	2.5Y8/3淡黄	スノコ痕薄く有	73ROk54
194	手づくね 大	72SD2 2区	暗褐色土(No.20)	13.4	3.1	-	73.3	30	2.5Y8/3淡黄		73ROk55
195	手づくね 大	72SD2 2区	暗褐色土(No.28直下)	13.1	2.8	-	71.2	40	2.5Y8/3淡黄		73ROk56
196	手づくね 大	72SD2 2区	褐色土(No.6-13間)	-	2.5	-	27.6	20	10YR8/3浅黄橙		73ROk53
197	手づくね 大	72SD2 2区 72SD2 3区	砂層 褐色土	13.8	2.7	-	122.6	75	2.5Y8/3淡黄	摩滅激しく歪み大きい 剥離激しい	73ROk62
198	手づくね 大	72SD2 2区	砂層	14.6	3.1	-	90.6	40	2.5Y8/3淡黄		73ROk87
199	手づくね 大	72SD2 2区	最上位黄褐色土	14.0	2.6	-	43.8	30	2.5Y7/3浅黄	スノコ痕有	73ROk79
200	手づくね 大	72SD2 2区	最上位黄褐色土	13.0	2.5	-	38.3	30	7.5YR8/2灰白		73ROk80
201	手づくね 大	72SD2 2区	最上位黄褐色土	12.0	2.1	-	33.9	30	2.5Y8/2灰白		73ROk81
202	手づくね 大	72SD2 2区	最上位黄褐色土	12.2	2.9	-	48.4	25	2.5Y8/3淡黄	摩滅が著しい	73ROk82
203	手づくね 大	72SD2 2区	砂層	12.8	2.5	-	29.4	30	2.5Y8/3淡黄		73ROk85
204	手づくね 大	72SD2 2区	最上位黄褐色土、中央 暗褐色土	11.2	3.0	-	51.9	40	2.5Y8/2灰白		73ROk86
205	手づくね 大	72SD2 2区	砂層、砂層下の褐色土	-	3.1	-	55.0	35	2.5Y8/3淡黄		73ROk84
206	手づくね 大	72SD2 2区	砂層	-	-	-	45.9	15	2.5Y8/3淡黄		73ROk83
207	手づくね 大	72SD2 1区	最上位黄褐色土	11.4	2.8	-	31.5	30	10YR7/3にぶい黄橙		73ROk129
208	手づくね 大	72SD2 1区	最上位黄褐色土	12.4	3.4	-	51.0	35	5Y8/4淡黄		73ROk131
209	手づくね 大	72SD2 1区	最上位黄褐色土	11.7	2.2	-	30.5	20	2.5Y8/2灰白	摩滅が著しい	73ROk132
210	手づくね 大	72SD2 3区	褐色土	14.0	2.8	-	56.9	25	2.5Y8/3淡黄	骨針を少量含む	73ROk136

表8-4 遺物観察表(かわらけ)

掲載 番号	器種名	出土遺構	層 位	口径	器高	底径	重量 (g)	残存率 (%)	色 調	備 考	登録番号
211	手づくね 大	72SD2 3区	砂層下の褐灰色土	13.4	2.5	-	58.0	35	5Y8/2灰白		73ROk137
212	手づくね 大	72SD2 3区	上位暗褐色土、砂層下の褐灰色土	13.4	2.8	-	89.3	40	2.5Y8/3淡黄	全体的に摩滅が著しい 骨針を含む 痕跡は不明瞭	73ROk138
213	手づくね 大	72SD2 3区	褐灰色土	15.0	3.3	-	97.2	45	2.5Y8/3淡黄	骨針・砂粒を含む	73ROk142
214	手づくね 大	72SD2 3区	褐灰色土	13.4	2.3	-	72.7	40	10YR8/1灰白	外面摩滅が著しい 骨針を少量含む	73ROk140
215	手づくね 大	72SD2 3区	砂層下の褐灰色土	14.5	3.2	-	113.5	60	7.5YR8/2灰白	内面摩滅が激しい 下段のナデは不明瞭	73ROk139
216	手づくね 大	72SD2 3区	褐灰色土	13.4	2.5	-	57.6	35	2.5Y8/2灰白	全体に歪みが大きい 摩滅	73ROk143
217	手づくね 大	72SD2 4区	灰褐色土	11.8	2.4	-	35.4	20	2.5Y8/3淡黄	骨針を含む	73ROk145
218	内折れ	72SD2 1区	最上位黄褐色土	6.3	1.2	-	14.5	20	2.5Y8/3淡黄		73ROk133
219	内折れ	72SD2 1区	最上位黄褐色土	-	0.9	-	1.6	5	7.5YR8/3浅黄橙		73ROk158
238	ロクロ 小	72SD2	暗褐色土	8.8	1.5	6.3	54.2	80	7.5YR7/6橙	骨針・石粒を多く含む 摩滅が著しい	73ROk162
239	ロクロ 小	72SD2 (50-45)	灰褐色土	9.2	2.0	6.0	62.2	70	10YR8/3浅黄橙	底部摩滅	73ROk202
240	ロクロ 小	72SD2	暗褐色土	-	-	5.7	40.3	10	外7.5YR7/6橙	骨針を含む	73ROk161
241	ロクロ 小	72SD2	暗褐色土	-	-	6.7	43.7	10	7.5YR8/4浅黄橙	摩滅が著しい	73ROk172
242	ロクロ 小	72SD2	暗褐色土	-	-	6.5	50.5	10	7.5YR7/4にぶい橙		73ROk173
243	ロクロ 小	72SD2	暗褐色土	-	-	6.0	36.8	10	7.5YR7/6橙	摩滅が著しい	73ROk176
244	ロクロ 小	72SD2	暗褐色土	-	-	6.6	51.7	10	10YR8/4浅黄橙	摩滅が著しい	73ROk177
245	ロクロ 小	72SD2	暗褐色土	-	-	-	34.0	5	10YR8/3浅黄橙		73ROk178
246	ロクロ 小	72SD2	暗褐色土	-	-	5.8	31.2	10	2.5Y8/4淡黄	摩滅著しい 骨針を多く含む	73ROk179
247	ロクロ 大	72SD2	暗褐色土	13.1	3.7	7.0	118.3	50	5YR7/6橙	骨針を含む 全体的に摩滅している 糸切痕有(摩滅)	73ROk163
248	ロクロ 大	72SD2	暗褐色土	12.8	3.2	7.0	149.9	80	10YR8/4浅黄橙	骨針を少量含む	73ROk164
249	ロクロ 大	72SD2	暗褐色土	13.4	3.3	7.0	163.2	90	7.5YR7/6橙	骨針を多く含む 内面ナデ明瞭 スノコ痕	73ROk165
250	ロクロ 大	72SD2	暗褐色土	12.4	3.5	7.0	89.3	40	5Y7/6黄	摩滅著しい	73ROk166
251	ロクロ 大	72SD2	暗褐色土	13.2	3.3	7.2	127.8	60	5YR7/6橙	骨針を含む	73ROk167
252	ロクロ 大	72SD2	暗褐色土	13.0	4.3	6.5	138.9	50	7.5YR7/4にぶい橙	外面摩滅が著しい 骨針・石粒を多く 含む	73ROk168
253	ロクロ 大	72SD2	砂層、暗褐色土	-	-	8.0	116.7	45	5YR7/8橙		73ROk169
254	ロクロ 大	72SD2	砂層、暗褐色土、攪乱	14.6	3.4	9.6	55.8	30	5YR6/6橙	骨針を多く含む	73ROk170
256	ロクロ 大	72SD2	暗褐色土	-	-	7.8	65.9	10	7.5YR8/4浅黄橙	骨針を多く含む	73ROk171
257	ロクロ 大	72SD2	暗褐色土	-	-	6.7	49.5	10	7.5YR8/6浅黄橙	骨針を含む	73ROk175
258	ロクロ 大	72SD2	暗褐色土	-	-	7.6	85.7	10	5YR6/6橙		73ROk174
259	手づくね 小	72SD2	暗褐色土	8.8	1.8	-	61.3	100	10YR8/4浅黄橙		73ROk180
260	手づくね 小	72SD2	暗褐色土	9.4	2.0	-	23.2	20	2.5Y7/2淡黄	外面の一部に油煙痕	73ROk181
261	手づくね 小	72SD2	暗褐色土	-	-	-	13.3	10	2.5Y8/4淡黄	口縁もほとんど残っていない	73ROk182
262	手づくね 大	72SD2	暗褐色土	12.2	1.9	-	30.0	20	2.5Y8/3淡黄		73ROk184
263	手づくね 大	72SD2	暗褐色土	11.7	2.2	-	29.4	15	10YR8/3浅黄橙	内外面摩滅が著しい	73ROk185
264	手づくね 大	72SD2	暗褐色土	13.0	3.0	-	42.3	40	2.5Y8/3淡黄		73ROk186
265	手づくね 大	72SD2	表土、暗褐色土	14.5	3.1	-	169.0	90	7.5YR8/2灰白		73ROk188
266	手づくね 大	72SD2	暗褐色土	14.0	3.2	-	83.2	40	10YR8/2灰白		73ROk189
267	手づくね 大	72SD2	暗褐色土	11.8	2.7	-	42.3	35	2.5Y8/3淡黄		73ROk190
268	手づくね 大	72SD2	暗褐色土	13.2	2.4	-	46.4	30	10YR8/3浅黄橙	スノコ痕有	73ROk191
269	手づくね 大	72SD2	暗褐色土	13.6	2.5	-	39.5	40	2.5Y8/4淡黄		73ROk192
270	手づくね 大	72SD2	暗褐色土	12.9	2.6	-	51.2	30	2.5Y8/3淡黄		73ROk193
271	手づくね 大	72SD2	暗褐色土	-	3.2	-	37.7	25	7.5YR7/4にぶい橙		73ROk187
272	手づくね 大	72SD2	暗褐色土	-	2.5	-	22.2	10	10YR8/4浅黄橙		73ROk183
289	手づくね 大	73SK2	最上位灰褐色土	-	3.2	-	20.2	10	2.5Y8/4淡黄	剥離激しい	73ROk201
298	ロクロ 大	73SD1 断面①	底面直上	14.0	3.3	6.4	240.6	70	2.5Y8/2灰白	摩滅が著しい	73ROk200
301	ロクロ 小	中央(72SD2)	攪乱	-	-	5.6	42.3	10	7.5YR8/3浅黄橙	骨針を含む 摩滅が著しい	73ROk160
302	ロクロ 大	C2区	Ⅱ層(かわらけNo.1)	-	-	6.7	73.6	20	5YR7/6橙	骨針を含む 穿孔(径1.3cm)	73ROk204
303	内折れ	中央(72SD2)	盛土	7.8	1.0	-	3.9	5	10YR8/3浅黄橙		73ROk194
304	柱状高台	49-43	Ⅱ層	-	-	3.6	32.3	10	5YR6/6橙	台部のみ残存	73ROk203
-	手づくね 小	72SD2 南トレンチ	暗褐色土、攪乱				32.1	20	2.5Y8/3淡黄	表掲載	73ROk156
-	ロクロ ?	72SD2 2区	最上位黄褐色土				1.0	5	7.5YR8/3浅黄橙	漆付着、写真掲載	73ROk159

表9 遺物観察表(国産陶器)

掲載 番号	産地	器種	部位	遺 構 名	層 位	重量 (g)	色 調	備 考	登録番号
6	渥美	甕	体部	72SD1 1区	盛土	27.7	外: 7.5YR4/3褐色 内: 7.5YR7/2明褐色		73ROt1
7	渥美	甕	体部	72SD1 1区西側ベルト南	黒色土	89.7	外: 2.5Y8/1灰白色 内: 2.5Y7/1灰白色	外面にケズリ	73ROt4
8	渥美	甕	体部	72SD1 1区	盛土	135.9	外: 2.5Y6/1黄灰色 内: 2.5Y6/1黄灰色	押印(平行条線文)	73ROt3
9	渥美	甕	体部	72SD1 1区東トレンチ	黒色土	40.6	外: 5Y5/4オリーブ色 内: 2.5Y6/1黄灰色	押印(平行条線文?)	73ROt8
10	渥美	甕	体部	72SD1 1区東トレンチ	黒色土	118.4	外: 7.5YR5/1褐色 内: 10YR5/1褐色	外面にケズリ	73ROt7
11	渥美	甕	体部	72SD1 1区西端	II層	44.2	外: 10YR4/1褐色 内: 10YR6/1褐色	外面にケズリ	73ROt9
12	渥美	甕	口縁	72SD1 1区西トレンチ壁 付近	黒色土	61.3	外: 10YR1.7/1黒色 内: 10YR1.7/1黒色		73ROt10
13	渥美?	甕	体部	72SD1 1区西トレンチ地 山直上	黒色土	52.9	外: 10YR5/1褐色 内: 2.5Y5/2暗黄褐色	押印(平行条線文)	73ROt11
14	渥美	甕	体部	72SD1 2区	盛土	45.4	外: 7.5YR1.7/1黒色 内: 10YR6/1褐色	押印(格子文)	73ROt14
15	渥美	甕	体部	72SD1 4区	盛土	30.4	外: 2.5Y7/1灰白色 内: 2.5Y7/1灰白色	押印(平行条線文)	73ROt23
16	渥美	甕	体部	72SD1 4区西トレンチ		25.0	外: 10YR7/1灰白色 内: 10YR6/1褐色		73ROt24
17	渥美	甕	体部	72SD1 4区西トレンチ		47.2	外: 10YR5/1褐色 内: 10YR6/1褐色		73ROt25
18	渥美	甕	体部	72SD1 4区西側	盛土	23.1	外: 10YR4/1褐色 内: 2.5Y6/1黄灰色		73ROt26
19	渥美	甕	体部	72SD1 5区	盛土	51.4	外: 10YR6/1褐色 内: 10YR6/1褐色	押印(平行条線文)	73ROt27
20	渥美	甕	頸部	72SD1 5区西側	黒褐色土	29.8	外: 7.5YR1.7/1黒色 内: 7.5YR1.7/1黒色	外面に灰釉ハケ塗り	73ROt29
21	渥美	壺	肩部	72SD1 5区西側	盛土	16.3	外: 5Y5/4オリーブ色 内: 10YR7/1灰白色	外面に降灰釉	73ROt28
22	渥美	甕	体部	72SD1 5区西側	黒褐色土	39.3	外: 5Y8/1灰白色 内: 5Y5/1灰色	外面に降灰釉(発色不良)	73ROt30
23	渥美	甕	体部	72SD1 6区西壁	盛土	26.5	外: 10YR6/2灰黄褐色 内: 10YR6/2灰黄褐色		73ROt33
24	渥美	甕	体部	72SD1 6区	盛土	65.3	外: 10YR7/1灰白色 内: 10YR6/1褐色	押印(平行条線文)	73ROt35
25	渥美	甕	口縁	72SD1 6区西側	黒褐色土	69.2	外: 2.5Y8/1灰白色 内: 2.5Y8/1灰白色	外面に降灰釉(発色不良)	73ROt38
26	渥美	甕	体部	72SD1(55-44)	盛土	86.1	外: 10YR5/3にぶい黄褐色 内: 10YR6/2灰黄褐色	押印(平行条線文)	73ROt42
27	渥美	甕	体部	72SD1 6区	盛土	122.6	外: 10YR6/1褐色 内: 10YR5/1褐色	押印(平行条線文)	73ROt36
28	渥美	甕	底部	72SD1 6区	盛土	221.0	外: 10YR6/4にぶい黄褐色 内: 10YR7/4にぶい黄褐色		73ROt31
29	渥美	甕	体部	72SD1(52-47)	II層	15.5	外: 10YR4/1褐色 内: 10YR4/1褐色		73ROt41
30	渥美	甕	頸部	72SD1 6区西側	黒褐色土	97.8	外: 7.5Y8/1灰白色 内: 2.5Y2/1黒色		73ROt39
31	渥美	甕	体部	72SD1	盛土	63.8	外: 5Y5/3灰オリーブ色 内: 5Y2/1黒色		73ROt45
32	渥美	甕	底部付近	72SD1	盛土	175.5	外: 10YR7/1灰白色 内: 10YR5/1褐色	外面にケズリ	73ROt46
33	渥美	三筋文壺	体部	72SD1(55-47)	盛土	28.6	外: 5Y7/1灰白色 内: 10YR6/1褐色	複線三筋文 外面に降灰釉(発色不良)	73ROt44
34	渥美	片口鉢	底部	72SD1 3区	盛土	60.2	外: 10YR4/1褐色 内: 2.5Y7/1灰白色	復元底径10.4cm、残存高3.2cm	73ROt19
35	常滑	甕	体部	72SD1 1区西側	盛土	23.4	外: 5Y8/1灰白色 内: 2.5Y5/3黄褐色		73ROt5
36	常滑	甕	体部	72SD1 2区	盛土	31.8	外: 10YR6/4にぶい黄褐色 内: 10YR7/4にぶい黄褐色	外面にケズリ	73ROt13
37	常滑	甕	肩部	72SD1 2区	盛土	46.4	外: 5Y3/1オリーブ黒色 内: 2.5Y7/1灰白色		73ROt15
38	常滑	甕	体部	72SD1 2区	盛土	28.9	外: 2.5Y7/1灰白色 内: 2.5Y8/1灰白色		73ROt16
39	常滑	甕	体部	72SD1 2区西側 中央北(72SD2)	黒褐色土 暗褐色土	46.5	外: 10YR5/4にぶい黄褐色 内: 2.5Y7/6明黄褐色	2点接合	73ROt17
40	常滑	甕	体部	72SD1 2区西側	黒褐色土	66.2	外: 5YR5/2灰褐色 内: 10YR6/2灰黄褐色	外面にケズリ	73ROt18
41	常滑	壺	底部	72SD1 3区西側	盛土	52.1	外: 5Y5/3灰オリーブ色 内: 10YR3/3暗褐色	内面に降灰釉	73ROt20
42	常滑	甕	体部	72SD1(52-46)	盛土	4.1	外: 5Y6/4オリーブ黄色 内: 2.5Y6/3にぶい黄色		73ROt40
43	常滑	甕	体部	72SD1 6区西壁	盛土	7.5	外: 10YR5/3にぶい黄褐色 内: 10YR7/3にぶい黄褐色		73ROt34
44	常滑	甕	体部	72SD1 3区	盛土	24.5	外: 10YR4/1褐色 内: 10YR4/1褐色		73ROt22
45	常滑	甕	体部	72SD1 6区西壁	盛土	29.6	外: 5Y7/1灰白色 内: 2.5Y5/1黄灰色		73ROt32
46	常滑	甕	体部	72SD1 6区	盛土	75.8	外: 10YR1.7/1黒色 内: 10YR4/1褐色	押印(縦長格子文)	73ROt37
47	常滑	三筋文壺	体部	72SD1 1区西トレンチ	黒色土	18.8	外: 2.5Y6/1黄灰色 内: 5Y4/1灰色	単線三筋文	73ROt6
48	常滑	片口鉢	口縁	72SD1 3区西側	盛土	19.7	外: 2.5Y7/1灰白色 内: 5Y8/1灰白色		73ROt21
49	須恵器	甕	体部	72SD1 1区東壁	盛土	44.6	外: N5/0 灰色 内: N5/0 灰色	外面に叩き	73ROt2
50	須恵器	甕	体部	72SD1 2区	盛土	7.0	外: 2.5YR4/1赤灰色 内: 2.5YR1.7/1赤黒色	外面に叩き	73ROt12
51	須恵器?	壺	底部	72SD1(55-47)	盛土	34.2	外: N5/0灰色 内: N5/0灰色	内面に黒色物付着	73ROt43
71	渥美	甕	体部	72SD2 南トレンチ 72SD2 4区	14・18層 褐色土	405.6	外: 10YR4/1褐色 内: 10YR4/1褐色	2点接合 押印(変形格子文)	73ROt48
72	渥美	甕	体部	72SD2 南トレンチ	1層	143.0	外: 10YR6/1褐色 内: 10YR6/1褐色	外面にケズリ	73ROt49
112	常滑	壺	体部	72SD2 北トレンチ	2層	9.9	外: 5Y4/4暗オリーブ色 内: 10YR5/6黄褐色		73ROt52
220	渥美	甕	体部	72SD2 2区	最上位黄褐色土	381.9	外: 5Y6/2灰オリーブ色 内: 10YR4/1褐色	3点接合 押印(平行条線文)	73ROt54

表9-2 遺物観察表(国産陶器)

掲載 番号	産地	器種	部位	遺 構 名	層 位	重量 (g)	色 調	備 考	登録番号
221	渥美	壺	体部	72SD2 2区	最上位黄褐色土	11.5	外: 2.5Y7/1灰白色 内: 10YR5/1褐灰色		73ROt55
222	渥美	甕	体部	72SD2 2区	最上位黄褐色土	25.4	外: 2.5Y6/1黄灰色 内: 10YR5/1褐灰色	押印(平行条線文)	73ROt56
223	渥美	甕	肩部	72SD2 2区	砂層	103.5	外: 10YR4/1褐灰色 内: 10YR4/1褐灰色	灰釉	73ROt61
224	渥美	甕	底部	72SD2 2区	最上位黄褐色土	311.2	外: 10YR7/1灰白色 内: 2.5Y5/2暗灰黄色	押印(平行条線文) 外面にケズリ	73ROt59
225	渥美	甕	体部	72SD2 2区	最上位黄褐色土	20.0	外: 7.5YR7/2明褐灰色 内: 7.5YR4/3褐色	押印(格子文)	73ROt62
226	渥美	甕	体部	72SD2 2区	最上位黄褐色土	30.1	外: 10YR6/1褐灰色 内: 10YR5/1褐灰色	押印(平行条線文)	73ROt63
227	渥美	甕	体部	72SD2 3区	暗褐色土	106.1	外: 10YR4/1褐灰色 内: 2.5Y5/1黄灰色	押印(不明) 外面にケズリ	73ROt64
228	渥美	甕	体部	72SD2 3区	砂層下の褐灰色土	49.2	外: 10YR5/1褐灰色 内: 10YR4/1褐灰色	押印(平行条線文)	73ROt65
229	渥美	甕	体部	72SD2 3区	砂層下の褐灰色土	84.4	外: 10YR5/1褐灰色 内: 10YR6/3にぶい黄褐色	押印(平行条線文) 外面にケズリ	73ROt66
230	渥美	甕	肩部	72SD2 4区	攪乱	29.9	外: 2.5Y5/2暗灰黄色 内: 2.5Y7/1灰白色		73ROt69
231	常滑?	甕	体部	72SD2 1区	最上位黄褐色土	127.3	外: 5Y6/3オリーブ黄色 内: 10YR6/1褐灰色		73ROt53
232	常滑	壺	体部	72SD2 2区	最上位黄褐色土	476.8	外: 7.5YR3/4暗褐色 内: 10YR4/2灰黄褐色	3点接合 外面に降灰釉 ケズリ	73ROt60
233	常滑	甕	体部	72SD2 2区	最上位黄褐色土	32.6	外: 10YR4/3にぶい黄褐色 内: 2.5Y6/4にぶい黄色		73ROt57
234	常滑	甕	体部	72SD2 2区	最上位黄褐色土	33.2	外: 5Y5/4オリーブ色 内: 10YR4/4褐色		73ROt58
235	常滑	甕	体部	72SD2 3区	灰褐色土	12.9	外: 5Y5/4オリーブ色 内: 2.5Y4/4オリーブ褐色		73ROt67
236	常滑	甕	体部	72SD2 3区西	褐灰色土	77.8	外: 2.5YR5/4にぶい赤褐色 内: 10YR6/1褐灰色	押印(平行条線文)	73ROt68
273	渥美	甕	口縁	72SD2(51-45)	検出中	102.2	外: 10YR1.7/1黒色 内: 10YR1.7/1黒色	口縁部歪んでいる 灰釉ハケ塗りか	73ROt50
274	渥美	甕	底部	72SD2(51-45)	検出中	91.6	外: 5Y6/3オリーブ黄色 内: 10YR5/3にぶい黄褐色	外面に工具痕	73ROt51
275	渥美	甕	体部	中央(72SD2)	暗褐色土、排土	442.3	外: 10YR4/3にぶい黄褐色 内: 10YR6/2灰黄褐色	2点接合	73ROt246
276	渥美	甕	体部	中央(72SD2)	暗褐色土	74.8	外: 2.5Y5/2暗灰黄色 内: 2.5Y3/1黒褐色	押印(平行条線文)	73ROt250
277	渥美?	甕	体部	中央北(72SD2)	暗褐色土	67.6	外: 10YR5/1褐灰色 内: 10YR6/1褐灰色		73ROt256
278	常滑	甕	体部	72SD2(51-44)	攪乱	7.3	外: 10YR6/1褐灰色 内: 2.5Y6/1黄灰色	外面にケズリ	73ROt47
279	常滑?	甕	体部	中央(72SD2)	暗褐色土	10.8	外: 5YR2/2黒褐色 内: 10YR5/4にぶい黄褐色		73ROt244
280	常滑	甕	体部	中央(72SD2)	暗褐色土	8.6	外: 5YR4/3にぶい赤褐色 内: 10YR4/6褐色		73ROt245
281	常滑	甕	体部	中央(72SD2)	暗褐色土	25.5	外: 7.5Y5/3灰オリーブ色 内: 2.5Y6/3にぶい黄色		73ROt249
282	常滑	甕	体部	中央(72SD2)	暗褐色土	92.3	外: 5YR6/4にぶい橙色 内: 7.5YR6/6褐色	押印(縦長格子文) 外面にケズリ	73ROt247
283	常滑	甕	肩部	中央(72SD2)	暗褐色土	66.8	外: 5Y7/4浅黄色 内: 2.5Y7/3浅黄色		73ROt248
284	常滑	甕	頸部	中央北(72SD2)	暗褐色土	90.0	外: 10YR5/1褐灰色 内: 10YR4/2灰黄褐色		73ROt255
285	常滑	甕	体部	中央北(72SD2)	暗褐色土	21.0	外: 10YR4/4褐色 内: 2.5Y8/3淡黄色	押印(条線文?)	73ROt252
286	常滑	片口鉢	体部	中央北(72SD2)	暗褐色土	20.3	外: N7/0灰白色 内: 7.5Y6/2灰オリーブ色		73ROt253
287	常滑	片口鉢	底部	中央(72SD2)	暗褐色土	89.9	外: 10YR7/2にぶい黄褐色 内: 2.5Y7/3淡黄色	内面摩滅 外面にケズリ	73ROt243
288	水沼	甕	肩部	中央(72SD2)	暗褐色土	88.7	外: 7.5Y5/1灰白色 内: 10YR2/1黒色		73ROt242
290	渥美	壺	口縁	73SX1 B3区東	3層下位	4.3	外: 7.5Y8/1灰白色 内: 7.5Y8/1灰白色	外面に沈線状の凹み	73ROt93
291	渥美	刻画文壺	体部	73SX1 B3区東トレンチ	3層下位	93.2	外: 2.5Y8/1灰白色 内: 2.5Y7/1灰白色		73ROt79
292	常滑	片口鉢	体部	73SX1 B3区東	II層	9.1	外: 2.5Y8/1灰白色 内: 2.5Y8/1灰白色	外面にケズリ	73ROt75
293	常滑	甕	体部	73SX1 B3区西	3層	41.6	外: 10YR1.7/1黒色 内: 2.5Y4/4オリーブ褐色	外面にケズリ	73ROt76
294	常滑	甕	体部	73SX1 B3区東	3層	19.3	外: 10YR3/1黒褐色 内: 10YR4/4褐色	押印(縦長格子文)	73ROt77
295	常滑	甕	体部	73SX1 B3区東トレンチ	3層下位	39.5	外: 5YR4/4にぶい赤褐色 内: 2.5Y5/3黄褐色		73ROt80
296	常滑	甕?	体部	73SX1 B3区東トレンチ	3層	31.5	外: 2.5Y7/1灰白色 内: 2.5Y6/1黄灰色	外面にケズリ	73ROt81
297	渥美	甕	体部	73SD7	2層	11.4	外: 10YR6/1褐灰色 内: 10YR4/1褐灰色	押印(平行条線文)	73ROt84
299	渥美	甕	底部付近	73SD1 断面①	底面直上	357.5	外: 2.5Y8/2灰白色 内: 2.5Y8/2灰白色	押印(格子文)	73ROt83
300	常滑	甕	体部	73SD1 断面③	上位暗褐色土	13.3	外: 5YR4/2灰褐色 内: 5YR4/3にぶい赤褐色		73ROt82
305	渥美	甕	口縁	48-44 拡張区	II層	23.5	外: 7.5YR4/2灰褐色 内: 2.5Y4/2暗灰黄色	外面に灰釉ハケ塗り	73ROt87
306	渥美	壺	体部	48-44 拡張区	II層	21.3	外: 10YR4/2灰黄褐色 内: 10YR4/1褐灰色		73ROt88
307	渥美	甕	体部	48-44 拡張区	II層	66.1	外: 2.5Y4/4オリーブ褐色 内: 2.5Y6/2灰黄色		73ROt90
308	渥美	甕	体部	48-44 拡張区	II層	41.3	外: 10YR4/1褐灰色 内: 10YR4/1褐灰色		73ROt95
309	渥美	甕	体部	48-44 拡張区	II層	11.4	外: 10YR5/1褐灰色 内: 10YR5/1褐灰色		73ROt98
310	渥美	壺	体部	48-44 拡張区	II層	25.5	外: 10YR2/2黒褐色 内: 10YR4/1褐灰色		73ROt101
311	渥美	壺	体部	48-44 西端トレンチ	かわかけ片含む黄褐色土(II層)	21.5	外: 10YR3/3暗褐色 内: 10YR3/1黒褐色		73ROt102
312	渥美	壺	体部	48・49-44	II層	6.3	外: 2.5Y8/3淡黄色 内: 2.5Y5/1黄灰色		73ROt103

表9-3 遺物観察表(国産陶器)

掲載 番号	産地	器種	部位	遺 構 名	層 位	重 量 (g)	色 調	備 考	登録番号
313	渥美	甕	体部	49-42	攪乱	15.6	外: 2.5Y6/2灰黄色 内: 10YR7/1灰白色		73ROt111
314	渥美	甕	体部	48・49-44	Ⅱ層	14.7	外: 2.5Y6/1黄灰色 内: 2.5Y6/1黄灰色		73ROt106
315	渥美	甕	体部	49-42	攪乱	63.1	外: 5Y7/1灰白色 内: 5Y5/1灰色	押印(格子文)	73ROt107
316	渥美	甕	体部	49-42	攪乱	146.6	外: 5Y5/1灰色 内: 5Y5/1灰色	押印(平行条線文)	73ROt108
317	渥美	甕	体部	49-42	攪乱	81.9	外: 2.5Y7/1灰白色 内: 2.5Y8/2灰白色		73ROt109
318	渥美	甕	体部	49-42	攪乱	70.1	外: 2.5Y7/2灰黄色 内: 2.5Y6/2灰黄色	押印(平行条線文?)	73ROt110
319	渥美	甕	体部	49-42	攪乱	147.3	外: 5Y8/1灰白色 内: 5Y8/1灰白色	押印(格子文)	73ROt113
320	渥美	甕	体部	49-42	攪乱	38.0	外: 2.5Y7/1灰白色 内: 2.5Y7/1灰白色	押印(平行条線文)	73ROt115
321	渥美?	壺	体部	49-42	攪乱	77.2	外: 10YR4/1褐灰色 内: 10YR5/1褐灰色	押印?	73ROt116
322	渥美	甕	体部	49-42	攪乱	25.3	外: 5Y7/1灰白色 内: 5Y8/2灰白色	押印(平行条線文)	73ROt117
323	渥美	甕	肩部	49-42	攪乱	148.8	外: 5Y4/4暗オリーブ色 内: 2.5Y6/3にぶい黄色	押印(格子文)	73ROt118
324	渥美	甕	体部	49-42	攪乱	40.8	外: 5Y6/3オリーブ黄色 内: 5Y2/2オリーブ黒色	外面に降灰釉(発色不良)	73ROt119
325	渥美	甕	体部	49-42	攪乱	50.7	外: 7.5Y3/1オリーブ黒色 内: N5/0灰色	内面に降灰釉	73ROt120
326	渥美	甕	体部	49-42	攪乱	65.2	外: 2.5Y2/1黒色 内: 10YR4/1褐灰色	押印(縦長格子文)	73ROt121
327	渥美?	壺	体部	49-42	攪乱	53.3	外: 2.5Y7/1灰白色 内: 2.5Y7/1灰白色	2点接合	73ROt122
328	渥美	甕	体部	49-42	攪乱	24.5	外: 10YR5/2灰黄褐色 内: 2.5Y8/1灰白色	押印(平行条線文)	73ROt78
329	渥美	甕	体部	49-42	攪乱	53.0	外: 2.5Y2/1黒色 内: 2.5Y4/1黄灰色	押印(格子文)	73ROt123
330	渥美	甕	体部	49-42	攪乱	45.0	外: 10YR6/3にぶい黄橙色 内: 10YR3/4暗褐色	2点接合 外面に降灰釉(発色不良)	73ROt185
331	渥美	甕	体部	50・51-43	Ⅱ層	74.6	外: 5Y4/3暗オリーブ色 内: 5Y5/1灰色		73ROt129
332	渥美	壺	体部	50-44 拡張区	攪乱下の灰褐色土	28.9	外: 5Y8/2灰白色 内: 2.5Y7/1灰白色		73ROt134
333	渥美	壺	体部	55-47	盛土	18.2	外: 7.5YR2/1黒色 内: 7.5YR2/2黒褐色		73ROt141
334	渥美	甕	体部	51-43	攪乱(ケーブル)	83.3	外: 5Y5/4オリーブ色 内: 2.5Y7/1灰白色	押印(平行条線文)	73ROt136
335	渥美	刻画文壺	体部	51-43 斜面部 50-43・44	Ⅱ層 盛土	207.8	外: 2.5Y5/1黄灰色 内: 2.5Y5/1黄灰色	2点接合	73ROt138
336	渥美	甕	体部	51-46	ベルト部分	16.7	外: 7.5YR7/4にぶい橙色 内: 7.5YR6/4にぶい橙色		73ROt272
337	常滑	甕	体部	48-44 拡張区	Ⅱ層	21.5	外: 10YR6/3にぶい黄褐色 内: 10YR5/3にぶい黄褐色		73ROt85
338	常滑	甕	体部	48-44 拡張区	Ⅰ層	26.9	外: 2.5Y6/2灰黄色 内: 2.5Y7/2灰黄色		73ROt86
339	常滑	甕	体部	48-44 拡張区	Ⅱ層	31.1	外: 5Y5/4オリーブ色 内: 10YR4/2灰黄褐色	外面に降灰釉	73ROt91
340	常滑	壺	体部	48-44 拡張区	Ⅱ層	4.2	外: 7.5YR4/3褐色 内: 7.5YR4/3褐色	押印(平行条線文)	73ROt92
341	常滑	甕	体部	48-44 拡張区	Ⅱ層	8.0	外: 10YR5/4にぶい黄褐色 内: 2.5Y7/3浅黄色		73ROt97
342	常滑	甕	底部	48-44 拡張区	Ⅱ層	28.2	外: 5Y4/4暗オリーブ色 内: 10YR4/3にぶい黄褐色	内面に降灰釉	73ROt89
343	常滑	甕	底部	48-44 拡張区	Ⅱ層	63.1	外: 5Y4/4暗オリーブ色 内: 10YR6/3にぶい黄褐色	内面に降灰釉	73ROt94
344	常滑	甕	体部	48-44 拡張区	Ⅱ層	24.7	外: 10YR5/1褐灰色 内: 10YR6/1褐灰色		73ROt96
345	常滑	甕	体部	48-44 拡張区	Ⅱ層	27.3	外: 5YR2/2黒褐色 内: 5YR4/2灰褐色		73ROt99
346	常滑	甕	体部	48-44 拡張区	Ⅱ層	10.8	外: 7.5YR6/4にぶい橙色 内: 10YR7/2にぶい黄褐色		73ROt100
347	常滑	甕	体部	48・49-44	Ⅱ層	29.0	外: 5YR3/3暗赤褐色 内: 7.5YR5/3にぶい褐色	外面にケズリ	73ROt105
348	常滑	甕	体部	48・49-44	Ⅱ層	22.9	外: 10YR3/1黒褐色 内: 10YR4/1褐灰色		73ROt104
349	常滑	甕	口縁	49-42 50-43・44	攪乱 Ⅰ層	88.9	外: 2.5Y3/1黒褐色 内: 2.5Y2/1黒色	2点接合	73ROt114
350	常滑	甕	体部	49-42	Ⅱ層	12.9	外: 2.5Y4/1黄灰色 内: 2.5Y4/1黄灰色		73ROt124
351	常滑	甕	体部	49-42	Ⅱ層	17.2	外: 7.5YR6/4にぶい橙色 内: 10YR6/3にぶい黄褐色	押印(縦長格子文)	73ROt125
352	常滑	壺	体部	49-42	Ⅱ層	11.0	外: 2.5Y6/3にぶい黄色 内: 2.5Y6/3にぶい黄色		73ROt126
353	常滑?	甕	体部	50・51-43	Ⅱ層	8.9	外: 5Y7/1灰白色 内: 5Y7/1灰白色		73ROt130
354	常滑	甕	体部	50-44 拡張区	Ⅰ層	25.9	外: 2.5Y7/3浅黄色 内: 2.5Y3/1黒褐色		73ROt133
355	常滑	甕	体部	55-47	盛土	20.2	外: 5YR4/2灰褐色 内: 5Y8/1灰白色		73ROt139
356	常滑	甕	体部	55-47	盛土	42.4	外: 2.5Y6/2灰黄色 内: 5Y7/2灰白色		73ROt142
357	常滑	甕	体部	55-47	盛土	85.1	外: 7.5YR4/2灰褐色 内: 2.5Y6/2灰黄色	押印(縦長格子文)	73ROt143
358	常滑	甕	体部	55-47	盛土	109.6	外: 7.5Y4/2灰オリーブ色 内: 5Y4/1灰色		73ROt140
359	常滑	片口鉢	底部	49-42	攪乱	25.9	外: 5Y7/1灰白色 内: 5Y7/1灰白色	内面摩滅	73ROt112
360	常滑	片口鉢	底部	50-44	攪乱	130.0	外: N6/0灰色 内: 5Y6/1灰色	内面摩滅	73ROt132
361	須恵器?	壺	体部	49-44	検出	4.0	外: 7.5YR4/1褐灰色 内: 10YR6/1褐灰色		73ROt128
362	須恵器?	壺	体部	50-44 拡張区	攪乱下の灰褐色土	10.8	外: 7.5YR4/1褐灰色 内: 7.5YR4/1褐灰色		73ROt135

表9-4 遺物観察表(国産陶器)

掲載 番号	産地	器種	部位	遺 構 名	層 位	重量 (g)	色 調	備 考	登録番号
363	渥美	甕	体部	A2-3区 南ベルト	攪乱	23.2	外: 7.5YR3/2黒褐色 内: 7.5YR4/1褐灰色		73ROt145
364	渥美	甕	体部	A1区	攪乱	78.9	外: 10YR3/1黒褐色 内: 10YR3/1黒褐色	押印(不明) 外面にケズリ	73ROt144
365	渥美	甕	体部	A2-3区 南ベルト	攪乱	63.6	外: 2.5Y7/2灰黄色 内: 2.5Y6/2灰黄色	押印(平行条線文)	73ROt146
366	渥美	甕	体部	A2-B2区間ベルト	II層	33.6	外: 7.5YR5/2灰褐色 内: 2.5Y5/1黄灰色	押印(格子文)	73ROt147
367	渥美	甕	体部	A2区 南ベルト	攪乱	17.9	外: 10YR4/1褐灰色 内: 10YR4/1褐灰色	押印(平行条線文)	73ROt149
368	渥美	甕	体部	A2区 南ベルト	攪乱	28.9	外: 10YR5/1褐灰色 内: 10YR5/1褐灰色		73ROt150
369	渥美	甕	体部	A2区 南ベルト	攪乱	79.4	外: 5Y7/2灰白色 内: 5Y7/2灰白色		73ROt152
370	渥美	甕	体部	B2区 北東	灰褐色土	126.7	外: 2.5Y6/1黄灰色 内: 2.5Y8/1灰白色		73ROt153
371	渥美	甕	体部	B3区 北ベルト	II層	116.3	外: 2.5Y6/1黄灰色 内: 10YR6/1褐灰色	押印(条線文)	73ROt156
372	渥美	甕	体部	E5区	黄褐色盛土	28.9	外: 10YR6/2灰黄褐色 内: 10YR5/1褐灰色		73ROt174
373	渥美	甕	体部	C1区	II層	7.9	外: 2.5Y4/1黄灰色 内: 2.5Y5/1黄灰色		73ROt158
374	渥美	甕	体部	C1区	II層	26.3	外: 2.5Y4/1黄灰色 内: 2.5Y6/1黄灰色	押印?	73ROt159
375	渥美	甕	体部	C1区	II層	20.2	外: 2.5Y6/1黄灰色 内: 2.5Y6/1黄灰色	押印(不明)	73ROt160
376	渥美	壺?	体部	E5区 西端	攪乱	3.9	外: 7.5Y5/2灰オリーブ色 内: 5Y7/1灰白色		73ROt166
377	渥美	甕	体部	C1区	II層	17.5	外: 10YR6/1褐灰色 内: 10YR6/1褐灰色	押印(平行条線文)	73ROt162
378	常滑	甕	体部	A2-B2区間ベルト	II層	48.1	外: 7.5R2/3極暗赤褐色 内: 5YR4/1褐灰色	押印(格子文)	73ROt148
379	常滑	甕	体部	A2区 南ベルト	攪乱	30.1	外: 7.5YR5/4にぶい褐色 内: 10YR5/1褐灰色		73ROt151
380	常滑	甕	体部	B3区	II層	43.8	外: 5YR6/6褐色 内: 10YR6/2灰黄褐色		73ROt154
381	常滑	甕	体部	B3区	II層	21.6	外: 5YR5/4にぶい赤褐色 内: 10YR6/3にぶい黄褐色	押印(縦長格子文)	73ROt155
382	常滑	甕	体部	C1区	II層	22.6	外: 5YR3/4暗赤褐色 内: 5YR4/4にぶい赤褐色		73ROt157
383	常滑	甕	体部	C1区	II層	19.9	外: 2.5YR4/2灰赤色 内: 5YR5/3にぶい赤褐色	押印(平行条線文)	73ROt163
384	須恵器系	甕	体部	D5区	II層	47.1	外: N5/0灰色 内: N5/0灰色	外面に叩き	73ROt165
385	渥美	甕	体部	50・51-42	I層	54.2	外: 10YR5/3にぶい黄褐色 内: 10YR6/3にぶい黄褐色	押印(条線文)	73ROt167
386	渥美	甕	肩部	50・51-42	I層	30.9	外: 5Y5/2灰オリーブ色 内: 5Y3/1オリーブ黒色		73ROt168
387	渥美	甕	体部	50・51-42	I層	48.8	外: 2.5Y4/1黄灰色 内: 2.5Y5/1黄灰色		73ROt169
388	渥美	甕	体部	50・51-42	I層	31.0	外: 5Y5/3灰オリーブ色 内: 2.5Y6/1黄灰色		73ROt171
389	渥美	甕	体部	50・51-42	I層	63.2	外: 10YR3/3暗褐色 内: 10YR5/2灰黄褐色	押印(平行条線文)	73ROt172
390	渥美	甕	体部	50・51-42	I層	120.6	外: 2.5Y5/3黄褐色 内: 2.5Y7/1灰白色	押印(格子文)	73ROt174
391	渥美	甕	体部	50・51-42	I層	107.2	外: 2.5Y5/1黄灰色 内: 2.5Y5/1黄灰色	押印(格子文)	73ROt176
392	渥美	甕	体部	50・51-42	I層	76.8	外: 7.5YR6/3にぶい褐色 内: 10YR7/2にぶい黄褐色	押印(平行条線文)	73ROt177
393	渥美	甕	体部	49-42	検出	88.5	外: 5Y6/2灰オリーブ色 内: 2.5Y5/1黄灰色	押印(平行条線文)	73ROt179
394	渥美	甕	口縁	49-42	検出	46.8	外: 5Y4/3暗オリーブ色 内: 5Y3/1オリーブ黒色		73ROt180
395	渥美	甕	体部	49-42	検出	9.0	外: N7/0灰白色 内: N7/0灰白色		73ROt182
396	渥美	甕	体部	49-42	検出	16.3	外: N1.5/0黒色 内: N1.5/0黒色		73ROt183
397	渥美	甕	体部	49-42	検出	138.8	外: 2.5Y5/1黄灰色 内: 2.5Y5/1黄灰色	押印(格子文)	73ROt181
398	渥美	甕	体部	72SD1直上	I層	52.6	外: 10YR7/1灰白色 内: 5Y7/1灰白色	押印(格子文)	73ROt189
399	渥美	甕	体部	E5区	I層	291.7	外: 7.5YR7/2明褐灰色 内: 10YR5/1褐灰色	4点接合 押印(平行条線文) 外面灰釉ハケ塗り?	73ROt186
400	渥美	甕	体部	72SD1直上	I層	50.9	外: 10YR6/1褐灰色 内: 2.5Y8/1灰白色	押印(平行条線文)	73ROt190
401	渥美	甕	体部	72SD1直上	I層	60.8	外: 2.5Y7/1灰白色 内: 2.5Y7/1灰白色	押印(平行条線文)	73ROt193
402	渥美	袈裟襷文 壺	体部	72SD1直上	盛土	25.7	外: 5Y7/1灰白色 内: 10YR5/1褐灰色		73ROt196
403	渥美	袈裟襷文 壺	体部	72SD1直上	盛土	136.0	外: 2.5Y6/2灰黄色 内: 10YR5/1褐灰色	2点接合	73ROt197
404	渥美	甕	体部	50-43・44	I層、攪乱	21.3	外: 10YR5/4にぶい黄褐色 内: 10YR6/1褐灰色		73ROt198
405	渥美	甕	体部	53-45・46周辺	表土	35.0	外: 2.5Y6/3にぶい黄色 内: 10YR3/3暗褐色		73ROt201
406	渥美	甕	体部	50-43・44	木根付近	59.5	外: 2.5Y7/2灰黄色 内: 10YR5/1褐灰色	押印(格子文)	73ROt199
407	渥美	甕	頸部	53-45周辺	I層	27.0	外: 7.5YR2/3極暗褐色 内: 10YR7/1灰白色	外面に降灰釉	73ROt203
408	渥美	甕	体部	53-45周辺	I層	61.8	外: 5Y8/2灰白色 内: 7.5YR7/2明褐灰色		73ROt204
409	渥美	甕	体部	53-45周辺	I層	62.3	外: 2.5Y6/1黄灰色 内: 2.5Y5/1黄灰色	押印(平行条線文?)	73ROt207
410	渥美	甕	口縁	50-43・44	I層	48.4	外: 10YR2/2黒褐色 内: 10YR3/1黒褐色		73ROt212
411	渥美?	甕	体部	50-43・44	I層	57.4	外: 5Y4/4暗オリーブ色 内: 2.5Y5/1黄灰色	押印(平行条線文)	73ROt213
412	渥美	甕	体部	50-43・44	I層	25.2	外: 10YR5/1褐灰色 内: 10YR5/1褐灰色		73ROt214

表9-5 遺物観察表 (国産陶器)

掲載 番号	産地	器種	部位	遺 構 名	層 位	重量 (g)	色 調	備 考	登録番号
413	渥美?	甕	体部	50-43・44	I層	8.9	外:5Y4/4暗オリーブ色 内:2.5Y5/1黄灰色	押印(平行条線文)	73ROt215
414	渥美	壺	体部	50-43・44	I層	16.2	外:2.5Y7/2灰黄色 内:2.5Y7/2灰黄色	外面にケズリ	73ROt216
415	渥美	甕	体部	50-43・44	I層	36.0	外:10YR2/1黒色 内:7.5Y6/1灰白色		73ROt217
416	渥美?	甕	体部	50-43・44	I層	32.8	外:2.5Y7/1灰白色 内:2.5Y7/1灰白色	押印(平行条線文)	73ROt218
417	渥美	甕	体部	50-43・44	I層	75.0	外:5Y4/3暗オリーブ色 内:2.5Y5/1黄灰色		73ROt219
418	渥美	甕	体部	50-43・44	I層	65.7	外:5Y4/2灰オリーブ色 内:10YR6/4にぶい黄橙色	押印(格子文)	73ROt220
419	渥美	甕	体部	50-43・44	I層	52.1	外:5Y7/2灰白色 内:5Y7/2灰白色	押印(格子文)	73ROt221
420	渥美	甕	体部	50-43・44	I層	74.7	外:2.5YR2/2極暗赤褐色 内:10YR4/1褐灰色		73ROt222
421	渥美	甕	体部	50-43・44	I層	64.5	外:2.5Y2/1黒色 内:2.5Y5/1黄灰色	押印(縦長格子文)	73ROt225
422	渥美	甕	体部	50-43・44	I層	42.1	外:5Y4/4暗オリーブ色 内:2.5Y3/1黒褐色		73ROt226
423	渥美	甕	体部	50-43・44	I層	109.2	外:2.5Y4/1黄灰色 内:2.5Y5/1黄灰色	押印(格子文)	73ROt224
424	渥美	甕	体部	50-43・44	I層	56.0	外:2.5Y6/2灰黄色 内:2.5Y5/1黄灰色	押印(格子文)	73ROt227
425	渥美	甕	体部	50-43・44	I層	78.1	外:7.5YR4/2灰褐色 内:2.5Y4/1黄灰色	押印(条線文)	73ROt228
426	渥美	甕	体部	50-43・44	I層	46.6	外:2.5Y7/1灰白色 内:2.5Y7/1灰白色	内面に当て具痕(拓本)	73ROt229
427	渥美	甕	体部	50-43・44	I層	40.6	外:2.5YR2/3極暗赤褐色 内:2.5YR6/3にぶい橙色		73ROt231
428	渥美	甕	体部	50-43・44	I層	95.3	外:5YR4/2灰褐色 内:7.5YR6/3にぶい褐色	押印(菱形文?)	73ROt232
429	渥美	甕	体部	50-43・44	I層	31.3	外:10YR5/2灰黄褐色 内:10YR4/1褐灰色	押印(格子文)	73ROt233
430	渥美	甕	体部	50-43・44	I層	56.3	外:5Y7/3浅黄色 内:10YR4/1褐灰色	押印(平行条線文?)	73ROt234
431	渥美	甕	体部	50-43・44	I層	96.8	外:5Y4/3暗オリーブ色 内:10YR4/1褐灰色	押印(平行条線文)	73ROt235
432	渥美	甕	体部	50-43・44	I層	73.8	外:2.5Y3/1黒褐色 内:2.5Y5/1黄灰色		73ROt237
433	渥美	甕	体部	50-43・44	I層	56.6	外:2.5Y4/1黄灰色 内:2.5Y6/1黄灰色	押印(格子文)	73ROt238
434	渥美	甕	底部付近	中央	白色粘土盛土	137.3	外:5Y8/2灰白色 内:2.5Y8/3淡黄色	押印(格子文)	73ROt241
435	渥美	甕	体部	中央北	盛土	15.6	外:10YR3/3暗褐色 内:10YR5/1褐灰色		73ROt251
436	渥美	甕	体部	51・52-45	盛土	29.3	外:10YR5/2灰黄褐色 内:10YR4/2灰黄褐色	押印(平行条線文)	73ROt257
437	渥美	壺	体部	51・52-45	盛土	27.4	外:2.5Y4/4オリーブ褐色 内:2.5Y5/3黄褐色		73ROt258
438	渥美	甕	体部	51・52-45	盛土	63.0	外:10YR5/2灰黄褐色 内:10YR5/4にぶい黄褐色	押印(平行条線文)	73ROt261
439	渥美	甕	体部	51・52-45	盛土	39.6	外:5Y4/2灰オリーブ色 内:2.5Y7/2灰黄色	押印(平行条線文)	73ROt263
440	渥美	甕	体部	E5区	I層	102.2	外:10YR4/2灰黄褐色 内:10YR2/1黒色	押印(平行条線文)	73ROt265
441	渥美	甕	体部	51・52-45	攪乱	31.8	外:2.5Y7/2灰黄色 内:10YR7/1灰白色		73ROt262
442	渥美	片口鉢	口縁	中央	攪乱	46.3	外:2.5Y6/1黄灰色 内:2.5Y6/1黄灰色	輪花1ヶ所残存	73ROt240
443	常滑	甕	体部	50・51-42	I層	24.3	外:10YR2/2黒褐色 内:10YR3/1黒褐色		73ROt173
444	常滑?	甕	頸部	50・51-42	I層	38.5	外:2.5Y6/2灰黄色 内:2.5Y7/1灰白色		73ROt175
445	常滑	壺	体部	49-42・43	I層	23.1	外:2.5Y3/3暗オリーブ褐色 内:2.5Y5/2暗灰黄色	押印(縦長格子文)	73ROt178
446	常滑	三筋文壺	底部	50・51-42	I層	106.1	外:5Y3/1オリーブ黒色 内:2.5Y6/3にぶい黄色	複線三筋文 復元底径8.6cm、 残存高5.7cm	73ROt170
447	常滑	甕	体部	南側	I層	14.5	外:2.5YR2/3極暗赤褐色 内:5YR4/3にぶい赤褐色		73ROt184
448	常滑	甕	体部	72SD1直上	盛土	23.9	外:5Y4/2灰オリーブ色 内:10YR3/1黒褐色	押印(平行条線文?)	73ROt195
449	常滑	甕	体部	72SD1直上	I層	74.9	外:2.5Y2/1黒色 内:2.5Y5/1黄灰色	押印(平行条線文)	73ROt191
450	常滑	甕	体部	72SD1直上	I層	37.1	外:7.5Y4/2灰オリーブ色 内:2.5Y4/2暗灰黄色		73ROt192
451	常滑	甕	体部	72SD1直上	I層	42.9	外:5Y4/3暗オリーブ色 内:10YR3/1黒褐色		73ROt194
452	常滑	甕	体部	50-43・44	盛土、攪乱	145.6	外:5Y6/3オリーブ黄色 内:10YR5/1褐灰色	押印(平行条線文)	73ROt200
453	常滑	甕	頸部	53-45周辺	I層	30.0	外:5Y7/1灰白色 内:10YR4/1褐灰色		73ROt205
454	常滑?	壺	口縁	53-45周辺	I層	17.4	外:7.5Y7/1灰白色 内:7.5Y8/1灰白色	内外面とも降灰釉	73ROt206
455	常滑	甕	体部	53-46周辺	I層	26.7	外:10YR6/4にぶい黄褐色 内:10YR6/4にぶい黄褐色	外面にケズリ	73ROt208
456	常滑	甕	体部	50-43・44	I層	28.2	外:5Y3/2オリーブ黒色 内:2.5Y5/3黄褐色		73ROt239
457	常滑	甕	肩部	51-45周辺	盛土	46.7	外:7.5Y5/3灰オリーブ色 内:2.5Y7/1灰白色		73ROt71
458	常滑	甕	体部	53-45・46周辺	盛土	71.9	外:2.5Y5/1黄灰色 内:10YR6/3にぶい黄褐色	押印(縦長格子文)	73ROt73
459	常滑	甕	体部	53-46周辺	I層	48.0	外:10YR4/3にぶい黄褐色 内:10YR7/3にぶい黄褐色	外面にケズリ	73ROt209
460	常滑	甕	体部	51-45周辺	盛土	66.9	外:2.5Y6/2灰黄色 内:2.5Y7/1灰白色		73ROt72
461	常滑?	甕	体部	51・52-45	盛土	31.7	外:10YR4/2灰黄褐色 内:10YR5/2灰黄褐色		73ROt260
462	常滑	甕	体部	51・52-45	盛土	22.2	外:5Y7/2灰白色 内:10YR7/3にぶい黄褐色		73ROt264

表9-6 遺物観察表 (国産陶器)

掲載 番号	産地	器種	部位	遺 構 名	層 位	重量 (g)	色 調	備 考	登録番号
463	常滑	甕	頸部	51・52-45	盛土	181.0	外：7.5Y5/2灰オリーブ色 内：2.5Y4/1黄灰色		73ROt259
464	常滑	片口鉢	口縁	50-43・44	I層	32.7	外：2.5Y8/4淡黄色 内：2.5Y7/2灰黄色	焼成不良	73ROt211
465	常滑	片口鉢	底部	72SD1直上	I層	8.3	外：10YR6/1褐灰色 内：5Y5/2灰オリーブ色	内面に降灰釉	73ROt188
466	常滑	片口鉢	底部	50-43・44	I層	53.9	外：2.5Y6/2灰黄色 内：2.5Y6/1黄灰色	内面摩滅 高台部欠損	73ROt230
467	水沼	甕	体部	72SD1直上	I層	22.8	外：N2/0黒色 内：N2/0黒色	押印?	73ROt187
468	須恵器	甕	体部	53-45周辺	I層	22.0	外：5YR1.7/1黒色 内：5YR1.7/1黒色	外面に叩き	73ROt202
469	須恵器	甕	体部	50-43・44	I層	66.7	外：10R1.7/1赤黒色 内：10R1.7/1赤黒色	外面に叩き	73ROt223
470	須恵器系	甕	体部	50-43・44	I層	35.1	外：10YR5/1褐灰色 内：10YR6/1褐灰色	外面に叩き	73ROt236
471	須恵器	甕	体部	53-46周辺	I層	9.7	外：5YR1.7/1黒色 内：5YR1.7/1黒色	外面に叩き	73ROt210
482	渥美	甕	体部	第1トレンチ	I層	11.9	外：10YR7/1灰白色 内：10YR7/3にぶい黄橙色	焼成不良	73ROt266
483	渥美	甕	体部	第1トレンチ	I層	7.4	外：10YR5/4にぶい黄褐色 内：10YR6/2灰黄褐色		73ROt267
484	渥美	片口鉢	体部	第2トレンチ	I層	10.4	外：5Y7/1灰白色 内：2.5Y8/1灰白色		73ROt269
485	須恵器	甕	体部	第3トレンチ	I層	10.7	外：7.5YR1.7/1黒色 内：N4/0灰色	外面に叩き	73ROt270
486	須恵器	壺	体部	第3トレンチ	I層	6.8	外：N1.5/0黒色 内：5Y7/2灰白色		73ROt271
-	常滑	甕	体部	72SD2 4区		1.8	外：5Y6/2灰オリーブ色 内：2.5Y6/2灰黄色	写真掲載	73ROt70
-	常滑	甕	体部	49-44	II層	3.5	外：7.5YR6/3にぶい褐色 内：2.5Y7/4浅黄色	写真掲載	73ROt127
-	渥美	甕	体部	51-43 斜面部	II層	4.1	外：2.5Y5/1黄灰色 内：2.5Y7/1灰白色	写真掲載	73ROt137
-	常滑	甕	体部	中央北(72SD2)		3.0	外：7.5YR5/3にぶい褐色 内：10YR7/3にぶい黄橙色	写真掲載	73ROt254
-	渥美	甕	体部	第2トレンチ	I層	2.2	外：N4/0灰色 内：2.5Y5/1黄灰色	写真掲載	73ROt268

表10 遺物観察表 (輸入陶磁器)

掲載 番号	種別	器種	部位	遺構名	層位	重量 (g)	色 調	胎 土	備 考	登録番号
52	白磁	碗	口縁	72SD1 1区	盛土	5.5	7.5Y7/2灰白色	灰白色・精緻	II類	73ROg1
53	白磁	碗	体部	72SD1 6区	盛土	6.7	10Y7/2灰白色	灰白色・精緻	内面釉剥ぎ	73ROg3
54	白磁	碗	底部?	72SD1(54-44)	盛土	4.5	外：10Y7/1灰白色 内：10Y7/2灰白色	灰白色・精緻	II類? 内面釉剥ぎ	73ROg6
55	白磁	壺	体部	72SD1 3区西側	盛土	4.6	外：7.5Y7/2灰白色 内：2.5Y7/3浅黄色	灰白色・精緻	III類	73ROg2
56	白磁	壺	体部	72SD1(53-44)	盛土	13.9	10Y7/2灰白色	灰白色・精緻	III類	73ROg4
57	白磁	壺	体部	72SD1(54-44)	盛土	13.7	外：2.5Y7/4浅黄色 内：10Y7/1灰白色	灰白色・精緻	II類	73ROg5
58	中国陶器	壺	体部	72SD1(55-47)	盛土	16.7	外：10YR8/2灰白色 内：2.5Y7/3浅黄色	砂粒含む	焼成不良 外面に釉	73ROg15
237	白磁	碗	口縁	72SD2 1区	最上位黄褐色土	1.3	10Y7/2灰白色	灰白色・精緻	II類	73ROg7
472	白磁	碗	体部	A3区 南ベルト	II層	2.1	7.5Y7/2灰白色	灰白色・精緻		73ROg11
473	白磁	壺	口縁	48-44 拡張区	II層	7.5	10Y6/2オリーブ灰	灰白色・精緻	II類	73ROg9
474	白磁	壺	頸部?	C1区	II層	5.5	7.5Y7/2灰白色	灰白色・精緻		73ROg14
475	白磁	四耳壺	体部	B3区	II層	14.8	7.5Y7/2灰白色	灰白色・精緻	III類 耳部付近の破片	73ROg13
476	白磁	壺	体部	48-44 拡張区	II層	9.4	5Y7/3浅黄色	灰白色・精緻	II類	73ROg8
477	白磁	壺	体部	50-44 拡張区	表土・攪乱	4.7	10Y7/2灰白色	灰白色・精緻	III類	73ROg10
478	中国陶器	壺	体部	50-43	II層	33.2	外：7.5YR4/4褐色 内：5Y7/1灰白色	砂粒含む	外面に釉 73ROk131から変更	73ROg16
479	中国陶器	壺	体部	B2区 北東		5.1	外：7.5YR5/5褐色 内：7.5YR6/6褐色	砂粒含む	外面に釉	73ROg12
480	中国陶器	壺	体部	C1区	II層	4.4	外：5YR4/4にぶい赤褐色 内：7.5YR5/4にぶい褐色	砂粒含む	73ROk161から変更	73ROg17
481	中国陶器	壺	体部	C3区 北西隅	地山ブロック混じり土	7.0	外：5YR4/4にぶい赤褐色 内：5YR4/4にぶい赤褐色	砂粒含む	73ROk164から変更	73ROg18

表11 遺物観察表 (瓦)

掲載 番号	器種	遺構名	層 位	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	色 調	その他	登録番号
59	軒丸瓦	72SD1(54-45)	地山直上	(4.7)	(5.3)	(2.6)	53.9	N/5灰色 胎土：2.5Y8/2灰白色		73RT1

表12 遺物観察表（土製品）

登録番号	種別	遺 構 名	層 位	重量(g)	点数	備 考
73RP1	羽口	72SD1 1区西側ベルト南	黒色土	26.6	1	
73RP2	壁土	72SD2 南トレンチ	2層	55.6	5	
73RP3	壁土	72SD2 南トレンチ	1層	143.8	18	
73RP4	壁土	72SD2 南トレンチ	1層	2.7	1	
73RP5	壁土	72SD2 南トレンチ	暗褐色土	32.8	1	
73RP6	壁土	72SD2 南トレンチ	暗褐色土	4	1	
73RP7	壁土	72SD1 3区西側	盛土	17.8	1	
73RP8	壁土	72SD1(53-46・47)	盛土	24.7	1	
73RP9	壁土	55-47	盛土	10.4	1	
73RP10	壁土	72SD2 1区	最上位黄褐色土	6.8	1	
73RP11	壁土	72SD2 1区	最上位黄褐色土	13.1	1	
73RP12	壁土	72SD2 1区	最上位黄褐色土	10.2	3	
73RP13	壁土	72SD2 1区	最上位黄褐色土	17.6	1	
73RP14	壁土	72SD2 1区	最上位黄褐色土	4.4	1	
73RP15	壁土	72SD2 2区	褐灰色土	3.2	1	
73RP16	壁土	72SD2 2区	最上位黄褐色土	21.9	4	
73RP17	壁土	72SD2 2区	最上位黄褐色土	6.9	1	
73RP18	壁土	72SD2 2区	中央攪乱	3.3	1	
73RP19	壁土	72SD2 北トレンチ	2層	5.4	1	
73RP20	壁土	72SD2(51-45)	検出	43	7	
73RP21	壁土	73SD3(51-46)	埋土	7.7	2	
73RP22	壁土	73SD3or5 トレンチ内	埋土	2	1	
73RP23	壁土	73SX1 B3区東	3層	4	1	
73RP24	壁土	73SX1 B3区東トレンチ	26層	14.7	4	
73RP25	壁土	50-44拡張区	灰褐色土	3.4	1	
73RP26	壁土	50・51-43	Ⅱ層	14.5	1	
73RP27	壁土	B3区	Ⅱ層	6.3	1	
73RP28	壁土	E5a区	Ⅱ層	3.3	1	
73RP29	壁土	中央(72SD2)	暗褐色土	6.5	1	
73RP30	壁土	中央(72SD2)	暗褐色土	2.1	1	
73RP31	壁土	中央北(72SD2)	暗褐色土	5.2	1	
73RP32	壁土	中央南	盛土	20.2	2	
73RP33	不明	第2トレンチ	I層	14.5	1	

V 付章 柳之御所遺跡出土資料の再整理（中間報告1）

文字資料出土遺構の様相

1. 出土文字資料の概要

柳之御所遺跡出土の膨大な資料のなかで広く知られている資料のひとつである「人々給絹日記」に代表されるように、柳之御所遺跡からは多くの文字資料の出土が知られている。これまでに70次を超える調査が行われ、堀内部地区からは89点の文字資料が出土している。この他に墨書があるものの文字ではなく、線が描かれているのみの資料も出土している。文字資料は、その記載内容が遺跡の性格をめぐる議論などに益する点も多いと考えられ、これまでも検討が行われてきた。また、柳之御所遺跡については出土文字資料は基本的に報告されており、これまで確認したものでは未報告資料は確認できなかった。しかし、柳之御所遺跡出土資料は、釈読が難しい資料が多いこともあり、必ずしも内容が明らかにされているとは言い難い面もある。岩手県教育委員会では柳之御所遺跡の調査研究を進める中で平泉文化研究を実施し、その一環として柳之御所遺跡出土資料の整理を行うとともに共同研究として文字資料の再検討を行っている（岡 ほか2012）。これまでの文字資料の記載内容についての検討成果は『平泉文化研究年報』で経過を公表しているほか、釈読の検討がまとまった段階で示していく予定である。本来であれば遺構の概要と、文字資料の内容とを合わせて提示すべきものだが、全体を示すまでに至っていない。そこで、ここでは検討の前提として、柳之御所遺跡堀内部を対象に文字資料が出土した遺構の概要をまとめて提示しておきたい。前述のとおり、これらの資料は基本的に既報告の資料であり、各概報中に資料写真等は掲載されており、詳細についてはそれを参照願いたい。

柳之御所遺跡堀内部からは89点の文字資料が出土している。墨書土器が12点、折敷の再加工品を含む木簡類が49点、折敷が8点、削屑が6点である。記載の内容は片仮名、平仮名が多く、内容が不明なものが多い。東北地方で文字資料の出土が多い古代の城柵官衙遺跡と比較して、記載内容では漢字内容が少ないこと、文字資料では定型化した木簡類や削屑が少ないことが特徴として挙げられる。出土遺構をまとめると表のとおりである（表13）。

2. 遺 構 の 概 要

1) 堀 跡

21SD1・41SD2

柳之御所遺跡を区画する2条の堀跡のうち、内側の堀跡である。遺跡南端部の範囲では外側の堀跡である21SD2より新期の遺構と考えられる。もっとも規模の大きいところで幅は14m、深さは4m以上ある大規模な堀跡で、遺跡北側は北上川による削平のため不明だが、柳之御所遺跡を囲んでいたと考えられている。断面形状は遺跡南端部では逆台形状、遺跡北端部ではV字状に確認しており、両者の関係など未調査範囲での様相が今後の検討課題である。堆積土はいずれも自然堆積によるもので、埋没には地点ごとに時間差があったと考えられているが、近世段階までくぼみとして残っていたとみられる。堀跡では現在まで3地点で橋跡が確認されており、伽羅御所方面へと向かう位置（21SX35）、北上川方面へと至る位置（23SX12）、中尊寺方向へ向かう位置（41SX1）と堀の内外を結ぶ位置が判明しているほか、未調査範囲で存在が推測される位置もある。

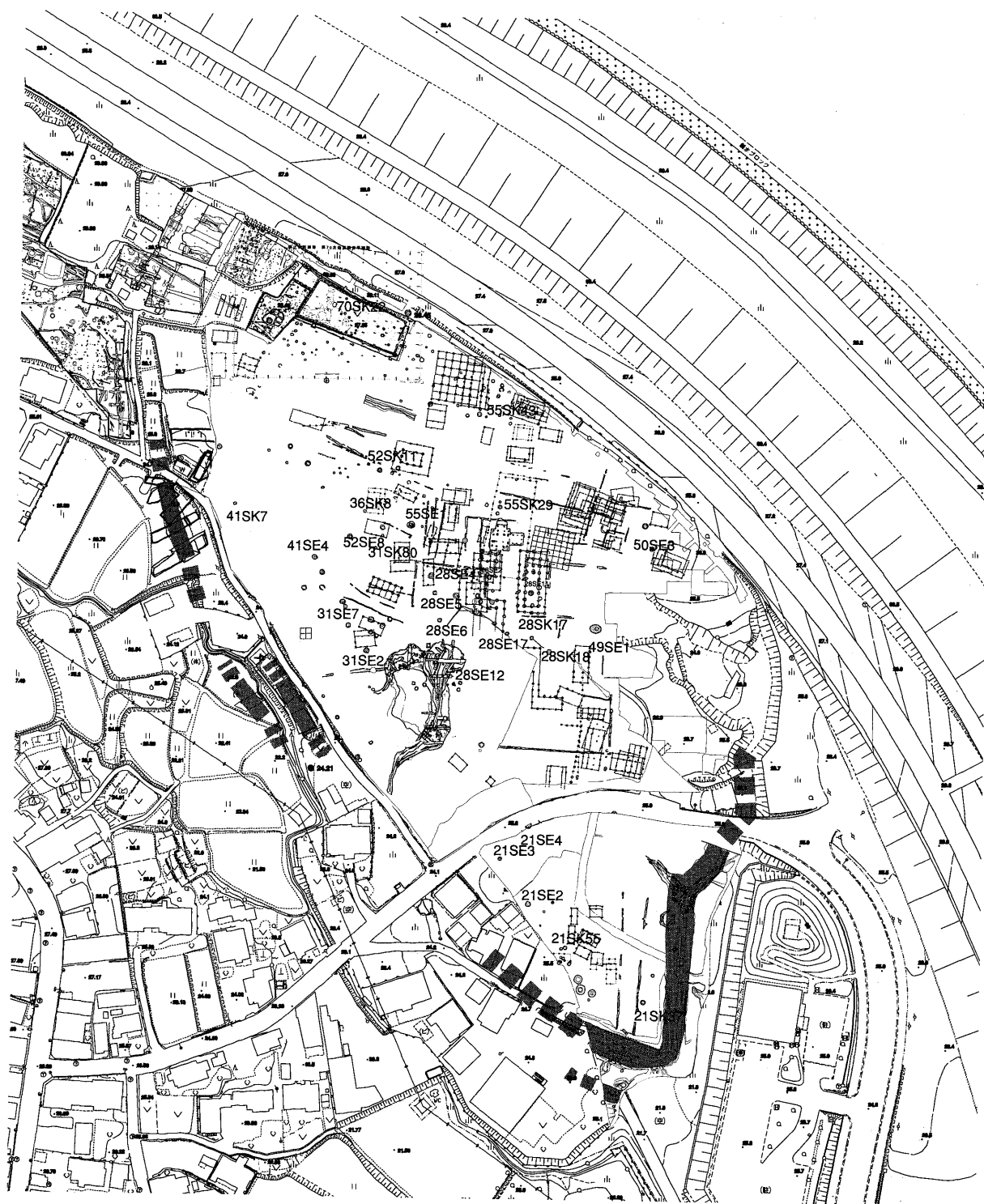


図35 文字資料出土遺構分布図

かわらけや国産、輸入の陶磁器類を含めて遺跡内でも、もっとも多くの遺物が出土した遺構で、水成堆積の土層もあり木製品も多く出土している。文字資料は墨書かわらけ、板片などがある。遺物は12世紀後半以降の遺物を主体に、柳之御所遺跡廃絶に至る各時期の遺物が含まれ、自然堆積による土層からの出土のため詳細の時期には不明な点もあるが、文字資料も12世紀後半以降のものが多いと考えられる。

21SD2 (69SX3)・56SD39

柳之御所遺跡を区画する2条の堀跡のうち、外側の堀跡である。遺跡南端部の範囲では溝の切り合いから21SD1より旧期の遺構と考えられる。規模は幅が4～5m、深さが2m程で、逆台形状の断面形である。掘り返しの痕跡がある範囲もあり、部分的に改修が行われたことがわかる。いずれの調査地点でも、自然堆積層が入るものの、人為堆積の土層で埋められている範囲が多い。南端部などで整地層が覆われた範囲があるなど、内側の堀跡と比して複雑な遺構変遷が捉えられることも特徴的である。遺物は人為堆積層でもあり、多くのかわけ等が出土している。

69SX3とした遺構は遺跡南端部の21SD2の堆積土を切って確認できる土坑で、人為堆積土で埋められており、橋部材などの多くの木材が出土していることから、それらを短期間の中で廃棄した土坑と考えられる。時期は堀跡が埋め戻された際のものであり、廃絶時に埋め戻したものとみている。12世紀後半の遺物とともに出土しており、12世紀第3四半期ごろと考えられる。多くの木製品が含まれており、墨書資料もこれに含まれている。文字資料も同時期の遺物と考えられる。墨書資料のうち、「タラウタユニ丈」と記された資料は記載内容と合わせて注目できる。

2) 井戸跡

21SE2

遺跡の南端部に近い範囲で確認された井戸跡で、平面形は径約2mの円形で、深さが約5.5mである。井戸枠が残っている。埋土は一部に礫を含む人為堆積土があるが、多くは自然堆積土である。遺物はかわらけや国産陶器のほか、瓦も出土しており、12世紀第3四半期ごろとみられる。この他、扇骨や下駄、折敷片、漆器碗などの木製品も出土している。文字資料は木簡類が出土している。文字資料もこれらとともに出土し、同様に12世紀第3四半期ごろの年代とみられる。

21SE3

遺跡の中央南寄りから南端部にかけての範囲で確認している。上面は大きく削平を受けているが、平面形は径1.5m程の円形で、深さが約3.8mである。土層は下層は自然堆積によるが、中層以上は人為堆積でこの層からかわらけが多く出土している。遺物はかわらけが40kg以上と多量に出土しているほか、折敷の再加工品などの木製品が出土している。かわらけの特徴から、12世紀第3四半期後半から第4四半期初頭ごろと考えられる。文字資料は墨書かわらけが出土しているほか、文字が識別できないが墨書が記されたかわらけが出土している。文字資料も人為堆積層から出土しており、他の出土遺物と同時期と考えられる。

21SE4

遺跡の中央から南端部にかけての範囲で確認している。半分が調査区外となっており、平面形は約2m四方の方形で、深さは不明である。人為堆積の土層で埋められており、遺物はここから出土している。遺物はかわらけが多量に出土しているが、多くを手づくね成形の資料が占める。この他、国産、輸入の陶磁器類、瓦が出土している。遺物の特徴から、12世紀第4四半期とみられる。文字資料は花押が記されている白磁四耳壺が人為堆積層から出土している。

28SE2

遺跡の中心部とみられる範囲で確認しており、28SB2、28SB6と空間的に重なる範囲である。28SB2の柱穴を切ると記載されているが、断面の観察からは抜き取りとみられる土層も存在し、新旧が前後する可能性もある(岩手県教委2008)。遺物はかわらけ、折敷が出土しており、かわらけの特徴から12世紀中葉ごろと考えられるほか、1130年と1141年の年輪年代をもつ折敷が出土している。なお、折敷の再加工品のほか、ほぼ完形のまま廃棄された折敷も含まれる。文字資料は墨書かわらけのほか、「寝

殿造」の建物が描かれた折敷、ひらがなが記された折敷が出土している。

28SE4

遺跡の中心部とみられる範囲で確認された井戸跡で、28SB5と重なり、28SB5より新しい遺構である。土層は下層から中層は人為堆積による層で遺物が多く出土している。上層は自然堆積層で近世段階の陶器が出土しており、新しい時期の土層と考えられる。遺物は下層の人為堆積層から多く出土しており、かわらけのほか、折敷や箸、糸巻き、漆器椀などの木製品が含まれる。出土遺物の特徴から12世紀中葉ころと考えられるほか、1124年の年輪年代をもつ折敷が出土している。文字資料は墨書かわらけのほか、削屑が出土している。人面が描かれた墨書かわらけも出土している。

28SE5

遺跡の中心部とみられる28SB2等の周辺で確認された井戸跡で、一辺が約1.5m程の方形で深さが約3.6mである。土層は上層の人為堆積と下層の自然堆積とにわかれる。遺物は自然堆積層からの出土が多く、かわらけのほか、糸巻きや櫛などの木製品が出土している。また、自然堆積土である4層から白磁や青白磁がまとまって出土しており、二次被熱の痕跡が多いのも特徴である。かわらけの特徴から12世紀中葉と考えられる。文字資料は墨書かわらけが自然堆積層から出土しており、同様の年代と考えられる。

28SE11

遺跡の中心部に28SB4、28SB8と空間的に重なり、それらの中心部に位置する。径が約1.8mほどの円形で、深さが約4.4mである。下層は人為堆積による埋め戻しが行われ、遺物はこの層から出土している。遺物はかわらけ、折敷、馬具が出土している。遺物の年代から12世紀後半とみられ、柳之御所遺跡内でも新期の遺構のひとつである。木製品の年輪年代では、1180年、1181年の年代が得られている。文字資料は削屑が出土しており、同様の年代と考えられる。

28SE12

遺跡の中心的な範囲である23SG1園池跡に近接する範囲で確認された井戸跡で、上面は削平を受けているが、一辺が約1.3m程の方形で深さが約2m程である。堆積層は下層が自然堆積層で、上層が人為堆積で埋められている。遺物は、下層の自然堆積層から出土し、かわらけ、糸巻きがある。文字資料は木簡が含まれている。かわらけの点数も少なく、遺構の切り合いもないため詳細な年代は不明だが、12世紀後半とみられる。

28SE16

遺跡の中心的な範囲である23SG1園池跡や28SB2に近接する範囲で確認された井戸跡で、一辺約1.5m程の方形で、深さは約3.2mである。堆積層は人為堆積で埋め戻されている。遺物はかわらけが多量に出土し、糸巻きや折敷、鞘、柄などの木製品、国産、輸入陶磁器類が出土している。遺物の特徴から12世紀第3四半期ころと考えられる。木製品の年輪年代では1138年、1158年の年代が得られている。文字資料は呪付や折敷があり、著名な「人々給絹日記」が出土している。このほかに「タタラタタ・・・（以下略）」とカタカナが記された資料がある。これらの資料はかわらけ等とともに人為堆積層から埋め戻された状況で出土しており、同様の年代が与えられると考えられる。

28SE17

遺跡の中心的な範囲で確認された井戸跡で、径約1.5m程の円形で深さが約2.3m程である。人為堆積で埋め戻されており、遺物の多くはこれらから出土している。遺物はかわらけのほか、刀子や扇骨などの木製品のほか、瓦が出土している。12世紀第3四半期後半から第4四半期ころと考えられる。木製品は木簡が出土しており、同様の年代が考えられる。

31SE2

遺跡中心部に近い23SG1池跡の西側で確認された井戸跡である。一辺が約2m程の方形で、深さが約3.6mである。堆積層は人為堆積で、底面には松鶴鏡が置かれていたほか、上層からは部材がまとまって出土している。かわらけの特徴からは12世紀中葉と考えられる。木製品の年輪年代は1136年の年代が得られている。木製品は木簡が出土しており、同様の年代が考えられる。

31SE7

遺跡中心部の西側で確認された井戸跡である。長径約2.3m、短径1.7m程の不整の楕円形で深さが約5.8m程である。堆積は下層が自然堆積で、人為堆積の中層をはさみ、上層が自然堆積によるものである。焼けた土壁片の出土が特徴的で、中層の人為堆積層にも含まれる。かわらけの出土が多い木製品は折敷加工片とみられる板片や、格子など多く出土している。かわらけの特徴から12世紀第4四半期と考えられる。文字資料は付札状の木簡が出土している。また、墨痕はないが削屑が出土している。文字資料もかわらけ等と同様の年代が考えられる。

41SE4

遺跡の西側で確認された井戸跡で、径約2m程の円形で深さが約3.1m程である。人為堆積により埋め戻されている。かわらけが出土しているほか、下駄や部材、箸などの木製品が出土している。文字資料は呪符が出土している。かわらけの出土が少なく、年代は不明だが、12世紀後半代とみられる。

49SE1

遺跡の北東側で確認された井戸跡で、径1.5m程の不整の円形で深さが約1.1mである。人為堆積で埋め戻されており、かわらけが多量に出土している。12世紀第3四半期ころと考えられる。文字資料は荷札状の木簡が出土している。かわらけ等と同じ人為堆積層から出土しており、同様の年代が考えられる。

50SE3

遺跡の北側で確認された井戸跡で、径約2m程の不整円形で深さが約3m程である。堆積は下層は人為堆積だが、中層以上は人為堆積と自然堆積とがある。かわらけが多量に出土しているほか、完形の白磁四耳壺が出土している。文字資料は折敷再加工作品を含む木簡類、銅印「磐前村印」が出土している。文字資料では折敷の再加工作品に漢字と平仮名混じりの文字が記された資料など木製品が多く出土している。かわらけの特徴から、12世紀第3四半期後半ころと考えられる。

52SE8

遺跡の北側で確認された井戸跡で、径約2m程の不整円形で、深さが約4m程である。堆積層は人為堆積層で構成され、遺物は最下層の9・10層から多量のかわらけや国産輸入の陶磁器類、瓦が出土しているほか、7・8層から板材や部材が出土している。その上の6層では焼けた土壁片が多く含まれる。かわらけは手づくねかわらけが大半を占め、特徴から12世紀第4四半期と考えられる。遺跡内でも新しい時期の特徴をもつ土器群である。木製品の年輪年代では9層から出土した折敷で、1186年の年代が得られている。文字資料は最下層の9・10層から7層にかけて出土し、墨書かわらけや折敷片などの木簡類、刻書木簡があり、同様の年代が考えられる。

55SE1

遺跡の中央部で確認された井戸跡で、長径が約3.2m程、短径が約2.8m程の楕円形で、深さが約8.5m程と遺跡内でももっとも深い井戸跡である。井戸枠が確認されている。遺物は上層の堆積土から多量に出土している。出土遺物はかわらけのほか、国産陶器を少量含み、漆器碗や箸、扇骨などの木製品も下層から出土している。かわらけはロクロかわらけのみで構成され、12世紀第2四半期ころと考えられる。文字資料は木簡が出土しており、同様の年代が考えられる。

55SK43

遺跡の北側で確認された井戸跡で、長径約1.6m程で短径約1.2m程、深さが約2.6m程である。人為堆積で埋め戻されており、かわらけ等が含まれている。遺物はかわらけや青磁、折敷等が出土している。文字資料は木簡が出土しており、12世紀第3四半期後半ころと考えられる。

3) 園池跡(23SG1)

23SG1は柳之御所遺跡の中心的な範囲と考えられている大型の掘立柱建物跡(28SB2、28SB4ほか)が確認されている範囲と隣接した堀内部地区の中央やや南西寄りの場所で確認されている。当初の調査では2時期での変遷として捉えているが、その後の調査によりⅠ～Ⅲ期の3時期に区分して理解している。

Ⅰ期はトレンチ調査で確認したもののため全体形は不明だが、南北に細長く全長が42m、幅が23mと推定している。Ⅰ期の園池は基本的には地山を掘りこんで造られているが、汀線付近では盛土地業が行われている場所もある。池底は地山面を平坦に成形しており、部分的にⅠ期園池存続時の堆積土とみられる薄い堆積層が残存している。この時期の園池には景石や礫敷きの痕跡は確認されていない。西側に排水溝31SD58が連結し、現状では西側に30m程延びる。幅は1m、深さは最大0.7mの掘りかたに、側板を幅0.5mに据えて暗渠としている。導水施設の可能性もあるが、底面の標高差や堀との高さの違いなどから、排水溝と捉えている。64SX1橋跡が確認されている。なお、導水施設は見つかっていない。

Ⅱ期は中島を有する園池で、園池南西部は後世の削平によって破壊されており現状では残存していないが、部分的な痕跡が確認できることから全周すると考えている。平面形は南北に細長く、全長42m、最大幅35mである。Ⅰ期園池の堆積土に盛土を行って、基盤が形成されていることを確認している。したがって、地山が露出する部分が一部にあるが、基本的には池底から岸にかけて盛土になる。調査時では直径10～20cm前後の円礫が部分的に残されており、基本的に全面に円礫が葺かれていたと推定している。この礫群は盛土の中に設置されている。また、原位置を保つものは少ないが、景石が中島の北側を中心に配されている。池底にはまたいくつかの石組みが確認できる。中島は南北25m、東西12mと広い面積をもつが、中島上には園池の存続時期の遺構は確認していない。排水溝は園池南側に連結する31SD59を想定している。

Ⅲ期は、単にⅡ期園池が廃絶した後の状態をさしており、複数の溝跡として確認されている。不確実な状態だが、Ⅲ期の時期決定が難しく、12世紀に存続している可能性を否定しきれないことや、南端部が人為的に塞がれていることから遺構として便宜的に設定しているからである。

遺物はかわらけ、国産陶器、輸入陶磁器が出土しているほか、瓦がまとまった量出土している。木製品は少ないが、文字資料として将棋駒が出土している。将棋駒はⅢ期となる溝跡から出土しており、12世紀後半を含むそれ以降の年代と捉えられる。

4) 土坑・柱穴

21SK37

遺跡の南端部で確認された土坑で、径約1.2m程の不整の円形で深さは約0.7m程である。遺物はかわらけや炭化材が出土し、文字資料は刻書土器が出土している。年代は詳細は不明で12世紀代としておく。

21SK55

遺跡南端部で確認された土坑で、径約1.3m程で深さが約1.5m程である。人為堆積で埋め戻されて

おり、かわらけのほか、折敷や曲げ物などの木製品が多量に出土している。かわらけの特徴から12世紀第3四半期ころと考えられる。木製品は削屑が出土しており、同様の年代が考えられる。

28SK17

遺跡の中心部とみられる範囲で確認された土坑で、一辺が約1.3m程の隅丸方形で、深さが約1.6m程である。下層は自然堆積だが、中層以上は人為堆積による。かわらけが多く出土しているほか、国産、輸入の各陶磁器類が出土している。12世紀第3四半期ころと考えられる。文字資料は墨書かわらけが出土しており、同様の年代が考えられる。

28SK18

遺跡の中心部と考えられる範囲のやや東側で確認された土坑で、一辺約1m程の方形で深さが約1.6m程である。人為堆積で埋め戻されており、かわらけの他、水晶が出土している。12世紀第3四半期後半から第4四半期と考えられる。文字資料は墨書かわらけが出土しており、同様の年代が考えられる。

31SK80

遺跡の中心部からやや西側で確認された土坑で、径約1m程の円形で深さが約1.6m程である。人為堆積の土層で、下層からはウリ科種子や籾木が出土しており、トイレ状土坑と考えられる。12世紀第3四半期後半から第4四半期と考えられる。文字資料は折敷の再加工品と折敷片が出土しており、同様の年代が考えられる。

36SK8

遺跡の中心部からやや西側の中央部付近で確認された土坑で、径約1.3m程の円形で、深さが約1.6m程である。ウリ科種子や籾木が含まれる人為堆積層で埋め戻されており、トイレ状土坑と考えられる。12世紀第3四半期ころと考えられる。文字資料は折敷を再加工したとみられる籾木が出土している。戯画の可能性もあるが裁断されており不明である。かわらけ等と同様の年代が考えられる。

41SK7

遺跡の南東端部で確認された土坑で、一辺約1.1m程の隅丸方形で、深さが約1.3m程である。ウリ科種子や籾木が含まれる人為堆積層が確認でき、トイレ状土坑と考えられる。かわらけや木製品のほか、手斧も出土している。かわらけの特徴から12世紀第4四半期と考えられる。木製品は折敷を再加工した籾木の可能性もある木片が出土しており、同様の年代が考えられる。

52SK11

遺跡の北側で確認された土坑で、一辺約1.2m程の方形で深さが約1.8m程である。堆積土に籾木が多量に出土しており、トイレ状土坑とみられる。かわらけや国産陶器、瓦のほか、籾木などの木製品が出土している。かわらけは12世紀第4四半期頃と考えられる。文字資料は墨書かわらけが出土しており、同様の年代が考えられる。

55SK29

遺跡の北側で確認された土坑で、径約1.6m程で深さが約2.2m程である。堆積はローム等を含む人為堆積の土層が含まれる。かわらけや板片が出土しており、12世紀第4四半期ころと考えられる。文字資料は折敷の再加工品とみられる木簡が出土しており、同様の年代が考えられる。

70SK22

遺跡の北側で確認された土坑で、長径94cm、短径82cm、の円形で深さが290.9cmである。底面標高は24.7mとなる。平面形は円形で、断面形は矩形・台形である。堆積土の状況では4～6層が有機質分の多い土層で、かつ6層では籾木を大量に含んでいることから、トイレ状土坑と判断できる。堆積土最下層の7層は井戸跡などと同様の土質で、井戸を廃絶後にトイレ状土坑として転用した遺構と判

断できる。なお、柳之御所遺跡内では、井戸跡をトイレ状土坑に転用したと考えられるものは55SK51、56SK33があり、いずれも深さが3 m程度である。遺物はかわらけ、陶磁器類のほか、籌木を中心に木製品が多量に出土した。文字資料は折敷片を籌木に転用したものに記載されており、切断状況などから折敷の使用時に記されたものであることがわかる。

55SB11-P1071

遺跡北側で確認された2×5間の2面庇建物跡を構成する柱穴で、線刻のある渥美壺が出土している。軸方向などから、建物遺構の年代は12世紀第3四半期ごろと考えられる。

3. 遺構の分布と時期

文字資料が出土した遺構は井戸跡16基、土坑10個、池跡、堀跡などである。堀内部地区内の分布を示した(図35)。遺跡の全体から広く出土しており、分布が集中する様相はみられないが、遺跡の中心部と考えられる28SB2や28SB4などの大型の掘立柱建物跡が位置する範囲に近接して多くの資料が比較的確認されていることがわかる。また遺跡の北側にあたる範囲では文字資料が出土した遺構自体は少ないが、50SE3では文字資料が複数点とまとまって出土している。一方で、中心部の範囲でも点数は各遺構から数点ずつと遺構ごとにみると含まれる資料が少ない遺構が多い。

これらの出土状況の差は遺構の時期的な特徴を示す可能性もあるが、12世紀中葉の28SE16などでも多くの点数が確認できることから現状では時期的な特徴を強調できない。また、遺構数が少ないことから、これのみで空間的な特徴とは断定できない。点数の差異は遺構の廃絶時の性格や埋め戻し土の成因による部分が想定でき、記載内容と合わせて検討を加える必要がある。

また、文字資料の種別にみると、柳之御所遺跡内からは折敷片など板状の木簡類に記載されたものが多く、古代の遺跡で多数報告される木簡などの削屑が少ないことがわかる。この点は遺跡内の木製品の利用形態や時期的な特徴が考えられる。また、削屑が出土した遺構が遺跡中心部と捉えられる範囲に限定されることは、調査時の取り上げの精粗に由来する可能性は残るが、遺跡内の場の使い分けを考える上で注目される。遺跡内から出土した文字資料では折敷の再加工品で確認できる資料が多い。これらの多くは折敷の棧が外されるなどの加工を経たうえで記載され、その後に切り取り等の再加工を受けて他の製品として利用され、廃棄された状況で出土している。

文字資料が出土した遺構は、井戸跡や土坑が多く、その他に池跡や堀跡から出土している。遺跡内では出土遺構の時期をみると、12世紀前半とみられる遺構は1基、12世紀中葉とみられる遺構は6基であるが、12世紀後半とみられる遺構は堀跡や池跡を含めて26基となる。出土遺構の多くが人為堆積であることから廃棄年代を示すものと考えられるが、12世紀後半以降に文字資料が増加することが考えられる。これは12世紀後半に遺跡内の遺構の時期や遺物量が増加することに伴うとみられるが、遺跡の性格など注目される。一方で、12世紀中葉以前の文字資料が含まれることも遺跡の機能を考える上で注目できる。

4. ま と め

柳之御所遺跡において文字資料が出土した遺構をまとめた。文字資料が出土した遺構は井戸跡などが多く、分布は遺跡全体に広がるが、その中でも遺跡の中心的な機能を果たしたと考えられる大規模な掘立柱建物跡などが所在する範囲に多いことがわかる。出土遺構の性格をみると、井戸跡からの出土が多く、その他トイレ状土坑などからも出土している。自然堆積の土層から出土した資料もみられ

るが、多くの文字資料は埋め戻しなどに伴う人為堆積の土層からかわらけ等の他の遺物とともに出土している。

遺構の年代は、遺跡内における遺構の年代ごとの多寡にも影響されるが、12世紀後半の資料が多く、12世紀前半から中葉の遺構からの出土は少ない。

文字資料は記載内容、出土状況、遺物の様相など多面的な特徴をもっており、今回まとめたものはその属性のうちのひとつである。今後、記載内容の検討や資料自体にみられる加工の痕跡など、文字資料自体の属性と合わせて検討することで、その性格や意義付けを示すことができるものと考えている。文字資料の記載内容の検討を進めており、それと合わせて提示していきたい。

(櫻井)

引用文献

- 愛知県史編さん委員会 2012 『愛知県史 別編 窯業3 中世・近世 常滑系』
- 岩手県教育委員会 2003 『柳之御所遺跡－第56次発掘調査概報－』岩手県文化財調査報告書第117集
- 岩手県教育委員会 2004 『柳之御所遺跡』岩手県文化財調査報告書第118集
- 岩手県教育委員会 2008 『柳之御所遺跡－第65次発掘調査概報－』岩手県文化財調査報告書第125集
- 岩手県教育委員会 2010a 『柳之御所遺跡－第69次発掘調査概報－』岩手県文化財調査報告書第130集
- 岩手県教育委員会 2010b 『柳之御所遺跡－第Ⅰ期保存整備事業報告書－』岩手県文化財調査報告書第131集
- 岩手県教育委員会 2011 『柳之御所遺跡－第70次発掘調査概報－』岩手県文化財調査報告書第133集
- 岩手県教育委員会 2012 『柳之御所遺跡－第72次発掘調査概報－』岩手県文化財調査報告書第135集
- 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 1995 『柳之御所跡』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第228集
- 岡陽一郎・阿部勝則・小岩弘明・時田里志・七海雅人・平田光彦 2012 「平泉出土文字資料の再検討 その1」『平泉文化研究年報』第12号 pp.17-24
- 太宰府市教育委員会 2000 『大宰府条坊跡XV－陶磁器分類編－』太宰府市の文化財第49集
- 平泉町教育委員会 1993 『柳之御所跡発掘調査報告書－第35次調査概報－』岩手県平泉町文化財調査報告書第32集
- 平泉町教育委員会 1993 『平泉遺跡群範囲確認調査報告書－柳之御所跡第38次・39次・40次発掘調査－』岩手県平泉町文化財調査報告書第33集
- 光谷拓実 2006 「柳之御所遺跡出土木製品の年輪年代測定結果」『柳之御所遺跡－第59次発掘調査概報－』岩手県文化財調査報告書第121集
- MIHO MUSEUMほか 2010 『古陶の譜 中世のやきもの』
- 宮城県多賀城跡調査研究所1979 『多賀城漆紙文書』宮城県多賀城跡調査研究所資料Ⅰ
- 宮城県多賀城跡調査研究所2011 『多賀城跡木簡Ⅰ』宮城県多賀城跡調査研究所資料Ⅱ
- 八重樫忠郎 2001 「中世前期の時間軸としての遺物」『平泉文化研究年報』第1号 pp.37-46
- 八重樫忠郎 2010 「消費地からの渥美編年」『渥美半島の考古学』小野田勝一先生追悼論文集 pp.289-299
- 柳之御所遺跡調査事務所 2008 「柳之御所遺跡堀内部地区の遺構変遷(中間報告 その4)」『平泉文化研究年報』第8号 pp.65-75

表13 文字資料出土遺構一覧

番号	次数	遺 構			文字資料の種類										その他
		名称	性格	時期	墨書土器		墨書木製品				刻書資料				
					かわ らけ	その他	折敷	板 (折敷再加 上含む)	笹塔婆	呪符	将棋駒	削屑	土器	木製品	
1		21SD1・ 41SD2	内側の堀跡	12世紀後半	4	1		2	2						
2		21SD2・ 56SD39	外側の堀跡	12世紀後半				2							
	69	69SX3						1							
3	23	23SG1	池跡	12世紀後半							2				
4	21	21SE2	井戸跡	12世紀後半				4							
5	21	21SE3	井戸跡	12世紀後半	2										
6	21	21SE4	井戸跡	12世紀後半		1									
7	28	28SE2	井戸跡	12世紀中葉			1	4						1	
8	28	28SE4	井戸跡	12世紀中葉	1			1				3			
9	28	28SE5	井戸跡	12世紀中葉	1			1							
10	28	28SE11	井戸跡	12世紀後半								1			
11	28	28SE12	井戸跡	12世紀後半				1							
12	28	28SE16	井戸跡	12世紀中葉			3			2		1			
13	28	28SE17	井戸跡	12世紀後半				1							
14	31	31SE2	井戸跡	12世紀				1							
15	31	31SE7	井戸跡	12世紀後半				1							
16	41	41SE4	井戸跡	12世紀後半						1					
17	49	49SE1	井戸跡	12世紀中葉				1							
18	50	50SE3	井戸跡	12世紀後半			1	9							1
19	52	52SE8	井戸跡	12世紀後半	1		1	5							
20	55	55SE1	井戸跡	12世紀前半				1							
21	55	55SK43	井戸跡	12世紀後半				1							
22	21	21SK39	土坑	12世紀後半									1		
23	21	21SK55	土坑	12世紀中葉								1			
24	28	28SK17	土坑	12世紀	1										
25	28	28SK18	土坑	12世紀後半	1										
26	41	41SK7	土坑	12世紀後半				1							
27	52	52SK11	土坑	12世紀後半	1										
28	55	55SK29	土坑	12世紀後半				2							
29	31	31SK80	トイレ状遺構	12世紀後半			1	1							
30	36	36SK8	トイレ状遺構	12世紀				1							
31	70	70SK22	トイレ状遺構	12世紀後半			1	9							
32	55	P1071 (55SB11)	柱穴	12世紀後半									1		

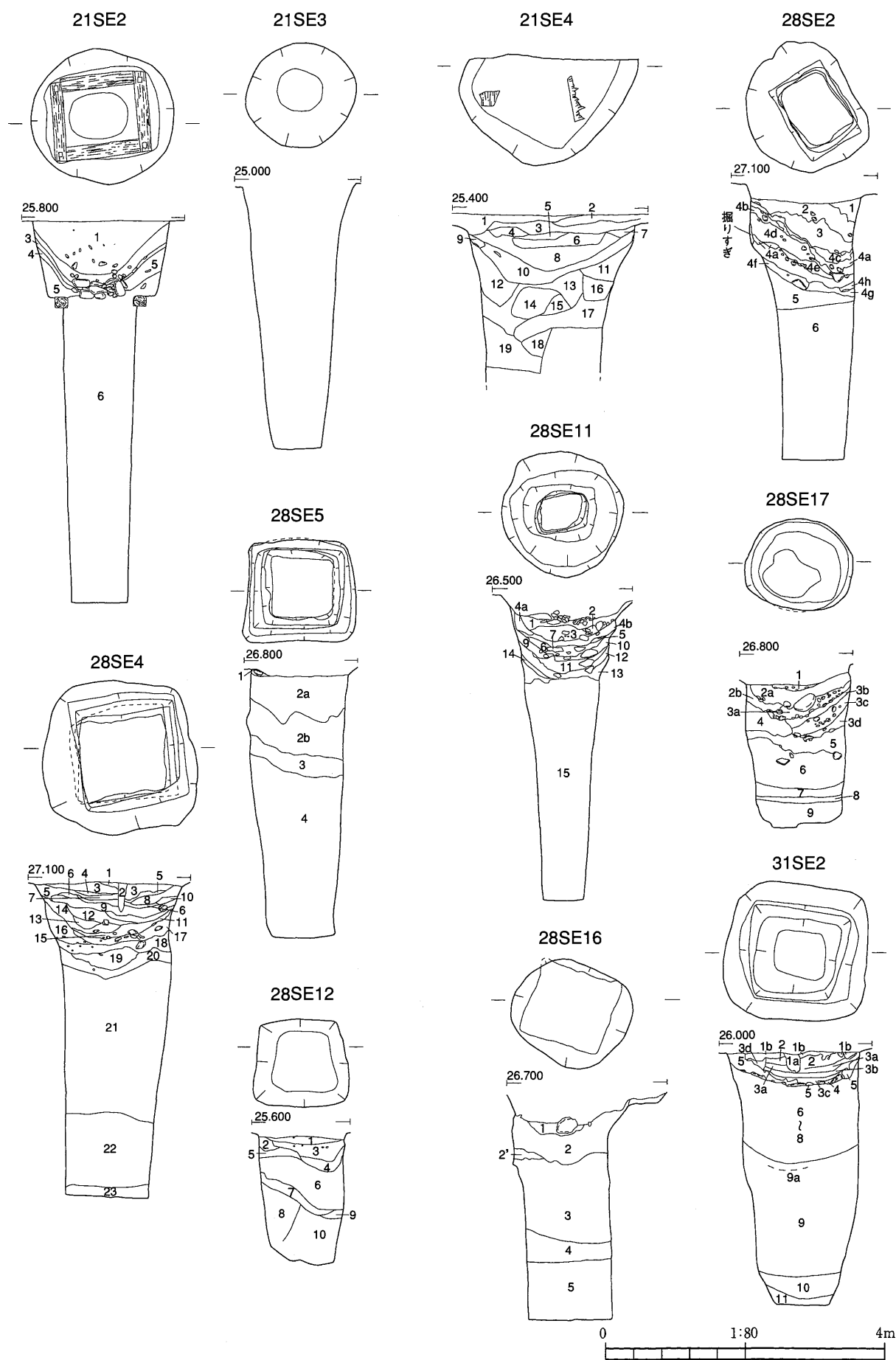


図36 文字資料出土遺構図1

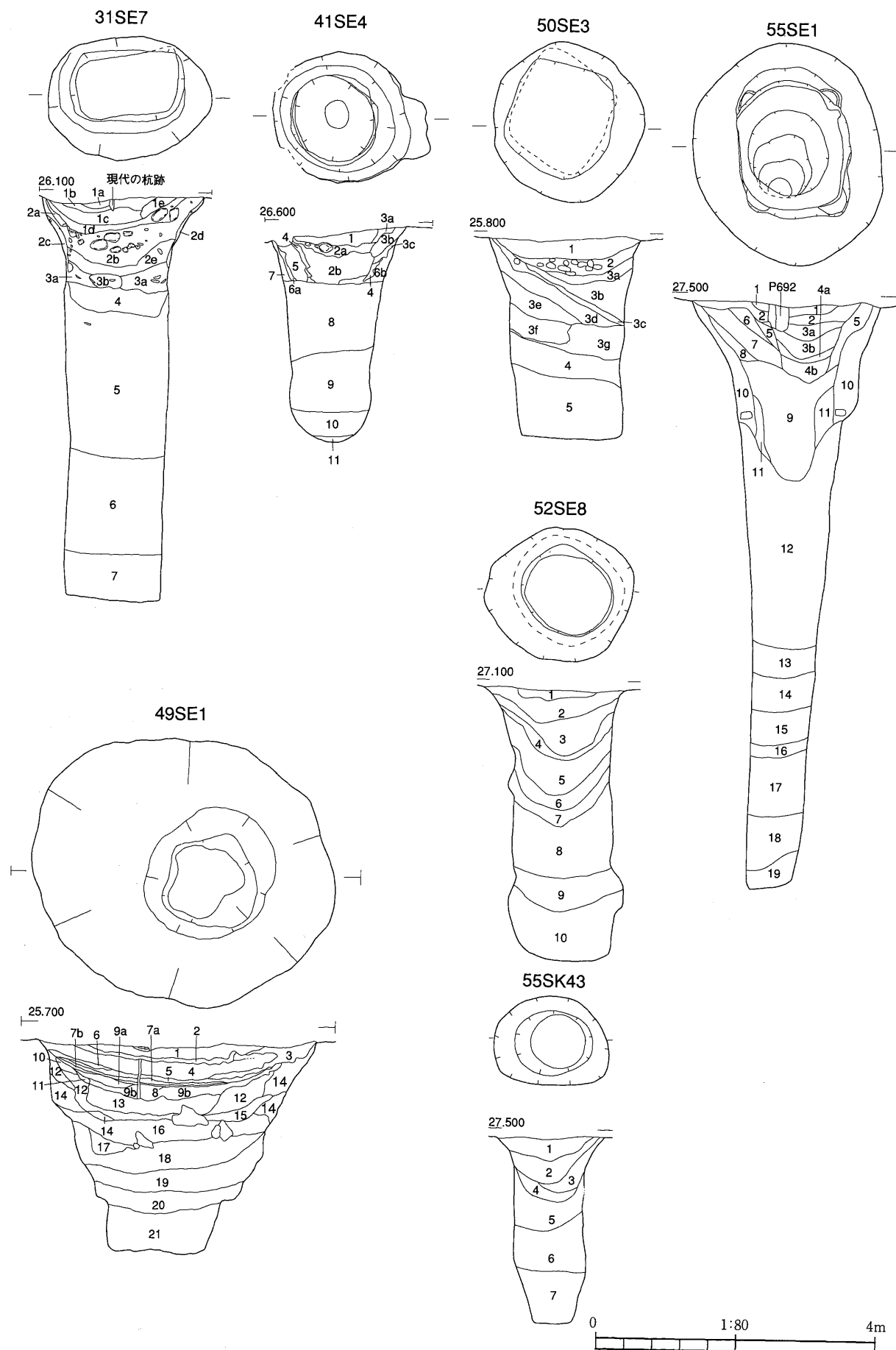


図37 文字資料出土遺構図 2

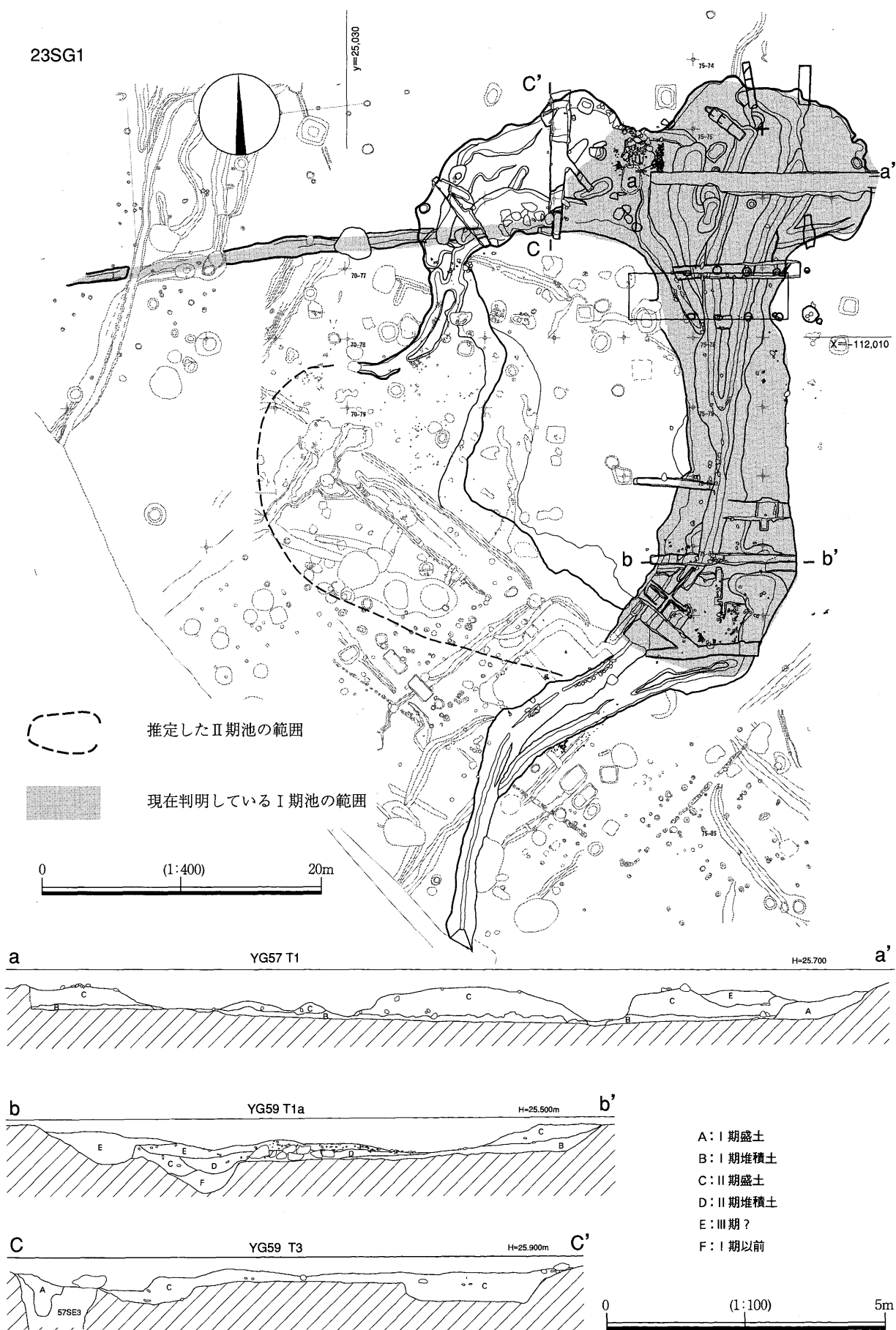


図38 文字資料出土遺構図 3

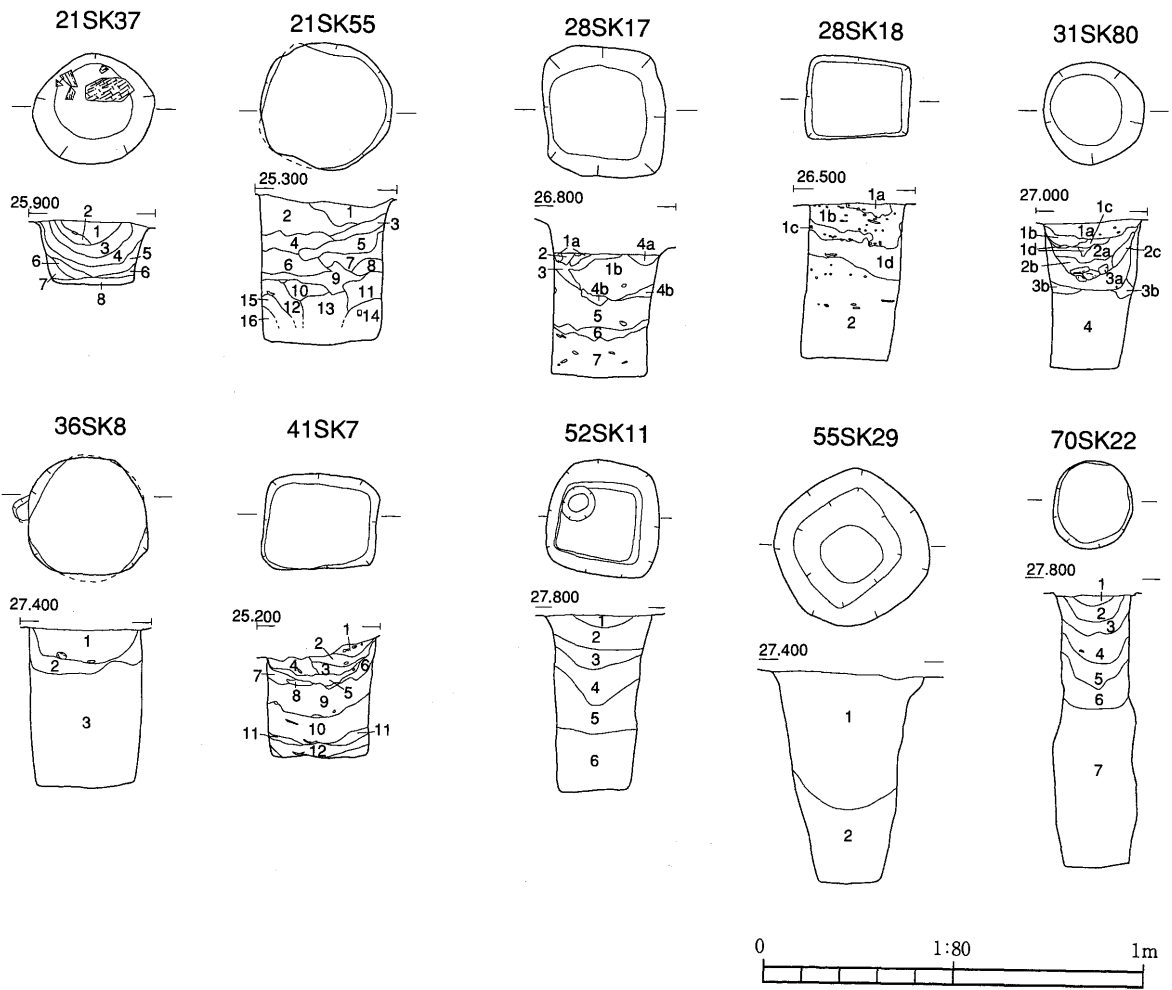


図39 文字資料出土遺構図 4